

点検整備と安全のため

インディアンFTRライダーズ マニュアル



2023



警告

本書および製品に貼付されているラベルに記載されている指示事項および安全対策のすべてを熟読し、それに従ってください。

安全対策を守らない場合、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。



警告

乗用車両およびオフロード車両の運転、整備、およびメンテナンスを行う際、エンジン排気、一酸化炭素、フタル酸エステル、および鉛などの化学物質に暴露されることがあります。これらは、ガンおよび先天性欠損症、またはその他の生殖への危害の原因になることが知られています。暴露を最小化するため、排気の吸引を避け、必要以上のアイドリングをせず、車両の整備は十分に換気された場所で行い、作業時にはグローブを着用するか頻繁に手を洗ってください。

詳細については、www.P65Warnings.ca.gov/passenger-vehicleを参照してください。最寄りの正規販売店は、www.indianmotorcycle.comに記載されています。



2023ライダーズマニュアル

インディアンモーターサイクル FTR
インディアンモーターサイクル FTR Rally
インディアンモーターサイクル FTR Sport
インディアンモーターサイクル FTR R Carbon

本書に含まれている全内容は、刊行時点で入手できる最新の製品情報を基にしています。製品の改良やその他の変更により、本書と実際のモーターサイクルに違いが生じることがあります。本書内の叙述や手順は、純粋に参考とすることを意図したものです。

誤記脱漏による責任は一切負いかねます。インディアンモーターサイクルは、いつでも事前通知なく本書の内容を変更する権利を留保します。また、その場合に、それ以前に製造されたモーターサイクルへの同一または同様の変更を行う義務は負いません。本書記載の記述や手順の複写または再生は、全体的であるか部分的であるかを問わず、明確に禁じます。

特に記載がない限り、登録商標はIndian Motorcycle International, LLCの所有物です。

Ride Command®はPolaris Industries Inc.の登録商標です。Dunlop®はDNA (Housemarks) Limitedの登録商標です。BatteryMINDER®はVDC Electronics, Incの登録商標です。iPhone®, Apple®, App Store®, およびApple CarPlay®はApple Incの登録商標です。iOS®はCisco Technology, Incの登録商標です。Google Play®はGoogle, Incの登録商標です。Bluetooth®はBluetooth Sig, Incの登録商標です。Garmin®は台湾のGarmin Corporationの登録商標です。AXALTA®は、Axalta Coating Systems IP Coの登録商標です。Pirelli®, Scorpion®, Metzeler®, およびSportec®はPIRELLI TYRE S.P.Aの登録商標です。NGK®はNGK Spark Plug Co., LTDの登録商標です。

このたびはインディアンモーターサイクルをお買い上げくださり誠にありがとうございます。インディアンモーターサイクルを選んだライダーは、アメリカの歴史の一部として大変有名なモーターサイクルを所有する選ばれたファミリーの一員なのです。

お買い上げのモーターサイクルは、設計、開発、組み立て各チームによる献身的クラフトマンシップの結晶です。将来長きにわり、トラブルフリーでお乗りいただける高品質のモーターサイクルを提供するという目標を満たすよう設計製造されています。各チームがお客様のために行ったのと同じくらい、お客様が誇りを持ってライディングを楽しまれることを願っております。

この取扱説明書は、全内容を熟読するよう特にお願いいたします。この取扱説明書には、愛車の安全な走行と適切なメンテナンスに不可欠の内容が記載されています。

お買い上げのインディアンモーターサイクル正規販売店は、お使いのモーターサイクルについて熟知しております。整備などお手伝いできることがある場合はご遠慮なくご連絡ください。モーターサイクルに重要な修理や整備の必要がある場合も、高度な技術を備えた有資格のテクニシャンが先進的な機器と方法を駆使して、最良の作業を実施します。

インディアンモーターサイクルは、アメリカ合衆国、州、販売対象地域の安全規則および排出規制をすべて遵守しています。

安全に関するシンボルと用語

本書の全体を通じて、下記の用語とシンボルが使用されます。この用語とシンボルが使用されている場合、お客様およびその他の方の安全に関係します。本書を読む前に、その意味に精通しておいてください。



「危険」は、避けられない場合に死亡事故または重傷事故の原因になる危険な状況を意味します。



「警告」は、避けられない場合に、運転者、付近の人、または点検整備担当者の死亡につながるおそれのある危険な状況を意味します。



「安全上の注意」は、人員の軽度の負傷や車両の損害につながる可能性がある潜在的な危険を意味します。

重要

「重要」は、構成部品の分解、組み立て、および点検中の重要な注意事項を意味します。

注目

「注目」は、指示を明確にして重要な情報を提供します。

ヒント

「ヒント」はちょっとしたアドバイスや信頼できる指示を提供します。

はじめに	7
安全について	9
安全上の不具合の報告	18
各機能と操作部	21
ライドコマンド(装備車の場合)	41
走行前点検	55
運転操作	67
点検整備	79
トラブルシューティング	147
清掃と保管	151
車両諸元	157
保証	165
点検整備記録	175

はじめに

サービスおよび保証について

手順の中には、本書の適用範囲を超える場合があります。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルの購入については、正規販売店にご相談ください。サービスマニュアル記載の手順には、特別な専門知識、機器、および技術研修が必要な場合があります。お使いのモーターサイクルに何らかの整備作業を行う場合、必要な技術的スキルと工具をお持ちが、事前に確認してください。ご自身の技術的な知識経験を超えるレベルの整備作業または特殊な機器を必要とする整備作業の場合、正規販売店に作業をお任せください。

米国外で使用する車両

米国およびカナダ以外の国で車両を使用する場合は、次の点にご注意ください：

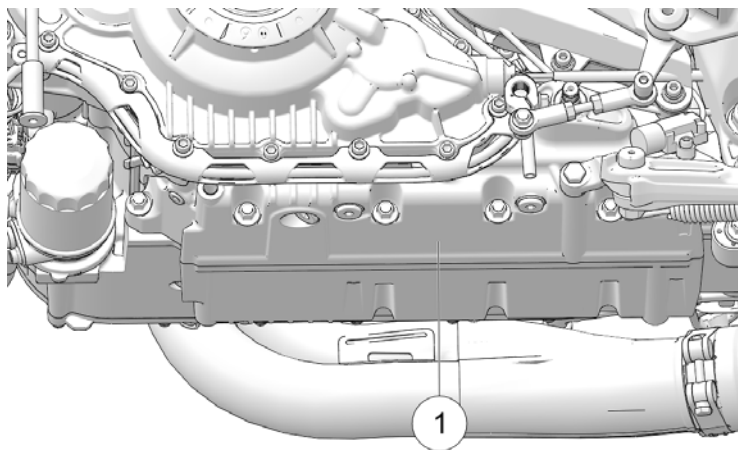
- 整備工場の利用や交換部品の入手が容易ではない場合があります。
- 無鉛ガソリンが入手できない場合があります。有鉛ガソリンの使用は、エンジンや排出ガス抑制装置の故障原因になり、これに起因する故障などに保証は適用されません。
- ガソリンのオクタン価が極めて低い場合があります。不適切な燃料の使用は、エンジン破損の原因になることがあります。

キー番号

キー番号は、キーリングに取り付けられた金属製タグに刻印されています。何らかの理由でイグニッションキーの再生が必要になった場合、インディアンモーターサイクル正規販売店にキー番号をお知らせ下さい。

エンジン番号

エンジン番号①は、左クランクケース底面のサイドスタンド近くに刻印されています。



車台番号記録

下記に車両に関する重要な番号を記録しておいてください。

車台番号 (VIN)	
エンジン番号	
イグニッションキー番号	

はじめに

カナダ産業省ICES-002 (妨害源機器規格)

この車両は、カナダ産業省規格ICES-002に適合しています。

タッチスクリーン画面コンプライアンスステートメント

注目：この装置は、FCC規則第15部、およびカナダ産業省認証免除RSS基準に準拠しています。動作には下記の2条件が適用されます：(1)この装置による電波干渉は発生してはならない、(2)この装置は、予期しない動作を引き起こすおそれのあるものを含め、受信する電波干渉を受容しなければならない。

RSS-Gen Section 8.4に従い、この装置は、カナダ産業省認証免除RSS基準に準拠しています。動作には下記の2条件が適用されます：

(1)この装置による有害な電波干渉は発生してはならない、(2)この装置は、この装置の予期しない動作を引き起こすおそれのあるものを含め、電波干渉を受容しなければならない。

Polaris Internationalはここに、この車載表示装置の無線機器は下記の欧州指令を遵守していることを宣言します：

- 欧州無線機器指令2014/53/EU
- 2011/65/EU RoHS 2011/65/EU (改訂)
- 2019年7月22日付けの2015/863/RoHS

EU適合宣言書全文は、<https://www.polaris.com/en-us/radio-conformity/>で入手できます。

47 CFR 15.21に従い、意図的や非意図的な放射器の取扱説明書には、法令遵守の責任を負う当事者からの明示的な許可を得ずに変更または改造を行った場合、ユーザーが本機器の使用権限を失うことがある旨を警告する文を載せるものとします。

注意

この機器は、米国連邦通信委員会 (FCC) 規則第15部に準拠しています。

上記の要求事項は、住宅地区での使用に際して有害な干渉に対する適切な保護を提供することを意図したものです。この機器は、高周波エネルギーを生成使用し、放射することもあります。指示に従わない設置や使用を行うと、無線通信に対して有害な干渉を生じる場合があります。ただし、ある具体的な設置状況において、干渉が生じないことを保証するものではありません。

注意

ラジオまたはテレビの受信に対してこの機器が有害な干渉を生じているかどうかは、本機器の電源の入/切を行うことで判定できます。有害な干渉を生じている場合は、下記の対策のいずれかまたは複数を実施することで、干渉の修正を試みてください：

- 受信アンテナの方向や位置の変更。
- 本機器と受信機の距離を大きくする。
- 本機器の電源を、受信機が接続されている電源回路とは別の回路のコンセントに接続する。
- 正規販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に依頼する。

法令遵守を担当する当事者からの明示的な許可を得ないで本機器の変更または改造を行った場合、ユーザーは本機器の使用権限を失うことがあります。

安全について オーナーズマニュアルについて



警告

指定される予防措置と手順のすべてに従わない場合、重篤な傷害や死亡の原因になることがあります。常に安全のための予防措置のすべてに留意し、本書に記載されている操作手順、点検手順、メンテナンス手順のすべてに従ってください。

本書中の、「前後左右」を表す表記は、通常のライディングポジションに着座したライダーの視点を基準とします。本書をお読みになった後にモーターサイクルの操作またはメンテナンスについてご不明点ご質問がある場合は、正規販売店にお問合せください。最寄りのインディアンモーターサイクル正規販売店の所在地については、インディアンモーターサイクルのウェブサイト (www.indianmotorcycle.com) をご覧ください。

このページの最初の部分にある安全についてのセクションを熟読し、その内容を理解しておいてください。走行中または保管中のモーターサイクルを最良の状態に維持するため、82ページから始まるメンテナンスセクションに記されている手順を理解し、それに従ってください。

走行する際には本書を携行してください。本書に記載の予防措置と手順を守ることで、楽しく安全に走行できます。このオーナーズマニュアルを紛失、または破損した場合は、インディアンモーターサイクル正規販売店から新品を入手してください。オーナーズマニュアルは、モーターサイクルと一体のものに見なしてください。モーターサイクルを譲渡する場合も、モーターサイクルに添付しなければなりません。

安全な運転方法



警告

このモーターサイクルを目的外に使用すると、重傷や死亡を伴う事故の原因になることがあります。この危険性を最小化するには、モーターサイクルを使用する前に、このセクションの内容をよく読み、理解しておいてください。このセクションには、インディアンモーターサイクル特有の安全情報に加えて、モーターサイクル一般の安全に関する内容が記載されています。モーターサイクルに乗車する人（ライダーおよびパッセンジャー）は、ここに記された安全上の予防措置に従わなければなりません。

モーターサイクルの走行に伴う危険要因

この危険要因を最小化することはできますが、完全に排除することはできません。経験豊富なライダーやパッセンジャーでも、モーターサイクルを走行させる前にライダーズマニュアルの安全情報をすべて熟読しなければなりません。

- 有資格のインストラクターによるライダー研修教程を受講してください。この種の教程は、座学と実習を通して、安全なライディング習慣についての専門的知識を高め、リフレッシュするのに役立ちます。
- 本書を熟読し内容をよく理解しておいてください。
- 本書に指定されている定期メンテナンス項目に従ってください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

安全について

安全な運転方法は、車両の設計特性に影響されることもあります

- このモーターサイクルはライダー1名（パッセンジャー用シート装備車の場合はさらにパッセンジャー1名）が乗車して、舗装路またはグラベル路を走行するよう設計されています。車両総重量または最大軸重は絶対に超えないようにしてください。モデルごとの情報については、仕様の章か、モーターサイクルのフレームに貼付された製造情報/車両識別番号（VIN）ラベルを参照してください。
- オフロード走行、乗車定員以上のパッセンジャーの乗車、最大積載量を超える重量物の運搬により、ハンドリングが困難になり、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 使用開始後800kmの間は、67ページに記載されている慣らし運転の手順をすべて守ってください。慣らし運転を手順どおりに実施しない場合、エンジンに深刻な破損が生じるおそれがあります。
- サドルバッグ、ウィンドシールド、またはパッセンジャー用バックレスト装備車の場合、安定性維持のため走行速度を落とすつもりをしておいてください。

下記の安全運転のための一般的な方法に従ってください

- 走行前には毎回、走行前点検を実施してください。走行前点検を怠ると、モーターサイクルの破損や事故の原因になることがあります。
- このモーターサイクルとその操作装置に全面的に精通するまで、交通量が無いがごく少ない場所で慣熟走行をしてください。慣熟走行は、さまざまな路面と気象条件において、中程度の速度で実施してください。

- ご自身の運転技術と限界を理解し、その範囲内で走行してください。
- モーターサイクルを他人に貸す場合、貸し出す相手は免許を所持した経験豊富なライダーに限ってください。また、その場合も必ず操作装置と走行に慣熟してもらってからにしてください。このモーターサイクルで走行するライダー全員が、本取扱説明書を熟読し理解しているように確実に期してください。
- 疲労、病気、またはアルコール、処方薬、売薬、もしくは違法薬物の影響下にある場合は走行しないでください。疲労、病気、アルコール、および薬物は、眠気をもたらし、調整能力やバランス能力を失わせるおそれがあります。また、状況認識や判断力にも悪影響を及ぼすことがあります。
- お使いのモーターサイクルの動作が異常な場合、直ちに問題点を修理、解決してください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。
- 防衛運転を心がけ、たとえ明るい日中であっても、他の車両が自分が見えていないと想定してください。自動車対モーターサイクルの事故の第1原因は、他車両がモーターサイクルを見ていないか認識していないことです。他の運転者から見える位置を走行し、他車両の動きを注意深く観察してください。
- 交差点は最も事故が起きやすい場所です。交差点では特に注意して走行してください。
- モーターサイクルの制御を保つため、両手がハンドルバーを握っており、両足がフットレストにある状態を保ってください。
- 速度制限に従い、走行速度と走行技術を路面、天候、および交通状況に合わせて調整してください。走行速度が上がれば上がるほど、自身以外の全条件からの影響が大きくなり、モーターサイクルの安定性に悪影響を及ぼし、モーターサイクルを制御できなくなるおそれが大きくなる場合があります。

- ステアリングロック装備車の場合、ステアリングをロックした状態でモーターサイクルを運転、または操作しないでください。ステアリングが動かないために、モーターサイクルの制御ができません。
- 次のような場合には減速してください：
 - 路面に穴が開いていたり、荒れていたり、平坦でない場合。
 - 路面に砂、泥、砂利、その他滑りやすい要因がある場合。
 - 路面が濡れている場合、凍結している場合、または油分がある場合。
 - 路面に塗装面、マンホールの蓋、金属の格子、踏切、またはその他の滑りやすい表面がある場合。
 - 強風、降雨、またはその他の滑りやすい状況をもたらす天候、または急速に変化する気象条件。
 - 交通量が多い、渋滞している、十分な車間距離が保てない、または滑らかに流れていない道路。
 - 左右いずれかを大型車両が通過し、走行風であおられる場合。
- カーブへの接近時は手前で減速し、途中でブレーキをかけることなく車線を守って通過できる速度とバンク角を選択してください。カーブでのオーバースピード、不適切なバンク角やブレーキングが、制御不能の原因になりことがあります。
- モーターサイクルのバンク角が増加すると、地面との間隔が減少します。カーブでバンクをかけている際に、車体各部を路面に接触させないでください。制御不能の原因になることがあります。
- トレーラーのけん引はおやめください。トレーラーをけん引すると、モーターサイクルのハンドル操作が困難になります。
- サイドスタンドは走行前に完全に格納してください。サイドスタンドが完全に格納されていない場合、路面に接触して制御不能の原因になります。
- 制動効果を最大化するため、前後のブレーキを同時に使用してください。ブレーキング（制動）時は、下記を認識のうえ操作してください：
 - リアブレーキは、モーターサイクル全体の制動力のうち、最大で40%を提供します。前後のブレーキを同時に使用してください。
 - ウェット路面、荒れた路面、または滑りやすいものが浮いている路面では、ホイールロックを防止するため、ブレーキを徐々にかけてください。
 - 可能な場合、旋回中の制動は避けてください。モーターサイクル旋回中、タイヤのグリップ力が低下するため、ブレーキングによりスリップの可能性が高まります。ブレーキをかける前に、モーターサイクルの車体を正立させてください。
 - 新品のブレーキパッドとローターを取り付けた場合、パッドとローターのなじみを出すため、市街地走行で500km走行させてください。その間、高速道路での巡航は避けてください。ブレーキを高頻度で使用する必要があるためです。パッドとローターなじみが出るまでの間、ブレーキ性能は通常よりも低下しています。緊急時を除き、ブレーキの過酷な使用は避けてください。この慣らし期間中に制動効率が徐々に向上します。

身体を防護するウェア

重要

負傷の危険性を減じ、走行時の快適性を高めるため、防護性のあるライダー専用ウェアを着用してください。

- 常に、所定の安全基準を満たすか超えているヘルメットを着用してください。米国およびカナダ国内では、認可ヘルメットに米国運輸省 (DOT) のラベルが貼付されています。ヨーロッパ、アジア、およびオセアニアでは、認可ヘルメットにECE 22.05ラベルが貼付されています。日本では、認可ヘルメットにPSCラベルが貼付されています。ECEマークは、文字「E」を取り囲む円の後に、認可国を示す識別番号が記載されています。認可番号と製造番号もこのラベルに表示されています。一部地域では、法律で認可ヘルメットの着用が義務づけられています。モーターサイクルが関係した事故において、最多の死因は頭部の負傷です。頭部の負傷を防止または抑制するために、最も有効な保護具は認可ヘルメットであるということは、統計的に証明されています。頭にぴったりとフィットするヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりと締めて下さい。目に見える不具合があるヘルメットや、事故/衝突時の使用歴があるヘルメットは使用できません。
- 走行風、空中の粒子、浮遊物、虫などから眼を保護するため、保護眼鏡を着用してください。フェイスシールドは事故/衝突時の保護や、風や浮遊物からの顔面の保護に有効です。一部地域では、法律で保護眼鏡の着用が義務づけられています。VESC 8、V-8、Z87.1、CEなどの認証マーク付きの個人保護具 (PPE) の着用をおすすめします。保護眼鏡は必ず汚れのない状態に保ってください。

- 他の運転者からの被視認性を向上するため、ライダーは全員、明るい色か薄い色の衣服で、できれば反射材付きのものを着用してください。自動車対モーターサイクルの事故の第1原因は、他車両がモーターサイクルを見ていないか認識していないことです。
- 万一の転倒時の擦傷、裂傷、熱傷を防止または抑制するため、グローブ、ジャケットまたはCE認定品の保護具付きの長袖のウェア、足首まで覆うつま先の閉じた靴、および長ズボンを着用してください。かかとが高いブーツはペダルやフットレストに引っかかるおそれがあるため、使用しないように注意してください。ブーツとズボンの組み合わせは、脚、足首、および足を完全に覆い、エンジンと排気系統の熱から皮膚を保護するものをご使用ください。
- ゆるくバタつく衣服や長い靴紐は、ハンドルバー、レバー、フットレストに引っかかったりホイールに巻き込まれたりすることがあります。この場合、モーターサイクルの制御が失われて、重傷事故の原因になるため、着用しないでください。

アンチロックブレーキシステムの反応

制動時にアンチロックブレーキが作動すると、ライダーはブレーキレバーに反動を感じます。その場合も、最大制動能力を発揮するため、同じ力でブレーキをかけ続けてください。

パッセンジャーの乗車

**警告**

モーターサイクルにパッセンジャー用のシートとフットレストがない限り、パッセンジャーを乗車させないでください。

- モーターサイクルの車両総重量または最大軸重を超過しないでください。モデルごとの情報については、この説明書の仕様セクションが、モーターサイクルのフレームに貼付された製造情報/車台番号 (VIN) ラベルを参照してください。
- 必要に応じて、乗車時の高さを調整してください。詳細については、「リアショックプリロード (乗車時の高さ) の点検」のセクションおよび「リアショックプリロード (乗車時の高さ) の調整」のセクションを参照してください。
- パッセンジャーには、乗車中ライダーにつかまるかパッセンジャーハンドグリップを両手で握り、両足をパッセンジャーフットレストに載せておくよう指示してください。両足をパッセンジャーフットレストにしっかりと付けられないパッセンジャーは乗車させないでください。適切に身体を保持できないか、パッセンジャーフットレストに足が届かないパッセンジャーの場合、身体が不規則に移動する可能性があります。そのため、モーターサイクルの操舵が困難になり、制御が失われるおそれがあります。

- 走行開始前に、パッセンジャーが安全な乗車要領を理解しているか確認してください。パッセンジャーがよく分かっていない安全情報がないか、話しあってください。安全な乗車要領に注意をそらす、またはモーターサイクルの操舵が困難になるような動きをすることがあります。
- パッセンジャーの体重によって生じるモーターサイクルのハンドリング、加速、および制動の相違を補うように、運転操作方法を調整してください。運転操作方法を変えないと、制御が不能になるおそれがあります。

アクセサリーの使用

インディアンモーターサイクルは、アフターマーケットアクセサリー及びその組み合わせの全てについてテストを行ない、特別な指定や推奨をすることができません。そのため、何らかのアフターマーケットアクセサリー装着やこれによる重量増加がモーターサイクルの走行安全性に与える影響と、装着判断の責任は、モーターサイクルの使用者・運転者にあります。お好みに応じてアクセサリーを取り付ける場合は、下記の手引きに従ってください：

安全について

- ライダーの視野またはモーターサイクルの安定性、ハンドリング、または走行を阻害するアクセサリーは取り付けないでください。アクセサリーを取り付ける前に、下記に該当しないことを確認してください：
 - モーターサイクルの正立時またはバンク時の地上高が小さくなる。
 - サスペンショントラベルまたは操舵角、もしくはライダーの制御能力を制限する。
 - ライダーを通常のライディングポジションから移動させる。
 - ライトまたはリフレクターを覆い隠す。
- かさばる、重い、または大きなアクセサリーは、（走行風によるリフト効果やバフエッティング〔不規則な揺れ〕により）、モーターサイクルを不安定、または制御不能の原因になるおそれがあります。
- モーターサイクルの電気系統の能力を超える電装系アクセサリーは取り付けないでください。標準装着品より高いワット数の電球は絶対に取り付けしないでください。電氣的故障により、危険なエンジン出力低下、または灯火の明るさの低下が生じ、電気系統の破損の原因になることがあります。詳細については、電気系統の予防措置を参照してください。
- お使いの車種専用設計されたインディアンモーターサイクル純正アクセサリー以外は使用しないでください。
- モーターサイクルの車両総重量または最大軸重を超過しないでください。

改造

標準装備品の取り外し、または弊社未承認の後付け機器による改造を行うと、保証が無効になります。また、使用する国または地域内により、適法でない改造があります。上記についてご不明点がある場合は、インディアンモーターサイクル正規販売店にお尋ねください。



注意

改造により、モーターサイクルが乗車に適さない安全でないものになり、ライダーまたはパッセンジャーの重篤な負傷や、モーターサイクルの破損の原因になります。

モーターサイクルの駐車

モーターサイクルから離れる場合はエンジンを停止して下さい。このモーターサイクルはキー付きイグニッションスイッチを装備しています。第三者の不正使用を避けるため、イグニッションキーを引き抜いてください。

モーターサイクルは、周囲の人が高温のエンジンや排気系統に触れたり可燃物を高温部周辺に置いたりする可能性が低い場所に駐車してください。石油ストーブや裸火のそばなど、可燃物のある場所の周辺には駐車しないでください。高温部により可燃物に着火するおそれがあります。

モーターサイクルは、固く平坦な地面に駐車してください。斜面や柔らかい地面では、モーターサイクルの重量を支えられず転倒するおそれがあります。斜面や柔らかい地面上に駐車しなければならない場合は、76ページに記載してある予防措置を講じてください。

サドルバッグ

サドルバッグを使用しての走行または荷物を積載しての走行では、必ず次を守ってください：

- 速度超過は絶対にしないでください。サドルバッグや荷物と、走行風によるリフト効果やバフェッティング（不規則な揺れ）の影響が合わさって、モーターサイクルが不安定になったり制御不能になったりするおそれがあります。
- サドルバッグ単独での最大積載量を超えないようにしてください。
- サドルバッグの収容能力を守っているかどうかに関わりなく、最大許容車両重量または最大許容車軸重量は絶対に超えないようにしてください。重量定格を超過すると、モーターサイクルの安定性とハンドリングが悪化し、制御不能になることがあります。

荷物の積載

モーターサイクルに荷物またはアクセサリーを固定する場合は、下記の手引きに従ってください。該当する場合、アクセサリー類についてもこの手引きで触れています。

- モーターサイクルの重心変化を可能な限り最小化するため、荷物とアクセサリーの重量は必要最小限にとどめ、車体中心にできる限り近い位置に固定してください。重心が移動すると、安定性とハンドリングが損なわれ、モーターサイクルの制御が失われる原因になるおそれがあります。
- モーターサイクルの車両総重量または最大軸重を超過しないでください。

- 重量配分は、モーターサイクルの左右両側で均等になるようにしてください。走行前、および走行時の休憩中に、付属品と荷物を点検して、車体に確実に固定されていることを確認し、重量配分を均等に維持してください。走行中の不均等な重量配分または付属品や荷物の突然の移動は、ハンドリング困難、制御不能、または（荷物が落下した場合などに）他の車両の危険の原因になるおそれがあります。
- 快適な走行のために、また十分な地上高を確保するために、リアショックのプリロードを調整してください。詳細については、「リアショックプリロード（乗車時の高さ）の点検」のセクションを参照してください。
- 寝袋、ダッフルバッグ、テントなどの大型の荷物、重量のある荷物はハンドルバー、フロントフォーク周辺、またはフロントフェンダーに固定しないでください。フロント部周辺に荷物やアクセサリーを固定すると、（不適切な重量配分または空力特性の変化によって）安定性が損なわれたり、制御不能になるおそれがあります。
- どのようなアクセサリーについても、最大積載重量を超えることがないようにしてください（付属品の指示事項とラベルを参照してください）。荷物積載用に設計されていないアクセサリーに荷物を固定しないでください。上記のどちらの場合も、アクセサリーが破損し、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 速度制限標識には必ず従ってください。
- インディアンモーターサイクルがその目的のために特に設計したものでない限り、モーターサイクルには何も取り付けないでください。

モーターサイクルの輸送

モーターサイクルの輸送が必要な場合、次に従ってください：

安全について

- トラックまたはトレーラーを使用してください。他の車両によるモーターサイクルのけん引はおやめください。けん引によってモーターサイクルの操舵とハンドリングが損なわれます。
- モーターサイクルは立てた姿勢を保つようにしてください。
- ハンドルバーを使用したモーターサイクルの固定はおやめください。
- タイダウンストラップを（前方から）輪にしてロアトリブルクランプを通し、固定してください。配線やブレーキラインに干渉しないよう注意してください。最大限の安定性を得るため、タイダウンストラップの固定位置はトラックまたはトレーラーに荷台上の可能な限り離れた位置としてください。
- トラックまたはトレーラーによる輸送時、サイドスタンドは使用しないでください。

燃料および排気ガスに関する注意事項

燃料補給時または燃料系統の整備の際は、必ずこの燃料および排気ガスに関する注意事項にご留意ください。

警告

ガソリンは強い引火性をもち、一定の条件の下では爆発します。

- ガソリンの取り扱い時は、常に最大限の警戒をしてください。
- 給油する前に、必ずエンジンを停止してください。
- 給油は必ず屋外または換気の良い場所で実施してください。
- 燃料キャップはゆっくりと開けてください。タンクに燃料を入れすぎないでください。燃料をタンクネック上部まで入れないでください。
- 給油場所またはガソリン貯蔵場所の中、またはその付近は禁煙です。また、裸火や火花の使用も厳禁です。

警告

ガソリンおよびガソリン蒸気は有毒で、重篤な傷害の原因になるおそれがあります。

- ガソリンの誤嚥、気化ガソリンの吸入、またはガソリンの流出は避けてください。ガソリンを誤嚥した場合、または2~3回よりも多い呼吸回数で気化ガソリンを吸入した場合、またはガソリンが眼に入った場合は、直ちに医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚または衣服にガソリンをこぼした場合は、石けん水で直ちに洗い流し、着替えてください。
- 排気ガスは、短時間で意識の喪失や死亡をもたらすことがある無色無臭の一酸化炭素を含有しています。
- 密閉された空間では、絶対にエンジンを始動、または作動させたままにしないでください。
- 排気ガスは絶対に吸入しないでください。

安全のための点検整備



警告

安全のためのメンテナンスを規定どおりに実施しない場合、ハンドリングの困難、制御不能など、重傷や死亡を伴う事故の原因になることがあります。必ず、本書の指定事項を遵守して、安全のためのメンテナンス手順を実施してください。メンテナンスと修理は遅滞なく実施してください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

- エキゾースト遮熱板は、必ずすべて取り付け済みで、良好な状態であるように注意してください。
- 安全確保のため、各部のボルト、スクリュー、ナットは、質、仕上げ、および種類について出荷時の仕様を満たしていなければなりません。必ずインディアンモーターサイクル純正部品のみを使用し、各部のボルト、スクリュー、ナットは、指定トルクで締め付けてください。

- 走行前には毎回、走行前点検を実施してください。
- 定期整備はすべて、定期整備セクションに記載された指定時期に実施してください。
- タイヤ空気圧、トレッドの状態、ホイールバランスは常に適正な状態に維持してください。タイヤは日常的に点検し、摩耗または損傷がある場合は速やかに交換してください。認定交換用タイヤのみを使用してください。仕様セクションを参照してください。
- ステアリングヘッドベアリングは、常に適正な状態に調整、給油してください。リアショックアブソーバーとフロントフォークにオイル漏れや破損がないか、日常的に点検してください。修理が必要な場合は速やかに実施してください。121ページを参照してください。
- モーターサイクルの清掃は、修理を要する部品がはっきりと確認できるよう、入念に行ってください。

車両総重量 (GVWR)



警告

定格重量を超過すると、モーターサイクルの安定性とハンドリングが悪化し、制御不能になることがあります。モーターサイクルの車両総重量は絶対に超えないようにしてください。

最大積載量は、車両総重量を超過せずにモーターサイクルに積載できる最大重量です。この重量は、モーターサイクルの車両総重量から車両重量を減算して算出します。

モデルごとの情報については、この説明書の仕様セクションか、モーターサイクルのフレームに貼付された製造情報/車台番号 (VIN) ラベルを参照してください。

間違いなく最大積載量を超えないようにしてモーターサイクルへの積載重量を決定するには、以下を含めてください：

- ライダーの体重
- パッセンジャーの体重
- ライダーの衣服および付随する品目の重量
- 後付けの付属品とその内容物の重量
- モーターサイクルに積載する追加の荷物の重量

安全上の不具合の報告

お使いの車両に物損事故、および負傷や死亡に至る事故の原因になり得る不具合があると考えられる場合、ただちに米国運輸省道路交通安全局 (National Highway Traffic Safety Administration、NHTSA) に通報するとともに、インディアンモーターサイクルに書面で通知してください。

同様の通報が複数あった場合、NHATSAが調査を開始する場合があります。さらに、そこで車両のあるグループに安全上の不具合が発見された場合、NHATSAはリコールとサービスキャンペーンの実行を命じることがあります。ただし、お客様と正規販売店または弊社との間の個別の問題にNHATSAが関与することはできません。

NHTSAに連絡したい場合、または車両の安全についての詳しい情報を知りたい場合は、通話無料の車両安全ホットライン1-888-327-4236 (TTY: 1-800-424-9153) に電話するか、NHTSAのウェブサイト (www.safercar.gov) を閲覧するか、または下記住所に書面にてご連絡ください：

ADMINISTRATOR, NHTSA
1200 New Jersey Avenue, SE
West Building
Washington, DC 20590アメリカ

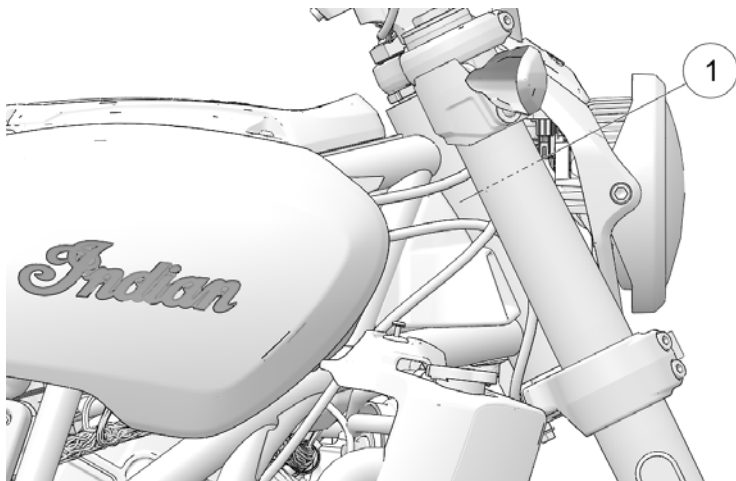
安全上の不具合をカナダ運輸省に報告するには、カナダ運輸省ホームページ (英語) : <http://www.tc.gc.ca/recalls>、フランス語 : <http://www.tc.gc.ca/rappels>) の不具合申立書に記入するか、料金無料の電話1-800-333-0510 (カナダ) または+1 819-994-3328 (オタワ-ガティノー地域/カナダ国外) で、カナダ運輸省不具合調査リコール部に連絡してください。

安全情報ラベル

ラベルはモデルごと、仕向国ごとに異なります。お使いのモーターサイクルに下記に示すラベルの内容がすべて含まれているとは限りません。

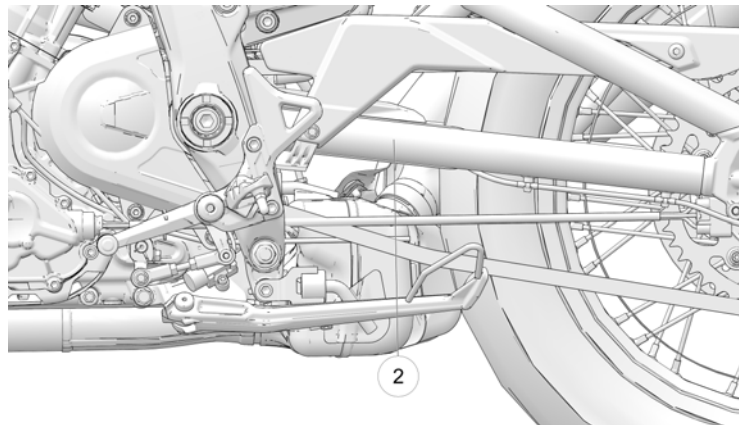
車台番号

VIN (車台番号) は、ステアリングヘッド①右側面に刻印されており、また、ステアリングヘッド左側VINステッカーにも印刷されています。



汚染物質排出抑制情報 (VECI)

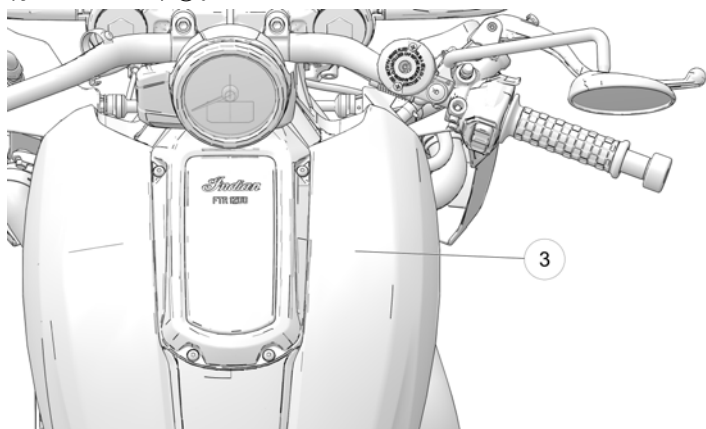
排出ガス規制適合情報 (VECI) および騒音規制適合情報 (NECI) は、エミッションラベルに記載されています。ラベル②は、車両左側のスイングアームに貼付されています。



安全について

ライダーへの警告/燃料についての注意

「ライダーへの警告/燃料についての注意」が右側サイドパネルに貼付されています③。



⚠ 警告

- オーナーズマニュアルを熟読し使用中は安全対策をすべて守ってください。
- 必ず、認可ヘルメット、保護眼鏡、防護性のあるライダー専用ウェアを着用してください。
- オーナーズマニュアルを紛失した場合は、インディアンモーターサイクル正規販売店に代替品をお求めください。

⚠ 注意

燃料タンクへの燃料の入れすぎは絶対にしないでください。燃料液面が給油口下部の開口部を超えない量でなければなりません。燃料を入れすぎると、エンジンおよび燃料蒸発ガス排出抑制装置の性能低下を招くことがあります。

各機能と操作部 概要



ソフトウェアアップデートを含む、インディアンモーターサイクルライドコマンド画面の最新情報については、<https://ridecommand.indianmotorcycle.com>をご覧ください。

注目

エンジンを停止した状態で画面を長時間使用すると、バッテリーが放電してしまうおそれがあります。

警告

車両走行中の操作はおやめください。運転時の注意が散漫になり、車両の制御が失われ、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。この装置の使用に関連するあらゆる危険性は、ライダーの責任となります。ユーザーガイドをお読みください。

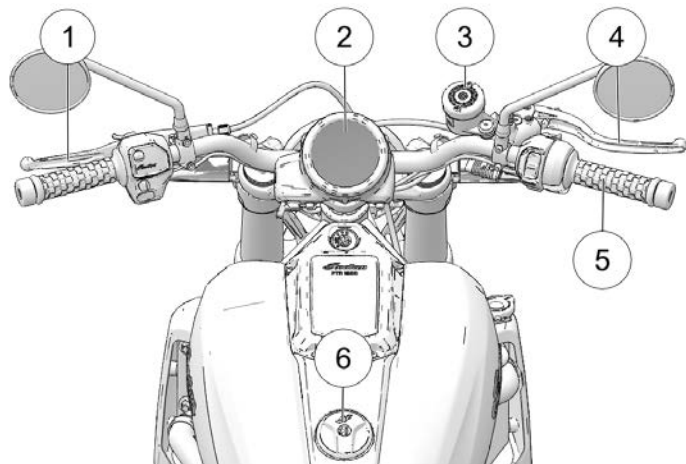
警告

注意力散漫な状態で走行すると、車両の制御が失われ、事故や負傷の原因になることがあります。路面状況に対する集中力を削ぐおそれのある装置を使用する場合、細心の注意を払うよう強くおすすめします。ライダーの第1の責任は、車両の安全な運転操作です。インディアンモーターサイクルでは、走行中の手持ち機器の使用をおすすめしていません。可能な場合は、音声操作のシステムの使用をおすすめします。ご自身が、走行中の電子機器使用に関する現行国内法すべてを理解しているか注意を払ってください。

はじめてのメーターと画面表示で走行する前に、次の準備をしてください：

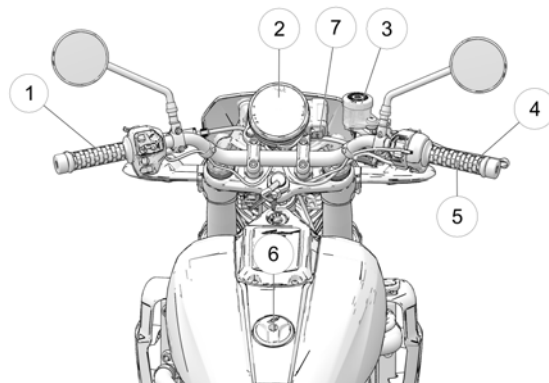
- 本書全体をよく読んでください。
- 車両が停止した状態で、表示機能と操作に慣熟するようにしてください。
- アップルアプリストアまたはグーグルプレイストアで「インディアンモーターサイクルライドコマンド」アプリをダウンロードし、個人アカウントを作成してください。
- <http://www.indianmotorcycle.com/en-us/owners-manuals>で、オーナーズマニュアルの最新版を確認してください。

コンソール FTR/FTR RALLY








- ①クラッチレバー
- ②インストルメントパネル
- ③フロントブレーキリザーブタンク
- ④フロントブレーキレバー
- ⑤ 電子制御スロットル
- ⑥燃料キャップ

FTR SPORT/FTR R CARBON



- ①クラッチレバー
- ②インストルメントパネル
- ③フロントブレーキリザーブタンク
- ④フロントブレーキレバー
- ⑤ 電子制御スロットル
- ⑥燃料キャップ
- ⑦ USB

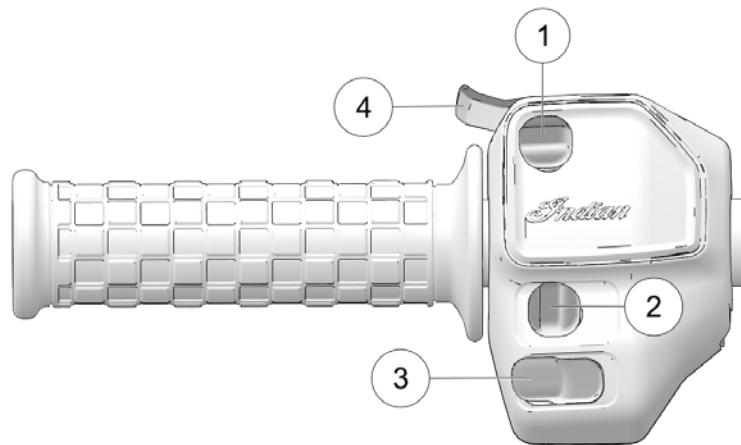
スイッチの表示

表示	スイッチ名	説明
	ホーンスイッチ	ホーンを鳴らすには、ホーンスイッチを押してください。27ページを参照してください。
	ヘッドライトハイビームスイッチ	ヘッドライトハイビームスイッチは、ヘッドライトのハイビームを作動させます。28ページを参照してください。
	ヘッドライトロービームスイッチ	ヘッドライトロービームスイッチは、ヘッドライトのロービームを作動させます。短く押すと、パッシングランプが点滅します。28ページを参照してください。
	ウインカースイッチ	このスイッチを左に動かすと、左ウインカーが点滅します。このスイッチを右に動かすと、右ウインカーが点滅します。速度または距離があらかじめ設定したレベルに達するとウインカーは自動的に消灯します。手動でウインカー消灯をするには、ウインカースイッチを中央位置にしてから前方に押してください。モーメンタリー機能：ウインカースイッチを左または右に動かして、1秒以上そのまま保持してください。モーメンタリー機能が有効になり、スイッチを放した時点でウインカーはキャンセルされます。26ページを参照してください。
	ハザードランプスイッチ（ハザードスイッチ）	ハザードスイッチでハザードランプの点灯と消灯を行います。ハザードランプを点灯させるには、スイッチの中央を長押ししてください。26ページを参照してください。作動させるには、ハザードランプが点滅を始めるまで、スイッチ

表示	スイッチ名	説明
		を中央位置にして長押ししてください。消灯させるには、スイッチを中央位置で長押ししてください。
	画面選択スイッチ	画面選択スイッチ（装備車の場合）は、画面切替えに使用します。45ページを参照してください。
	バックスイッチ（装備車の場合）	メニューやダイアログボックスから戻る場合にバックスイッチを使用します。43ページを参照してください。
	キルスイッチ	スイッチの下側（RUN）を押すと、エンジンの始動および作動が可能になります。スイッチの上側（STOP）を押すと、エンジンが停止します。28ページを参照してください。
	スタータースイッチ	スタータースイッチを使用して、エンジンを始動します。エンジンキルスイッチはRUN位置でなければなりません。28ページを参照してください。
	右トリガースイッチ	アナログメーター装備車の場合、右側トリガースイッチを使用して、MFD(多機能ディスプレイ)画面の切替えができます。ライドコマンド装備車種の場合、右トリガースイッチを使用して、メニューの画面切替えができます。26ページを参照してください。

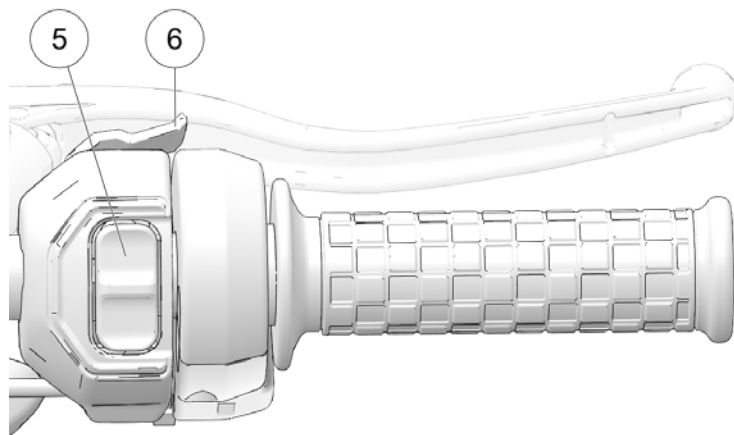
スイッチの配置

左スイッチ



- ①クルーズコントロールスイッチ
- ②ウインカー/ハザードランプ
- ③ホーンスイッチ
- ④デイマー/パッシングスイッチ

右スイッチ



- ⑤キルスイッチ/スタータースイッチ
- ⑥右トリガースイッチ

スイッチの機能

イグニッション/ライトキースイッチ

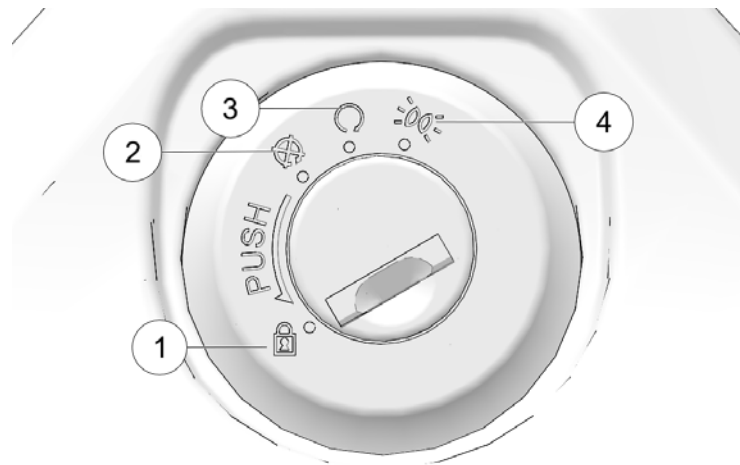
モーターサイクルのライダーは常に、周囲からの被視認性を可能な限り維持しなければなりません。そのための一助として、ヘッドライトは走行中常に点灯させておかなければなりません。ヘッドライトは、エンジン作動中は自動的に点灯します。ヘッドライト自動点灯機能を回避するために、イグニッション/ライトスイッチの配線を改造してはいけません。

イグニッション/ライトキースイッチは、モーターサイクルの電源をON/OFFします。エンジンを始動する前に、本取扱説明書のエンジン指勝手順を読んでください。70ページを参照してください。

注目

車両から離れる場合は、イグニッションスイッチをオフ位置に回し、さらにイグニッションキーを押し込みながらロック位置まで回して抜き取ってください。

イグニッションスイッチにキーを押し込みながら、PARK位置に回してください。PARK位置では、テールランプ、フロントポジションランプ、ウインカー、および番号灯が点灯します。モーターサイクルの電源を使用するアクセサリ（装備車の場合）は使用でき、計器も作動可能です。イグニッションキーは抜き取ることができます。

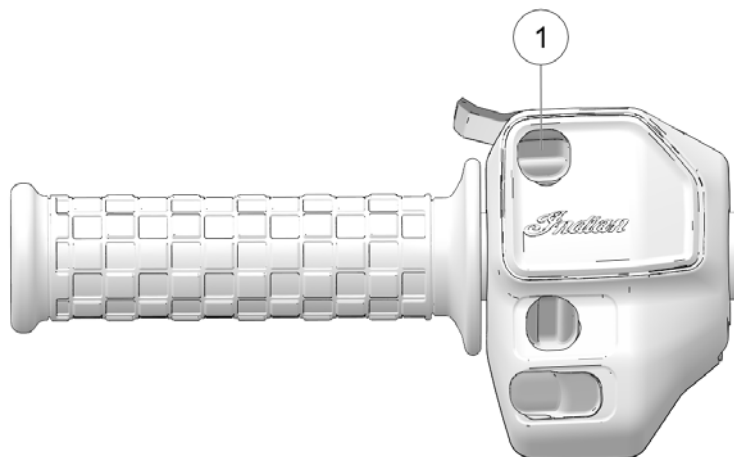


表示	説明
①	ステアリングロック
②	オフ
③	オン
④	パーキング

各機能と操作部

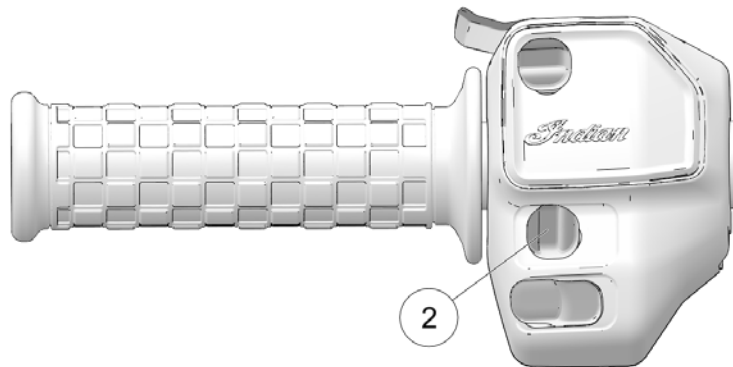
クルーズコントロールスイッチ

クルーズコントロールの操作と調整は左ハンドルバー・スイッチ部のクルーズコントロールスイッチ①で行います。



スイッチ操作位置	機能
下げ	セット/減速
中立	オン/オフ
上げ	再開/加速

ウインカー/ハザードスイッチ



ウインカー

ウインカーを作動させるには、作動させたい方向にウインカースイッチ②を押してください。

- このスイッチを右に押すと、右ウインカーが点滅します。
- スwitchをもう一度押すと、右ウインカーが消灯します。
- このスイッチを左に押すと、左ウインカーが点滅します。
- スwitchをもう一度押すと、左ウインカーが消灯します。

ハザードランプ

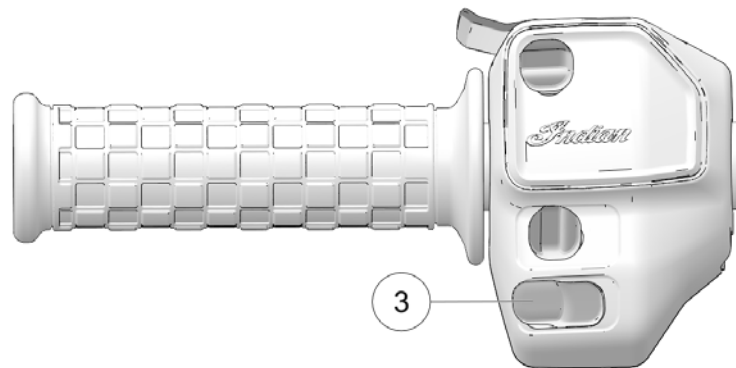
ハザードランプを点滅させるには、イグニッションスイッチがONになっていなければなりません。作動後は、イグニッションスイッチがPARK位置になっても点滅を続けます。ハザードランプが作動すると、ターンシグナル4個すべてが点滅します。

ハザードランプを点灯させるには、ウインカースイッチ②の中央を押してください。

- スイッチを長押しすると、左右のウインカーが点滅します。
- ハザードランプを消灯させるには、スイッチをもう一度押してください。

ホーンボタン

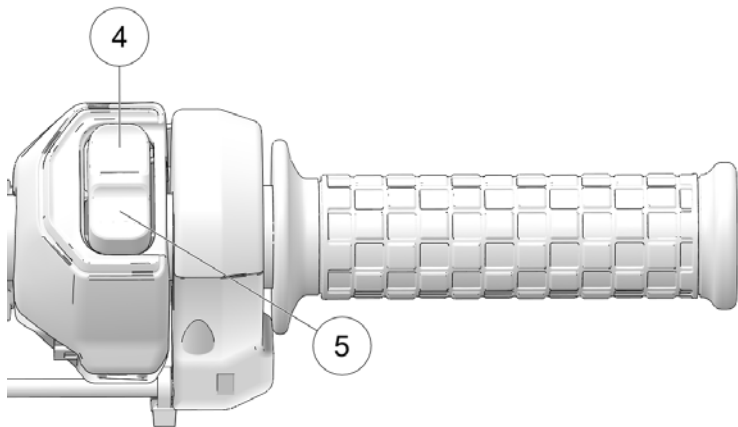
ホーンを鳴らすには、ホーンスイッチ③を押してください。



各機能と操作部

エンジンキルスイッチ

素早くエンジンを停止するには、エンジンキルスイッチを使用します。エンジンが停止したあと、キーをオフの位置にしてください。



- キルスイッチの上側 (STOP) ④を押すと、エンジンが停止します。
- キルスイッチの下側 (RUN) ⑤を押すと、エンジン始動と作動が可能になります。

ヒント

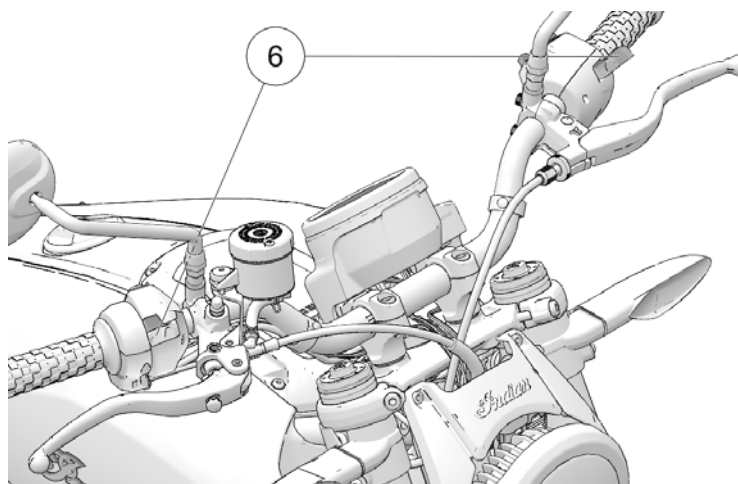
ヘッドライトと電源ポートに接続されているアクセサリは、イグニッションキーがオフの位置になるまで作動可能な状態です。

トリガースイッチ

全モデルの左右ハンドルバー・スイッチ部⑥の前側にトリガースイッチがあります。

注目

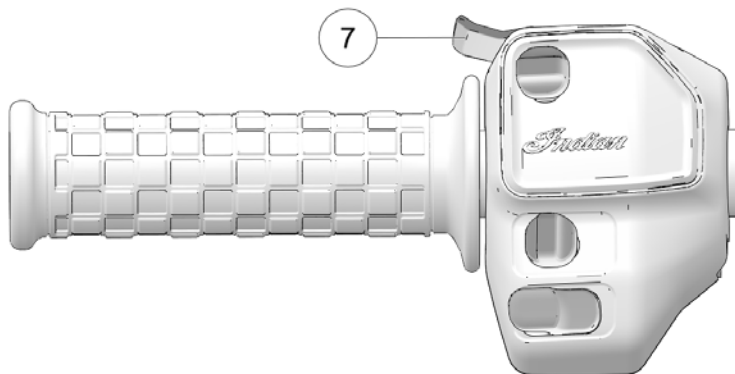
トリガースイッチが機能するには、点火スイッチがONになっていなければなりません。



ヘッドライトデイマースイッチ

ヘッドライトは、エンジン始動時に自動点灯します。

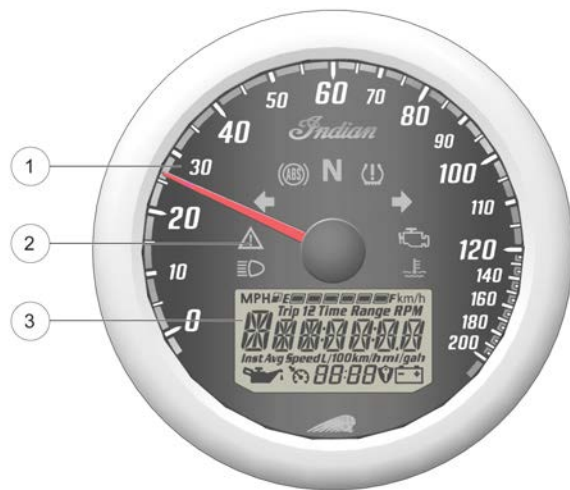
ヘッドライトディマースイッチ⑦でヘッドライトのハイビームとロービームを切り替えます。ヘッドライトを短く点滅させる(パッシング)には、左側トリガースイッチを断続操作してください。ハイビームを点灯したままにするには、トリガースイッチを前方に、カチッという音とともに止まるところまで、押してください。ロービームに戻すには、レバーを引いて中立位置に戻してください。



右トリガー

アナログメーター装備車の場合、右側トリガースイッチを使用して、MFD(多機能ディスプレイ)画面の切替えができます。31ページを参照してください。ライドコマンド装備車種の場合、右トリガースイッチを使用して、メニューの画面切替えができます。50ページを参照してください。

インストルメントパネル



インストルメントパネル内に、スピードメーター、表示・警告灯、および多機能ディスプレイ (MFD) があります。







	説明
①	スピードメーター
②	表示灯
③	多機能ディスプレイ (MFD)



各機能と操作部

スピードメーター


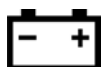
スピードメーターはモーターサイクルの速度を、km/hまたはmphで表示します。


表示灯

ランプ	表示の意味	状態
	車体の不具合	車体に警告または不具合がある場合に点灯します。
	燃料残量警告	燃料タンクの燃料残量が約2.0Lになると、このランプが点灯します。
	ニュートラル	トランスミッションがニュートラルの場合に点灯します。
	ハイビーム	ディマースイッチがハイビームにセットされている場合に点灯します。
	ウインカー	左または右のウインカー、もしくは左右両方のウインカー（ハザードランプ）の点灯時に点滅します。ウインカー系統に問題がある場合、この表示灯が通常の2倍の速さで点滅します。
	ABS不動作	車速が10km/hを超えABSが起動するまで点灯したままになります。警告灯の点灯中は、アンチロックブレーキシステムは作動しませんが、通常のブレーキシステムは正常に作動します。また、ABSの故障が検出された場合も、この警告灯が点灯します。

ランプ	表示の意味	状態
	エンジン警告灯	エンジンの作動中に点灯した場合は、直ちに正規販売店にご連絡ください。車体傾斜センサーがエンジンを停止させた場合、点灯したままになります。センサーまたはエンジン動作の異常が検出され、故障状態が存在している限り、この表示灯が点灯を続けます。故障診断のため、エラーコードを記録しておいてください。失火が検出された場合、エンジン警告灯が点滅し、失火したシリンダーへの燃料供給が遮断されます。34ページを参照してください。
	エンジンのオーバーヒート	エンジン温度が正常な運転温度を超えた場合、エンジンオーバーヒート警告灯が点灯します。

MFD表示装置

ランプ	表示の意味	状態
	油圧低下	油圧警告灯は、エンジン作動中にエンジンオイル圧が最低基準未満に低下した場合に点灯します。アイドリング回転数より高い回転数でエンジンが作動している際にこの警告灯が点灯した場合、安全上可能な限り早くエンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が適正な状態でエンジンを再始動した後もこの警告灯が消えない場合、ただちにエンジンを停止してください。正規販売店にご連絡ください。
	バッテリー電圧	バッテリー電圧警告灯は、適正值より高い、または低いバッテリー電圧が検出された場合、および充電装置に不具合がある場合に点灯します。電力を節約

ランプ	表示の意味	状態
		するため、不要なアクセサリーのスイッチを切ってください。充電システムが適正に動作しているが確認してください。149ページを参照してください。
km/h	速度表示	メトリックモード選択時の速度単位は、km/hです。
MPH		標準（ヤードポンド）モード選択時の速度単位は、mphです。
	クルーズコントロールの状態	目盛盤のアイコンが表示されている場合、クルーズコントロールは有効ですが、セットされていません。クルーズコントロールが任意の速度にセットされると、矢印のアイコンが表示されます。クルーズコントロールを使用する場合は、事前に安全対策と操作手順をお読みください。75ページを参照してください。

多機能ディスプレイのモード

イグニッションスイッチがONの状態ですべてのトリガースイッチを使用すると、MFDの各モード切替えと表示設定の変更ができます。

次の表示モードが使用できます：

- オドメーター
- トリップメーター
- トリップメーター2
- エンジン回転数
- ギアポジション表示
- バッテリー電圧
- エンジンエラーコード
- 平均燃費
- 瞬間燃費
- 外気温度

オドメーター

オドメーターは、総走行距離を表示します。

トリップメーター

トリップメーターは、リセット時からの走行距離を表示します。リセットするには、トリップメーターに切り替えてから、トリップメーターの表示がゼロにリセットされるまで、MODEボタンを長押ししてください。

エンジン回転数

エンジン回転数表示（rpm）。

ギアポジション表示

使用中のギア段数がMFDに表示されます。

各機能と操作部

バッテリー電圧

バッテリー電圧画面では、バッテリーに供給される充電電圧をリアルタイム表示します。この電圧レベルは、電気的な負荷とエンジン回転数に応じて変動することがあります。

平均燃費

平均燃費は、前回リセット時以降の平均燃料消費率を表示します。リセットするには、燃費表示中に右トリガースイッチを長押ししてください。

瞬間燃費

瞬間燃費表示は、このモードを選択中に車両のリアルタイム燃費を表示します。

外気温度

温度領域には、モーターサイクル周囲の外気温が表示されます。

表示単位 (メトリック/ヤードポンド)

表示単位は、ヤードポンドまたはメトリックのどちらかに変更できます。

	メトリック表示	標準表示 (ヤードポンド)
距離	キロメートル	マイル
温度	摂氏	華氏
時間	24時間表示	12時間表示
容量	インベリアルガロン、リットル	ガロン

1. イグニッションをOFFにしてください。
2. 10秒間待ってください。
3. 右トリガースイッチを長押ししながら、キーをONまたはPARK位置に回してください。
4. 距離設定が点滅している状態で、右トリガースイッチを短く押し、表示を希望の設定まで進めてください。
5. 右トリガースイッチを長押しし、設定を保存して、次の表示オプシオンに進んでください。
6. 上記の手順を繰り返して、残りの表示設定を変更してください。

時計

注目

バッテリーの接続を外した場合、またはバッテリーが完全放電してしまった場合は、必ず時計の時刻を再設定してください。

1. オドメーター表示に切り替えるには、右トリガースイッチを押します。
2. 時刻を設定するには、時間表示部が点滅するまで右トリガーを長押しします。スイッチを放してください。
3. セグメントが点滅しているときに、右トリガースイッチを軽く叩いて、希望の設定値まで数字を進めてください。
4. 次の桁が点滅したら再度右トリガーを連打し希望の数字に合わせて、長押しして決定します。スイッチを放してください。
5. 10分単位の表示部と1分単位の表示部を設定するため、ステップ3~4を繰り返し実行してください。1分単位の表示部の設定が完了した後のステップ4で新しい設定を保存し、時計モードを終了してください。

エンジンエラーコード

エラー画面は、エンジン警告灯が点灯するか、キーオン~オフまでの間に点滅するかした場合にのみ表示されます。エラーコードは、現在のキーオン~オフまでの間のみ表示されます。イグニッションスイッチがオフになると、エラーコードとメッセージは消去されますが、エンジン再始動後にエラーが再発した場合は再び表示されます。

エンジン警告灯が点灯した場合、ディスプレイからエラーコードを読み出してください。

1. エラーコードが表示されていない場合、右トリガースイッチを使用して表示を切り替え、ディスプレイのメインラインに「Ck ENG」が表示された状態にしてください。
2. 右トリガースイッチを長押しして、故障診断メニューに進んでください。
3. ギアポジション、時計、オドメーターに表示されている3桁の数字を記録してください。
4. エラーコードの詳細情報と故障診断については、正規販売店にお問合せください。



- ①故障コード番号 (0~9)
- ②サスペクトパラメータ番号 (SPN)
- ③故障モード表示部 (FMI)

故障診断機能

状態によっては、バッテリー警告灯が点灯し、スクリーンにエラーメッセージが表示されます。その場合は、正規販売店にご相談ください。

メッセージ	位置	表示の意味
LO	DC電圧画面	電圧が11.0Vに満たない時間が10秒間を超えています。
OV	DC電圧画面	電圧が15.0Vを超えている時間が10秒間を超えています。
ERROR	全画面	チェックサムエラー (計器の不具合)

オーバーヒート警告表示

下記の状態ではエンジンオーバーヒート警告灯が点灯し、実際のエンジン冷却水温が多機能ディスプレイ (MFD) に表示されます。

状態	表示の意味	必要な措置
エンジン作動中に、エンジン冷却水温が安全ではない作動状態に近づいています。	エンジン冷却水温が安全な作動温度を超えています。	安全上可能な限り早くエンジンを停止してください。冷却水量を点検してください。ラジエーターにゴミが詰まっていないか点検してください。クーリングファンが正常に動作するか点検してください。エンジン再始動後も警告がそのまま表示される場合は、ただちにエンジンを停止してください。

ミスファイア (失火) の検出

失火が検出された場合、エンジン警告灯が点滅し、失火したシリンダーへの燃料供給が遮断されます。イグニッションスイッチがOFF位置になるまでは、エンジン警告灯が点滅を続けます。エンジンを再始動すると、エンジン警告灯は点滅を停止し、両シリンダーに燃料が供給されます。さらに失火が発生した場合、エンジン警告灯は点滅を続け、失火したシリンダーへの燃料供給は再び遮断されます。3回目の失火の後には、P0314「ミスファイア不具合」のエラーコードが記録され、エンジン警告灯が点灯状態になり、失火したシリンダーへの燃料供給が遮断されます。この場合は、ただちにインディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

リアシリンダーの作動停止

エンジンとエキゾーストの熱のライダーへの影響を抑制するための設計として、エンジンが通常の運転温度でアイドル回転数の場合に、「リアシリンダー作動停止」機能によりリアシリンダーの作動を停止させます。

リアシリンダー作動停止機能を使用するには、次の条件が満たされている必要があります。

- エンジン冷却水温度が80°Cを超えていること
- 外気温が15°Cを超えていること
- エンジン回転数が2,200rpm未満を保っていること
- スロットルが閉位置 (スロットル0%) であること

ライドコマンド装備車種の場合

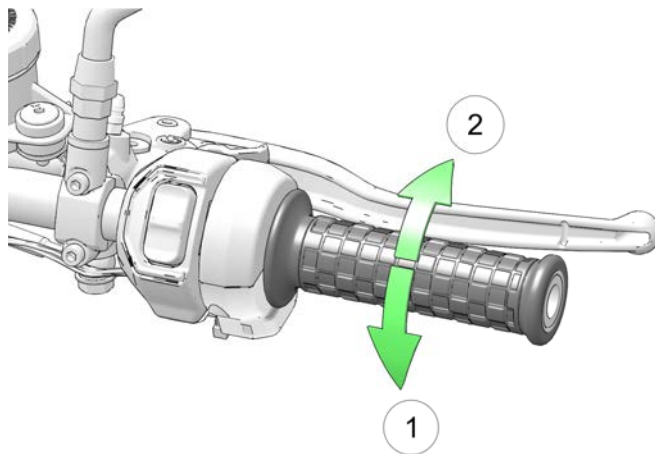
設定メニューにアクセスすれば、リアシリンダー作動停止のオン/オフが可能です。シリンダー作動停止の操作は、車両設定メニューから行います。リアシリンダー作動停止の作動中は、ライドコマンド画面右側のアイコンが点灯します。



シリンダー作動停止が有効で、シリンダーが停止している場合、MFDに「CYLdeAC」メッセージが1秒間表示されます。シリンダー作動停止が無効で、シリンダーが停止せずに作動している場合、MFDに「CYLAC」メッセージが1秒間表示されます。

スロットルグリップ

スロットルグリップは、右ハンドルバーにあります。スロットルグリップを使用して、エンジン出力をコントロールします。



ライドコマンドを装備していない車種の場合

リアシリンダー作動停止の有効化または無効化は下記で行います：

1. 多機能ディスプレイ (MFD) で外気温表示モードに進んでください。
2. 「CYLdeAC」と表示されるまで、右トリガーを長押ししてください。
3. 右トリガーを押している間、「CD ON」と「CD OFF」の切り替えが可能です。
4. 右トリガーを長押しして、設定を保存してください。
 - CYLdeAC ON：リアシリンダーの作動を停止できます
 - CYLdeAC OFF:リアシリンダーを停止させることができません

各機能と操作部

正しいライディングポジションでまたがり：

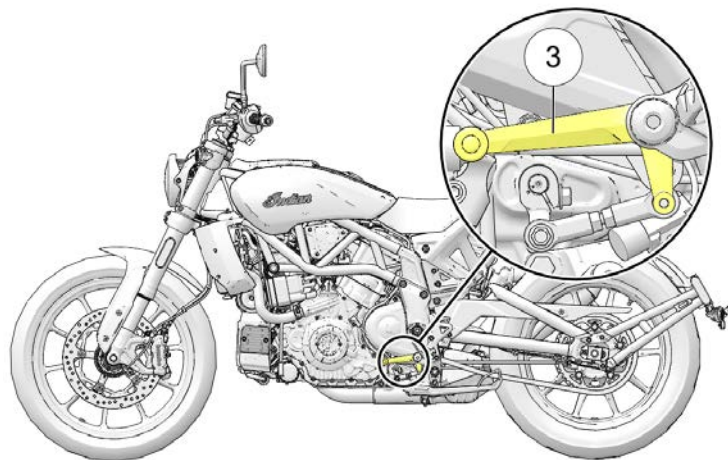
- スロットルグリップを後方①にひねると、スロットルが開きます（エンジン回転数が上がり、出力が大きくなります）。
- スロットルグリップを前方②に戻すと、スロットルが閉じます（エンジン回転数が下がり、出力が小さくなります）。
- クルーズコントロールをキャンセルするには、アイドル位置を通り過ぎるところまでグリップを戻します。

スロットルグリップにはスプリングの張力がかかっています。グリップから手を放すと、スロットルはアイドル位置に戻ります。

シフトペダル

シフトペダル③は、モーターサイクルの左側にあります。足でペダルを操作します。

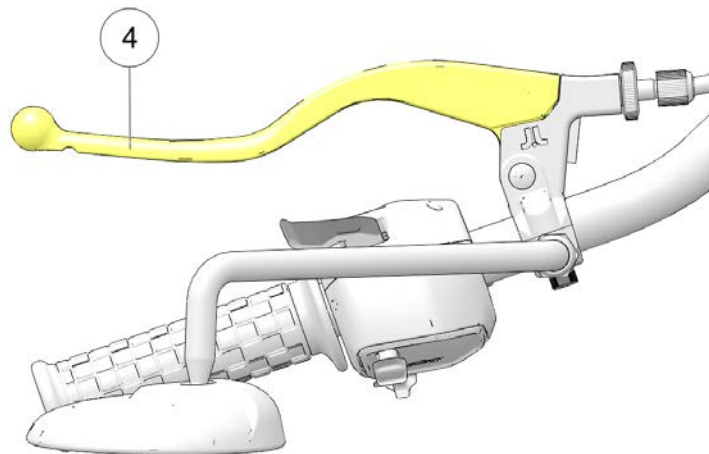
- ペダルを下に踏むと、低いギアに変速します。
- ペダルをつま先で上げると、高いギアに変速します。
- 変速操作を終えるたびに、ペダルを放してください。
- 変速要領については、71ページを参照してください。



クラッチレバー

クラッチレバー④は、左ハンドルバーにあります。変速操作の前に、クラッチレバーを握り動力を開放して下さい。クラッチを滑らかに操作するには、握るときはレバーを素早く操作し、放すときは動力のつながり具合に応じてレバーを滑らかに操作してください。

- クラッチを切るには、クラッチレバーをハンドルバー方向に引いてください。
- クラッチをつなぐには、動力のつながり具合に応じてレバーを滑らかに操作してください。



サイドスタンド

FTRには、サイドスタンドを下ろしたままの走行を防止するため、サイドスタンド安全スイッチを装備しています。



警告

サイドスタンドの格納が不適切な場合、地面に接触してモーターサイクルが制御不能になり、重傷事故や死亡事故の原因になります。
サイドスタンドは、走行前に必ず完全に格納してください。

モーターサイクルを駐車させるときは、サイドスタンドの先端を下向きから前方に旋回させ、完全に展開させてください。駐車時の安定性を最大化するため、ハンドルバーは必ず左に切っておいてください。サイドスタンドがモーターサイクルを確実に支えるまで、車体をゆっくり左に傾けてください。



注意

モーターサイクルの重量がサイドスタンドに載っていない場合、スタンドはロックされません。この場合、モーターサイクルが少しでも動くと、サイドスタンドがわずかに折りたたまれるおそれがあります。モーターサイクルがサイドスタンドに支えられている状態で、サイドスタンドが完全に前方に展開していない場合は、モーターサイクルが転倒し、人的負傷やモーターサイクルの破損の原因になります。

サイドスタンドを格納するには、モーターサイクルにまたがり車両を完全な正立位置にします。サイドスタンドの先端を車両後方、モーターサイクルに近づく方向に旋回させ、完全に折りたたんでください。

斜面や柔らかい地面での駐車を含め、駐車方法については76ページを参照してください。



警告

サイドスタンドを立てた状態のモーターサイクルには腰掛けしないでください。

各機能と操作部

バンクセンサー

左右のフットペグ先端部に小さな突起部があります。これはバンクセンサーで、破損に対する保護のために役立ちます。六角形の部分まで摩耗が進んだ場合、ただちにバンクセンサーを交換することをお勧めします。

ウィリーコントロール

ウィリーコントロールは、フロントホイールを接地させたまま、または路面からあまり浮かせることなく最大限の加速を可能にする機能です。この機能は、車両のライドモードが「Rain」（レイン）または「Standard」（スタンダード）である場合に有効です。「Sport」（スポーツ）モードでの使用中、またはTCシステムが解除されている場合は、作動しません。

注目

ウィリーコントロールは、あらゆる状況下でフロントホイールが地面から離れないようにできるものではありません。

- ウィリーコントロールの作動が解除された状態で、フロントホイールが回転を止めるほど長い時間路面から離れている場合、ホイール回転センサーの故障コードが記録されることがあります。
- 故障コードが記録された場合、TCシステムが作動解除され、MTC警告灯が点灯します。この状態になった場合、MTCシステムの再初期化のため、一度電源を切ってから入れ直すことが必要です。

バックミラー

お使いのモーターサイクルには凸面鏡が装備されています。ミラーで視認した対象物は、見た目よりも近くにある場合があります。乗車前に必ずバックミラーの向きを調整してください。

バックミラーの調整は、モーターサイクルにまたがり走行時のライディングポジションで行います。左右のバックミラーを、自分の肩が少し映る状態に調整してください。

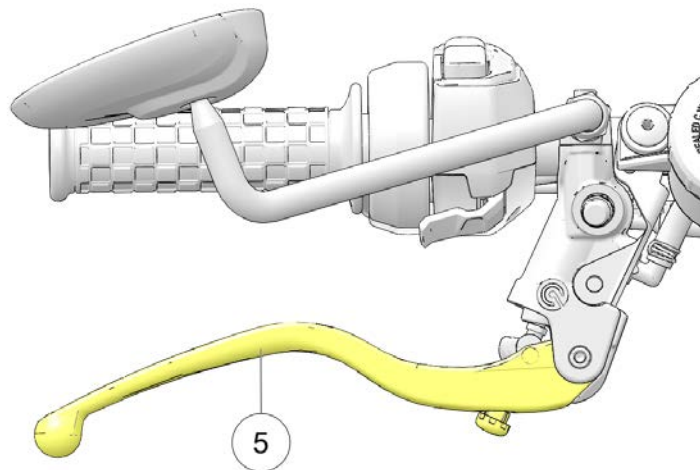
ブレーキ

アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステムは、最適のブレーキコントロールを実現するため、状況に応じてブレーキ油圧を自動的に減じ、急制動時、または荒れた路面、平坦でない路面、滑りやすい路面、ぬかるんだ路面などで制動時のホイールロックの可能性を低減します。9ページ以降に記載されている「安全な運転方法」を参照してください。

1. モーターサイクルの電源がオンになると、必ずABS警告灯が点灯します。この警告灯は、車速が10km/hを超えアンチロックブレーキシステムが起動するまで点灯したままとなります。
2. 警告灯の点灯中は、アンチロックブレーキシステムは作動しませんが、通常のブレーキシステムは正常に作動します。
3. 制動時にアンチロックブレーキが作動すると、ライダーはブレーキレバーに反動を感じます。その場合も、最大制動能力を発揮するため、同じ力でブレーキをかけ続けてください。
4. キーをONまたはPARK位置に回してもABS表示灯が点灯しない場合は、インディアンモーターサイクル正規販売店に修理を依頼してください。

- 車速が10km/hを超えた後も警告灯が消灯しない場合、ABSシステムが機能していません。インディアンモーターサイクル正規販売店に修理を依頼してください。
- 推奨品以外のタイヤ、または不適切なタイヤ空気圧での走行は、アンチロックブレーキシステムの有効性を損なうことがあります。必ずお使いの車両の推奨サイズ、推奨タイプのタイヤを使用してください。規定のタイヤ空気圧を必ず守ってください。
- アンチロックブレーキシステムは、すべての条件において、ホイールロック、グリップの喪失、コントロールの喪失を防止するものではありません。推奨されている安全な乗車方法は、必ずすべて厳守してください。
- 急ブレーキをかけた場合に、路面にタイヤマークが残ることは異常なことではありません。
- アンチロックブレーキシステムは、次に関連する危険性を補正または抑制するものではありません：
 - スピードの出し過ぎ
 - 荒れた、平坦ではない、または滑りやすい路面でのグリップ低下
 - 誤った判断
 - 不適切な運転操作



リアブレーキペダル



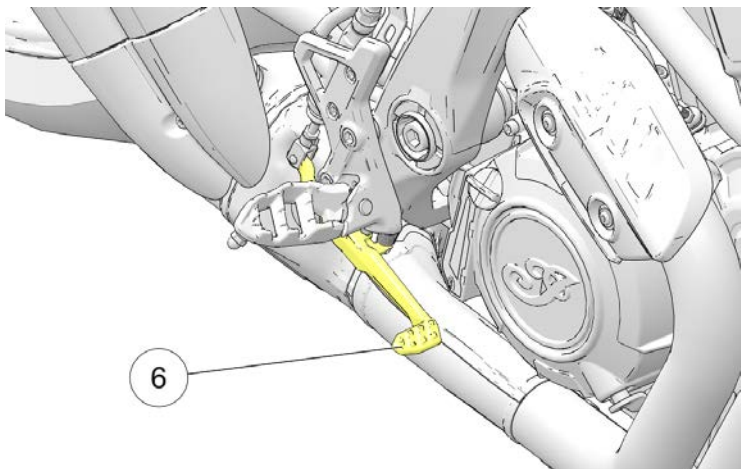
警告

ブレーキペダルに足を載せたまま走行すると、ブレーキパッドが急激に摩耗し、またはブレーキが過熱して制動力が低下し、重傷事故や死亡事故の原因になります。

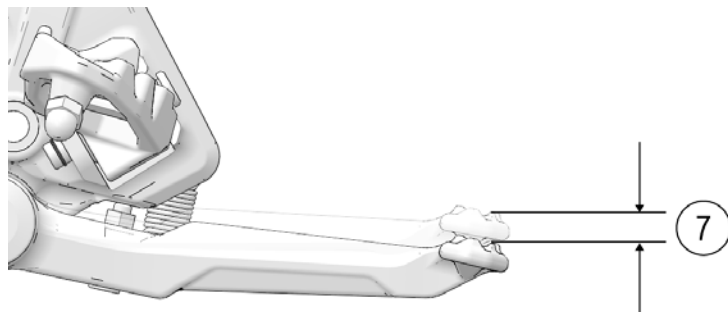
フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバー⑤は、右ハンドルバーにあります。このレバーは、フロントブレーキのみをコントロールします。フロントブレーキは、リアブレーキと同時にかけなければなりません。フロントブレーキをかけるには、レバーをハンドルバーの方向に引きます。ブレーキングの要領については、74ページを参照してください。

リアブレーキペダル⑥は、車両の右側にあります。リアブレーキペダルを踏み込むと、リアブレーキが作動します。ブレーキングの要領については、74ページを参照してください。



実測値
ブレーキペダルのおそび量： 3～7mm



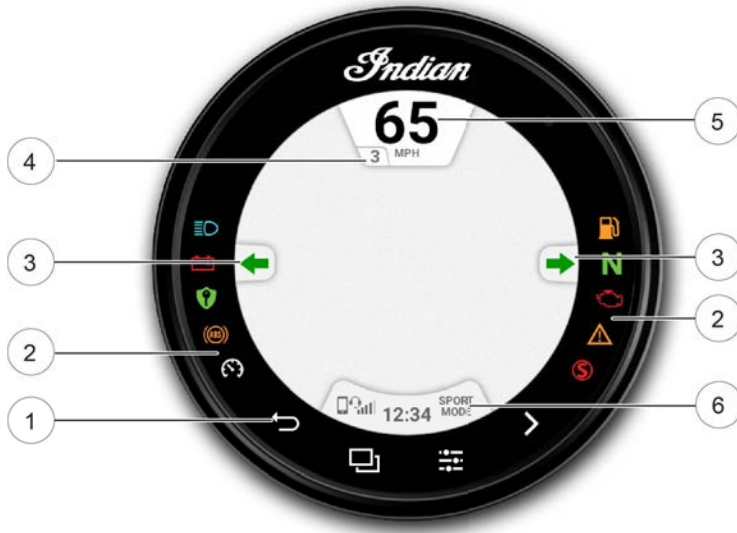
リアブレーキペダルのおそび



ブレーキペダルにはおそびが必ず必要です。おそびがない場合、リアブレーキ系統内に常に圧力がかかり、過熱と故障の原因になることがあります。ブレーキペダルのおそび⑦は、工場出荷時に調整済みです。常に仕様書に指定されたおそびを持たせなければなりません。調整や変更は、ブレーキの破損や故障の原因になることがあります。調整作業は、正規販売店にお任せください。

ライドコマンド (装備車の場合)

概要



- ① タッチスクリーンボタン
- ② 表示・警告灯
- ③ ウィンカーランプ

- ④ 現在のギア
- ⑤ スピードメーター
- ⑥ アイコンバー

走行する前に

はじめてのメーターと画面表示で走行する前に、次の準備をしてください：

- 本書全体をよく読んでください。
- 車両が停止した状態で、表示機能と操作に熟知するようにしてください。
- アップルアプリストア®またはグーグルプレイ®ストアで「インディアンモーターサイクルライドコマンド」アプリをダウンロードし、個人アカウントを作成してください。
- 画面を点検して、お使いの地域の適切な地図が表示されているか確認してください。地図の変更または更新については、ライドコマンドクイックスタートガイドを参照してください。
- <https://www.indianmotorcycle.com/en-us/owners-manuals/>で、オーナーズマニュアルの最新版を確認してください。

注目

エンジンを停止した状態で画面を長時間使用すると、バッテリーが放電してしまうおそれがあります。

ライドコマンド (装備車の場合)

デバイスの動作要件

電話機能は、お使いの携帯電話の機能に応じて作動します。

注目

一部の携帯電話やオペレーティングシステムでは、本書の記載どおりに動作しません。

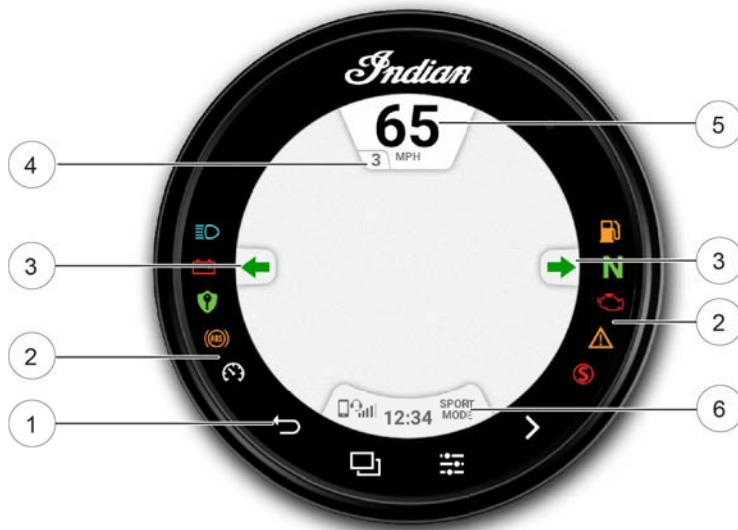
お手入れと点検整備

画面外装部を清掃するには、柔らかい布を低刺激性の石けん水で湿らせて使用してください。刺激性の洗浄剤や研磨剤は使用しないでください。画面の清掃には、マイクロファイバーのタオルが最適です。ウインドウクリーナーやアルコールも使用できます。

注意

画面にガソリンが飛び散った場合はただちに拭き取ってください。

はじめに 概要



① タッチスクリーンボタン

② 表示・警告灯





③ ウィンカーランプ

④ 現在のギア

⑤ スピードメーター

⑥ アイコンバー

ライドコマンドボタン

ボタン	機能
画面切り替え 	画面切り替えボタンを押すと、使用可能な表示画面が切り替わります。
コントロール 	コントロールボタンを押すことで、車両と画面の設定にアクセスできます。
アプリトレー 	アプリトレーボタンを押すと、設定画面と電話画面にアクセスできます。
戻る 	戻るボタンを押すと、メニュー画面に戻りません。

アイコンバー

アイコンバーには、携帯電話の電波強度、現在のライドモードなどの情報が表示されます。



- ①ヘッドセットの接続
- ②クルーズコントロール
- ③携帯電話の電波強度
- ④時計
- ⑤ライドモード

ライドコマンド (装備車の場合)

表示画面

画面切り替えボタン①か左スイッチ部のトリガースイッチを押すと、使用可能な表示画面が切り替わります。



表示画面	機能
メーター画面	スピードメーター、タコメーター、ギア、車両の方向、外気温、オドメーター、燃料残量などの重要情報を表示します。
車両情報	外気温、バッテリー電圧、タイヤ空気圧、平均燃費、および航続可能距離などの車両情報を表示します。
走行情報	走行時間、距離、標高、およびトリップメーターなどの走行情報を表示します。
地図とナビゲーション	地図とターンバイターン方式のルート案内を提供します。
オーディオ	音源を選択し、再生をコントロールします。
コントロール画面	ライドモードを選択し、表示の明るさを調整します。

車両情報

車両情報画面には、フロントとリアのタイヤ空気圧 (装備車の場合)、平均燃費など車両についての重要な情報が表示されます。



- ① 外気温度
- ② 冷却水温
- ③ リアタイヤ空気圧
- ④ バッテリー電圧
- ⑤ フロントタイヤ空気圧
- ⑥ 航続可能距離

ライドコマンド (装備車の場合)

走行情報

走行情報画面には、現在までの走行時間、総走行距離などの重要な走行情報が表示されます。



- ① 走行時間
- ② 移動時間/停止時間
- ③ トリップメーターのリセット
- ④ 詳細情報
- ⑤ 走行距離
- ⑥ 現在の標高
- ⑦ トリップメーターの選択

地図とナビゲーション

地図とナビゲーション画面により、ライドコマンドの数多いナビゲーション機能にアクセスできます。地図とナビゲーション画面から、方向案内、住所検索、ガソリンスタンド検索、および希望の住所のピンポイント検索ができます。選択すれば、目的地までターンバイターン方式のルート案内を利用できます。



音楽

ミュージック画面では、スマートフォンまたはその他の音楽再生機器に保存した音楽にアクセスできます。お使いの機器を、Bluetooth®でペアリングするか、ディスプレイのUSBポートに接続して使用することができます。



- | | |
|------------|-------------|
| ①音源の選択 | ⑤メニュー |
| ②トラック情報 | ⑥トラックコントロール |
| ③トラックの長さ | ⑦シャッフル |
| ④トラックをリピート | |

ライドコマンド (装備車の場合)

スイッチ部

コントロール画面では、ライドモードの選択と画面の明るさの調整ができます。



- ①閉じる
- ②ライドモード
- ③画面の明るさ
- ④トラクションコントロール

アプリトレイ

使用可能なアプリ画面を切り替えるには、アプリトレイハードボタン①を押してください。



設定

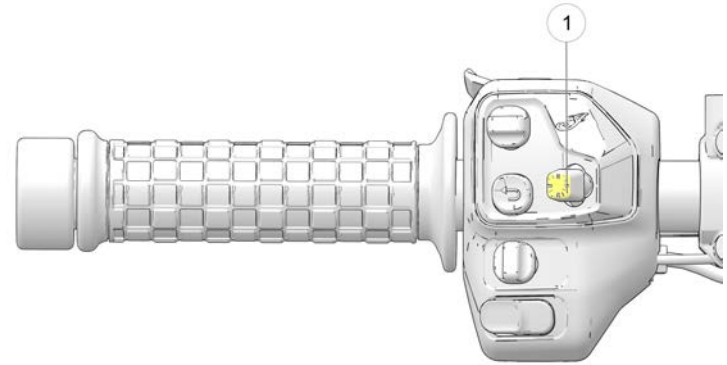
「Settings」で車両の重要な詳細事項を表示し、タッチスクリーン表示を好みに合わせて変更できます。設定メニューは4種のカテゴリーで構成されています：情報、一般、時間、および車両情報です。詳細については、53ページを参照してください。

電話

ライドコマンド画面でBluetoothを使用して電話を接続すると、アプリトレーから電話画面が使用できます。電話画面では、発信、着信応答、テキストメッセージの表示ができます。



ライドコマンド操作スイッチ 5ウェイ・トグルスイッチ



5ウェイ・トグルスイッチを上下左右のいずれかに長押しすると、メディア制御オーバーレイが表示されます。

メディア制御のオーバーレイが画面に表示されて状態で5ウェイ・トグルスイッチを操作すると、表示が変わります。

- 左/右に押して、トラックを変えます。
- 上/下に押して、音量を制御します。
- 中央を押すと、ミュート/ミュート解除が切り替わります。

ライドコマンド (装備車の場合)

ライドコマンド ライドモード

ライダーの運転スタイルに合Sport, Standard, Rain (スポーツ、スタンダード、レインの) 3種のライドモードが選択できます。

各ライドモードのスロットルマッピングは、路面や走行状況の違いを念頭において設計されているため、1台のモーターサイクルに3種類の異なる個性を持たせることができます。



注目

ライドモード変更時は、スロットルを完全に閉じた状態にしていないければなりません。スロットルを開けた状態でライドモードを変更した場合、回転するアイコンが表示され、ライドモード変更が完了していないことを示します。スロットルを完全に閉じるとただちにアイコンが消え、ライドモードが変更されます。

レイン

「Rain」(レイン)モードは、スロットルレスポンスを、濡れた路面の走行に最適なおだやかなセッティングにします。

スタンダード

「Standard」(スタンダード)モードでは、メリハリの利いたスロットルレスポンスとバランスの取れた出力特性により、応答性の鋭い追い越し加速と、挙動が予想しやすい低速ハンドリングを両立します。

スポーツ

「Sport」(スポーツ)モードは、瞬発性のあるレスポンスが必要な状況に合わせて設計されています。スロットルレスポンスが高められ、スタンダードモードよりもアグレッシブな出力特性により加速性能が向上します。

設定

「Settings」で車両の重要な詳細事項を表示し、タッチスクリーン表示を好みに合わせて変更できます。

設定メニューは4種のカテゴリーで構成されています：情報、一般、時間、および車両情報です。



情報

情報設定メニューから、下記を表示させることができます：

- 車台番号 (VIN)
- 走行距離
- インストール済みソフトウェアのバージョン
- オイル交換時期

一般設定

一般設定メニューでは、下記を実行できます：

- 画面背景 (昼間/夜間/自動)
- Bluetooth®機器の管理
- 言語の変更
- 速度単位の設定 (mphまたはkm/h)
- 温度単位の設定 (華氏または摂氏)
- ソフトウェアアップデート

時間

時間設定画面では、次のことが実行できます：

- 時間表示の設定 (12時間または24時間)
- GPS時間の有効化 (現在のタイムゾーンの時間を自動設定)
- 時間設定 (GPSタイム無効時)

注目

時計は時間の基準をGPSチップから得ているため、正しく機能するには定期的なGPSロックが必要です。

注目

バッテリーの接続を外したあとは、時計の時刻表示は消えるか不正確になります。正しく機能するにはGPS同期の新規取り直しが必要です。

車両

車両設定画面では、次のことが実行できます：

ライドコマンド (装備車の場合)

- オイル寿命/サービス時期のリセット
- 車両故障診断へのアクセス

ブルートゥースのペアリング

インディアンモーターサイクル ライドコマンド タッチスクリーン画面は、スマートフォン1台とヘッドセット1セットを同時に接続することができます。

注目

ペアリングは必ずスマートフォンを先に、他の装備品を後に行ってください。

デバイスのペアリングは次のように操作してください：

1. 「Bluetooth® Devices settings」画面から、「Phone」または「Music」画面に進み、「Add Device」ボタンをタップしてペアリング画面を表示させます。
2. ブルートゥースデバイスをペアリングモードにしてください。
3. タッチスクリーン画面で、ペアリングを希望するデバイスの名前を選択し、ペアリング処理を完了してください。
4. ペアリングの確認 (該当する場合)。ペアリング中のデバイスによっては、ペアリングの確認を求める表示が出る場合があります。

コネクテッドサービス

一部のインディアンモーターサイクル ライドコマンド 装備車種では、コネクテッドサービスが内蔵されており、購入日から規定の日数に限り使用できます。この機能には、リアルタイムの交通情報、気象情報、および強化された目的地検索能力が備わっています。コネクテッドサービスの現在のステータスの確認、または更新は、<http://ridecommand.indianmotorcycle.com> で実行できます。

ソフトウェアアップデート

インディアンモーターサイクル ライドコマンドの最新バージョンは、
<https://ridecommand.indianmotorcycle.com>で入手できます。

最新バージョンのソフトウェアが入ったUSBスティックメモリーを、画面右側のUSBポートに挿入すると、画面ソフトウェアを更新することができます。「Settings」内の「Update Software」メニューに、USBスティックメモリー内に保存済みで使用可能な更新の一覧が表示されます。適切なバージョンを選択し、アップデート完了まで待ちます。その後、USBスティックメモリーを引き抜いてください。アップデートが完了すると、タッチスクリーン画面は自動的に再起動します。

注目

アップデート実行には、FAT-32またはexFAT®フォーマットのUSB 2.0もしくはUSB 3.0フラッシュドライブが必要です。上記使用条件に適合しないフラッシュドライブは、認識されません。

重要

アップデート実行中は、画面の電源を切らないでください。

マップアップデート

ライドコマンドの最新バージョンの地図は、<https://ridecommand.indianmotorcycle.com>で入手できます。

注目

ソフトウェアと地図の更新後、画面は自動的に再起動します。

注目

地図のアップデートの場合、exFAT®でフォーマットした32GB以上のUSBドライブが必要です。

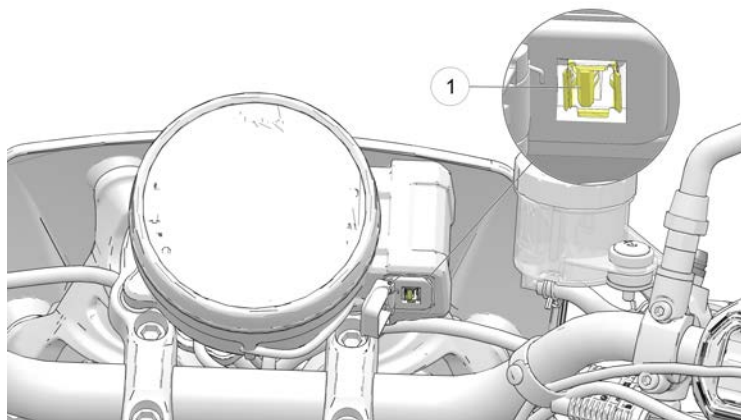
ライドコマンド (装備車の場合)

USBポート

USBポート①を使用すれば、携帯電話、オーディオ機器、GPS装置などに簡単に電源を供給できるうえ、LCD画面によって、お使いのBluetoothヘッドセットに音楽をストリーミングできます。インディアンモーターサイクルライドコマンド装備車の場合、USBポートは、ディスプレイソフトウェアのアップデートにも使用されます。最新ソフトウェアについては、<https://ridecommand.indianmotorcycle.com>をご覧ください。

重要

走行環境は過酷であるため、インディアンモーターサイクルでは、保持機能付きUSBデバイスの使用をお勧めします。



走行前点検

概要

お使いのモーターサイクルを安全に運行できる状態に維持するために、走行前は毎回、規定の走行前点検を必ず実施してください。これは長距離ツーリングの場合、およびモーターサイクルを長期保管後に再使用する場合に、特に重要です。



警告

規定の走行前点検を実施しない場合、走行中に部品故障が発生し、重傷や死亡を伴う事故の原因になるおそれがあります。走行前には毎回、走行前点検を実施してください。点検により調整、交換、または修理の必要が確認された場合、ただちに整備を行うか、インディアンモーターサイクル正規販売店に整備を依頼してください。



警告

モーターサイクルに乗車する前に、本書の「計器、機能、および操作装置」セクション全体をお読みください。愛車の機能と能力を完全に理解しておくことは、安全運転に不可欠です。これらを完全にできない場合、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。

走行前点検を実施するには、計器と操作装置のすべてに精通している必要があります。

注目

走行前点検中、オイルやブレーキフルードなどの潜在的に危険な化学製品を使用することがあります。こうした化学製品を使用する場合は、必ず製品パッケージに記載されている指示事項と警告に従ってください。

点検により調整、交換、または修理の必要が確認された場合は次のいずれかを実行してください：

- 本書のメンテナンスセクションを参照してください。
- インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照してください。
- インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

走行前点検

電気系統の点検

下記の電気系統点検を実施する前に、イグニッションキーをONの位置に回し、キルスイッチをRUNの位置にしてください。点検完了後は、イグニッションスイッチをOFF位置に戻してください。電機系統点検により、部品の故障が明らかになった場合、モーターサイクルを走行させる前に当該部品を修理するか交換してください。

項目	点検要領
ヘッドライト	エンジンを始動し、ヘッドライトを点灯させてください。ヘッドライトが点灯したらすぐに、ハイビームに切り替えてください。ハイビームインジケータが点灯し、ライトの明るさが強くなることを確認してください。
テールランプ/ブレーキランプ	テールランプおよびナンバー灯が点灯していることを確認してください。フロントブレーキレバーを握る、およびリアブレーキペダルを踏んだ状態を別々に操作し、それぞれテールランプの明るさが強くなることを確認してください。
ウインカー	ウインカースイッチを左に動かしてください。フロントとリアの左ウインカー、インストルメントパネルの対応する表示灯が点滅することを確認してください。ウインカースイッチを中央位置に動かして前方に押し、ウインカーを消灯してください。ウインカーと表示灯の点滅が止まるのを確認してください。右ウインカーについても同じ手順を繰り返してください。
ハザードランプ	ハザードランプスイッチを1~2秒間長押しし、ハザードランプを点灯させてください。4個のウインカーと、インストルメントパネルの対応する表

項目	点検要領
	示灯がすべて点滅することを確認してください。ハザードランプをオフにしてください。ウインカーと対応する表示灯がすべて点滅を停止することを確認してください。
ホーン	ホーンスイッチを押してください。ホーンが大音量で鳴ることを確認してください。
ニュートラル表示灯	トランスミッションをニュートラルにしてください。ニュートラル表示灯が点灯し、ギアポジション表示に「N」と表示されることを確認してください。
油圧低下警告灯	エンジンを始動してください。油圧低下警告灯が点灯していないことを確認してください。
エンジンキルスイッチ	エンジンを始動してください。キルスイッチをSTOP位置に動かしてください。エンジンが停止することを確認してください。

全体点検

項目	点検要領
エンジンオイル	油量を点検してください。
燃料	燃料の量を点検してください。
冷却水の量	内の冷却水量を点検してください。
液体類の漏れ	車両および地面/床面に燃料、オイル、冷却水、フルードの漏れ痕がないか点検してください。
タイヤ	全体の状態、空気圧、およびトレッド溝の深さを点検してください。
ブレーキの動作	ペダルとレバーの動きを点検してください。
ブレーキフルード液量	フロントリアのブレーキフルードの液量を点検してください。
ブレーキ構成部品	ホースと接続部を点検してください。
スロットル	スロットルグリップとスロットルの動きを点検してください。
クラッチ	クラッチレバーの動きとあそびを点検してください。
フロントサスペンション	フォークオイルの漏れ、ゴミの付着、破損がないか点検してください。

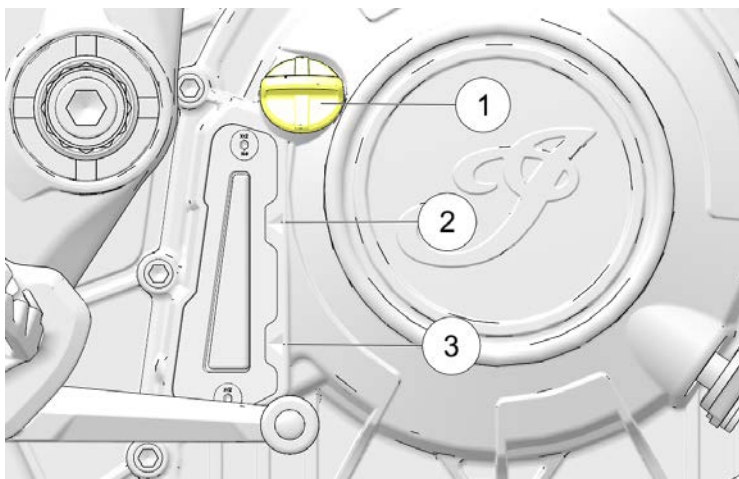
項目	点検要領
ステアリング	ハンドルバーを左右それぞれいっぱいいきり、動きが滑らかであることを確認してください。
リアサスペンション	取り付け状況を確認し、オイル漏れを点検してください。
ドライブチェーン	摩耗または破損がないか点検してください。
サイドスタンド	動きが滑らかであることを確認し、ピボットボルトとスプリングを点検してください。
各部のボルト、スクリュー、ナット	ボルト、ナット全般に、緩み、破損、または脱落がないか点検してください。
バックミラー	適切な後方視界が得られるよう調整してください。
遮熱板	エキゾースト遮熱板がすべて取り付け済みで、良好な状態であるように注意してください。

エンジンオイル量の点検

このモーターサイクルはセミドライサンプ潤滑システムを採用しているため、点検窓から見るエンジンオイル量は、モーターサイクルの姿勢や油温に応じて変動します。エンジンオイル量を正しく量るには、点検手順のすべてに厳密に従ってください。

重要

オイル量の点検時、エンジンは通常の作動温度に達していなければなりません。オイル量は、走行後または冷間始動後5~10分間のアイドリングの後で点検してください。



1. 車両を正立させて（垂直な状態）、エンジンを始動し30秒間アイドリングして暖機してください。
2. エンジンを停止してください。
3. 車両を水平な場所に置き、正立（ステアリング中立）姿勢に保持してください。
4. オイル量を点検窓から目視で点検してください。オイル量は、点検窓の中央付近、FULL②マークとADD③マークの間でなければなりません。
5. 入れすぎないでください。適正なオイル量は、点検窓の中央付近です。オイル量が少ない場合、エンジンオイルフィルタープラグ①を外して、インディアンモーターサイクル100%化学合成エンジンオイル15W-60を補充してください。オイル量が安全作動範囲内になるまで、手順1~4を繰り返してください。

注意

エンジンが冷えた状態で点検した場合、オイル量は正確ではありません。エンジン冷間時は、点検窓の中央付近までオイルを補充しないでください。入れすぎの原因になることがあります。

注目

入れすぎないでください！オイル量は、点検窓の中央付近、FULLマークとADDマークの間であればおおむね適量です。

タイヤ



警告

不適切なタイヤ、不適切なタイヤ空気圧、または摩耗の進んだタイヤでモーターサイクルを走行させると、制御不能や重傷事故の原因になるおそれがあります。空気圧不足は、タイヤの過熱の原因になり、タイヤバーストを引き起こすことがあります。インディアンモーターサイクルがその車種用に承認したタイヤのみを使用してください。正規販売店にご連絡ください。未承認のタイヤや、前後タイヤの不適切な組み合わせを使用すると、ハンドリング性能と安定性が損なわれ、車両の制御が困難になることがあります。本取扱説明書、または安全ラベルに記載されている指定空気圧を常に適切に維持してください。

タイヤ空気圧

不適切なタイヤ空気圧は、タイヤの異常摩耗、不具合、燃費低下、および乗り心地の低下の原因になることがあります。また、ハンドリングと制動能力に悪影響を及ぼすことがあります。

長い間にタイヤ空気圧が徐々に抜けていくのは、正常なタイヤに普通に見られる現象です。必ず、走行前にタイヤの空気圧と状態を点検してください。

走行前のタイヤ空気圧の点検は、タイヤが冷えている状態で行ってください。走行によりタイヤ温度が上がり空気圧が高くなるため、冷間時に点検することで、最も正確な測定値が得られます。タイヤは、走行後少なくとも3時間ほど温度が高い状態を保ちます。走行後は、タイヤ空気圧を調整しないでください。タイヤの温度が下がると、空気圧も下がり、膨張度が低下します。タイヤ空気圧の点検調整は、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。

精度の高い空気圧計を使用して、タイヤ空気圧を既定値に調整してください。

タイヤの状態

タイヤのサイドウォール、接地面、およびトレッドベースを点検してください。点検により、切り傷、刺し傷、亀裂、またはその他の損傷が発見された場合、走行前にタイヤを交換してください。インディアンモーターサイクルがその車種用に承認したタイヤのみを使用してください。正規販売店にご連絡ください。未承認のタイヤや、前後タイヤの不適切な組み合わせを使用すると、ハンドリング性能と安定性が損なわれ、車両の制御が困難になることがあります。

タイヤの残り溝深さ

前後タイヤのトレッド中央部付近で、残り溝の深さを測定してください。133ページを参照してください。残り溝深さが1.6mm未満の場合、タイヤを交換してください。

ブレーキ液量の点検

重要

リザーバー内のブレーキフルードの液量は、ブレーキパッドの摩耗とともに低下します。ブレーキフルード液量の突然の低下に気づいた場合は、ブレーキパッドの摩耗とブレーキ系統の漏れを点検してください。

注目

新品のブレーキパッドを取り付けたときに、リザーバーのMAXマークまでフルードを補充してください。このリザーバーは、ブレーキパッドの摩耗とともに液量が減少するため、摩耗度合いの指標として利用できます。液量がMINマーク付近になっている場合、ブレーキパッドを点検し、必要な場合は交換してください。液量を指標として利用できる一方で、ブレーキ摩耗点検の最良の方法は、パッドそれ自体を点検することです。

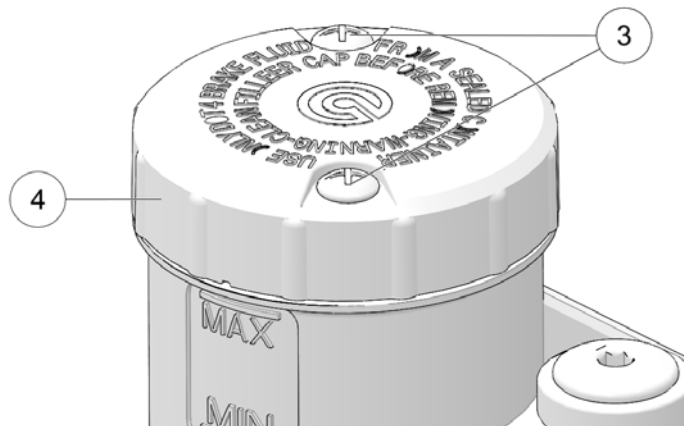
フロントブレーキ液量点検

1. リザーバーの上面が水平になるように、ハンドルバーを回すが、モーターサイクルの位置を調整してください。



2. フルード点検窓からフルード液量を目視点検してください。フルードは透明でなければなりません。また、液量はMIN①マークとMAX②マークの間でなければなりません。
3. 清潔な布で、リザーブタンクカバー周辺を拭いてください。
4. 清潔な布で、ブレーキフルード容器を拭いてください。

5. ネジ③を外し、リザーブタンクカバー④を取り外してください。



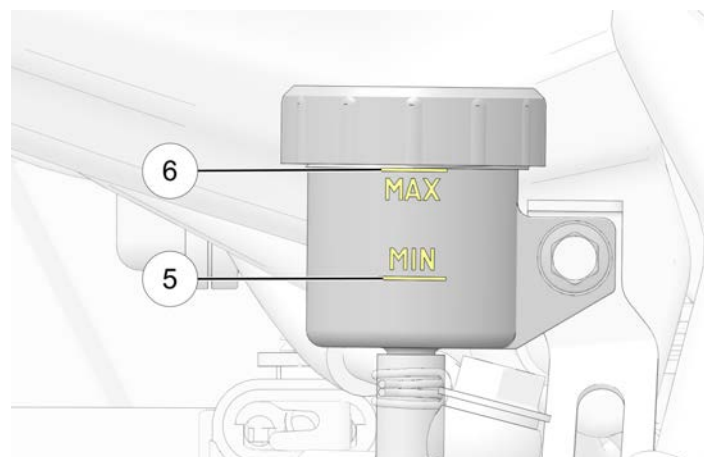
6. DOT4ブレーキフルードを慎重に補充し、液量がMIN①マークとMAX②マークの間になるようにしてください。ブレーキフルードは、必ず新品未開封容器のものを使用してください。
7. リザーブタンクカバーを元のとおりに取り付けて、ネジを指定トルクで締め付けてください。

トルク

フロントマスターリザーブタンクカバースクリュー：
1.4Nm

リアブレーキ液量点検

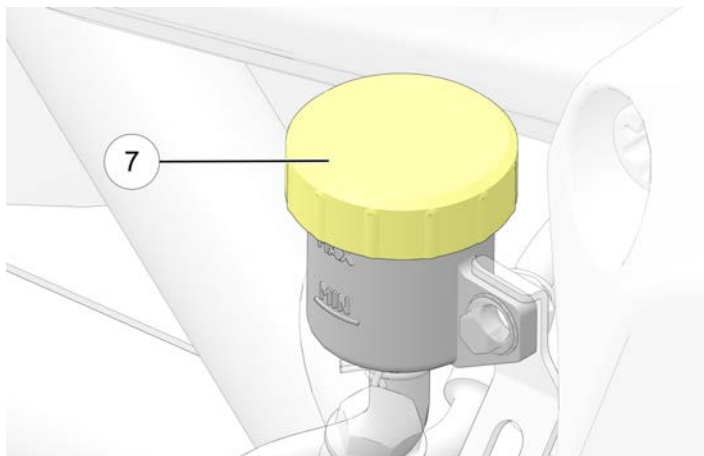
1. フルード液量は、リアブレーキリザーブタンクの点検窓で点検します。
2. 車両を直立状態にして、フルード点検窓を透かして液量を目視で確認してください。フルードは透明でなければなりません。また、液量はMIN⑤マークとMAX⑥マークの間でなければなりません。



3. 清潔な布で、リザーブタンクカバー周辺を拭いてください。
4. 清潔な布で、ブレーキフルード容器を拭いてください。

走行前点検

5. リザーブタンクカバー⑦を取り外してください。



6. DOT4ブレーキフルードを慎重に補充し、液量がMIN⑤マークとMAX⑥マークの間になるようにしてください。ブレーキフルードは、必ず新品未開封容器のものを使用してください。
7. ダイヤフラムとカバーを取り付けてください。

フロントブレーキレバー

1. フロントブレーキレバーをハンドルバーの方向に引いて、そのまま保持してください。レバーは引っかかりなく滑らかに動かなければなりません。レバーを握った感触は硬く、緩めるまで硬い感触が続かなければなりません。
2. レバーを放してください。放したときに、レバーが素早く元の位置に戻らなければなりません。
3. フロントブレーキレバーが上記のように作動しない場合、走行前にブレーキレバーの整備をしてください。

リアブレーキペダル

1. リアブレーキペダルを踏むまたは押し下げてください。ペダルは引っかかりなく滑らかに動かなければなりません。ペダルを踏んだ感触は硬く、緩めるまで硬い感触が続かなければなりません。
2. ペダルを放してください。放したときに、レバーが素早く元の位置に戻らなければなりません。
3. リアブレーキペダルが上記のように動作しない場合、またはブレーキが掛かり始めるまでの踏みしろが大きすぎる場合、走行前にブレーキを整備してください。

ブレーキライン

フルードの漏れやしみ、フルードの乾いた痕や汚れがないか、ブレーキホースとコネクターを点検してください。接続部に漏れがある場合は規定トルクで増し締めし、必要な場合は部品を交換してください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するが、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

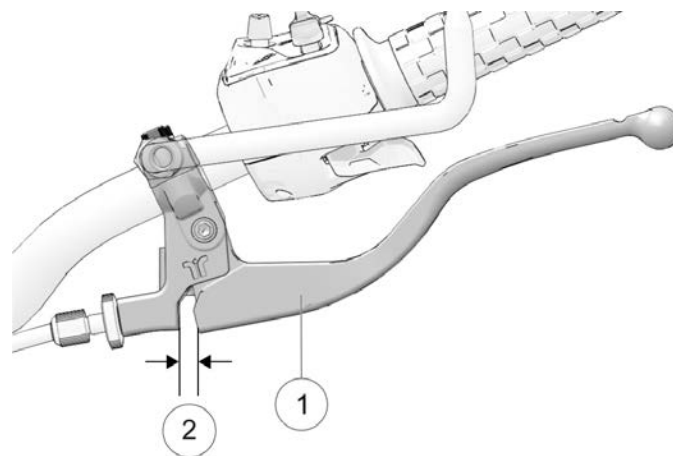


警告

ブレーキフルードの漏れや液量低下は、ブレーキシステムの故障の原因になることがあり、重傷事故や死亡事故を引き起こすおそれがあります。ブレーキフルードの液量が低下した状態や、漏れが認められる（しみやフルードの乾いた痕）がある状態では車両を走行させないでください。インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

クラッチ

1. クラッチレバー①をハンドルバー方向に握り、放してください。動きに引っかかりがなく滑らかで、放したときにレバーが素早く元の位置に戻らなければなりません。クラッチレバーが上記のように作動しない場合、走行前にレバーおよびワイヤーの整備をしてください。



2. クラッチレバーのあそび②（隙間）とは、操作開始からケーブルの張りを感じる位置までのレバーの移動量です。クラッチレバーとレバーハウジングの間の隙間を測定してください。必要な場合は、クラッチレバーのあそびを調整してください。

走行前点検

実測値

クラッチレバーのあそび：
0.5～1.5mm

注目

クラッチ安全スイッチの確実な作動のため、正しく調整されたクラッチレバーのあそびにより、スターターインターロックスイッチが正常に作動する必要があります。

スロットル

スロットルグリップをひねってください。グリップは全閉位置から全開位置まで滑らかに回転しなければなりません。放した場合は、素早く全閉位置に戻らなければなりません。

フロントサスペンション

フロントフォークにオイル漏れや破損がないか点検し、サスペンションが滑らかに作動することを確認してください。詳細については、「フロントフォーク/サスペンションの点検」のセクションを参照してください。

リアサスペンション

リアショックアブソーバーの取り付け状況を確認し、漏れを点検してください。オイル漏れや何らかの不具合を発見した場合は、正規販売店に整備を依頼してください。点検と調整の詳細については、115ページ以降の「リアショックプリロードの点検」のセクションを参照してください。



警告

地上高が不足していると、車体や構成部品が地面に接触してモーターサイクルのコントロールを失わせ、重傷事故や死亡事故の原因になるおそれがあります。必ず規定の地上高を確保してください。

スプロケットの点検

注目

ドライブチェーンとスプロケットの使用寿命を最大限に延ばし、ドライブラインのノイズを最小化するには、十分な清掃が必要です。清掃時期はおおむねタイヤ交換時です。ただし、ぬかるみ、土埃、または異物の多い場所を走行する場合は、頻繁に清掃してください。

チェーンブラシまたはウェスを使用してチェーンを清掃し、泥や砂ほこりを除去してください。チェーンの潤滑には、必ずインディアンモーターサイクルチェーンループ (2884172) を使用してください。



注意

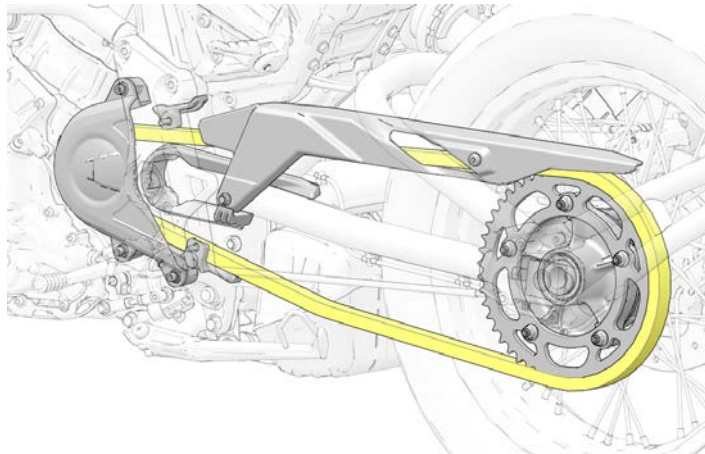
この手順の実行時は、必ず車両の電源をオフにし、トランスミッションをニュートラルに入れてください。



注意

チェーンの清掃にグリース除去剤は使用しないでください。グリース除去剤がチェーンのOリングを傷め、摩耗を早めるおそれがあります。

1. フロントとリアのスプロケットの歯に摩耗や、異物による破損がないか点検してください。



2. 注意深くドライブチェーンの状態を点検してください。

点検ポイント：

- 摩耗パターン - スプロケット全体が均等に摩耗しているか確認します
- 亀裂
- 歯の欠落
- 歯の大きさが均一であること

ドライブチェーン

1. ドライブチェーンに大きな摩耗やたるみ、異物（砂ほこり）、またはその他の損傷がないか点検してください。
2. 何らかの損傷がある場合は、チェーンを交換してください。
3. 走行距離8,000kmを超えるドライブトレインにおいて、摩耗のためドライブチェーンやスプロケットを交換する場合は、チェーンと前後スプロケットをセットで交換してください。

燃料の量

1. 車両を平らな地面上にサイドスタンドで支持した状態にしてください。
2. 燃料キャップをゆっくりと開けてください。
3. タンク内の燃料の量を目視で確認してください。
4. 必要な場合は、給油口の下端まで補充してください。燃料補給の指示については、「給油」のセクションを参照してください。燃料の規格については、「指定燃料」のセクションを参照してください。

サイドスタンド

1. 水平な地面上で、モーターサイクルにまたがり完全な正立位置にします。
2. サイドスタンドを格納位置上げてから、完全に展開する動作を数回繰り返してください。サイドスタンドは滑らかに、音も無く動かなければなりません。サイドスタンドを格納位置上げた場合、リターンスプリングによってその位置に確実に保持されていることを確認してください。スプリングの緩みがある場合は調整または交換してください。
3. サイドスタンドピボットボルトに緩みや摩耗がないか点検してください。緩みや摩耗がある場合は、増し締めまたは交換してください。
4. サイドスタンド安全スイッチが正常に作動するか、定期的にテストしてください。サイドスタンドを下ろした状態で、ギアをニュートラル以外に入れ、ブレーキをかけた状態で、エンジン始動操作を行ってください。サイドスタンドが下ろされている場合、ニュートラルでない限り、エンジンは絶対に始動するはずがありません。このテストでエンジンが始動した場合は、正規販売店に整備を依頼してください。

各部のボルト、スクリュー、ナット

1. モーターサイクルの車体とエンジン全体に、ボルト、ナットの緩み、破損、脱落がないか点検してください。
2. 緩んだボルト、ナットは指定トルクで増し締めしてください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

注目

ボルト、ナットのうち、ねじ山が潰れているもの、破損したもの、折損したものは、必ず走行前に交換してください。同サイズ同強度のインディアンモーターサイクル純正品を使用してください。

運転操作 概要

このセクションでは、適切な手入れと操作によって、モーターサイクルがその性能を長期間にわたって最大限に発揮できるようにする方法を説明しています。

このセクションで取り扱っている重要な内容には次のようなものがあります：

- エンジンの慣らし運転
- 燃料補給
- エンジン始動
- ギアチェンジ
- 加速
- ブレーキング
- エンジン停止
- 駐車

注目

経験豊富なライダーやパッセンジャーでも、モーターサイクルを走行させる前に本取扱説明書の安全情報をすべて熟読しなければなりません。

注目

この説明書に記載している手順に正確に従ってエンジンの慣らし運転を行わないと、エンジンに深刻な損傷が生じるおそれがあります。慣らし運転は、この手順に従って注意深く実施してください。慣らし運転期間中は、アクセル全開操作など、エンジンに大きな負荷のかかる条件を避けるようにしてください。

エンジンの慣らし運転

エンジンの慣らし運転期間は、使用開始後800km走行までです。慣らし運転期間中は、エンジンの重要部品が各々適切な位置関係にあり、可動部品同士のすり合わせを最適にするために、定められた手順を遵守してください。慣らし運転手順全体を熟読し、よく理解し、守ってください。愛車のエンジンを、高性能のまま長期にわたって維持し、耐久性を保つために、この手順の実施が不可欠です。

慣らし運転期間中のモーターサイクルの取り扱いを注意深く行うほど、モーターサイクルは長期にわたって高性能を発揮します。低回転での高負荷運転および/または早期の高回転使用は、エンジン構成部品の破損を招くおそれがあります。

慣らし運転期間中は、下記の予防措置を遵守してください：

- 使用開始から間もない時期は、始動後にエンジンを長時間アイドリングさせないでください。オーバーヒートの原因になることがあります。
- スロットル開度の大きい急発進は避けてください。エンジンの暖機が終わるまでゆっくりと走行してください。
- 高いギアを使って極端な低回転で走行させることはしないでください（エンジン回転がギクシャクまたは停止します）。
- 指定の走行速度とギア段数の範囲内で走行してください。68ページおよび72ページを参照してください。

注目

新車時またはキャリブレーション更新後は、エンジンキャリブレーションを完全に適応させるため、シリンダー作動停止を無効にし、クーラント温度が83°Cを超えた状態でアイドルングさせ、最大10分間を要する場合があります。

走行速度とギア段数

オドメーター	慣らし運転の手順
0～145km	長時間にわたってスロットル開度1/3以上を使用すること、一定のスロットル開度で長時間走行することはしないでください。エンジン回転数を頻繁に変えてください。
146～483km	長時間にわたってスロットル開度1/2以上を使用すること、一定のスロットル開度で長時間走行することはしないでください。エンジン回転数を頻繁に変えてください。
484～800km	長時間にわたってスロットル開度3/4以上で走行しないでください。
800到達時km	この説明書のメンテナンスセクションにある「慣らし運転後のメンテナンス」を実施してください。慣らし運転後のメンテナンスは、正規販売店で実施しなければなりません。慣らし運転後のメンテナンスには、点検、調整、増し締め、エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換が含まれていなければなりません。慣らし運転後のメンテナンスを指定のオドメーター値で実施することは、エンジンの性能をフルに発揮させ、排気ガスの汚染物質を最小限にし、エンジンの使用寿命を最大限に延ばす効果があります。

燃料補給

給油時は必ず降車し、モーターサイクルを水平な場所に置いてサイドスタンドを立ててください。燃料警告灯を確認してください。16ページを参照してください。かならず推奨燃料を使用してください。163ページを参照してください。



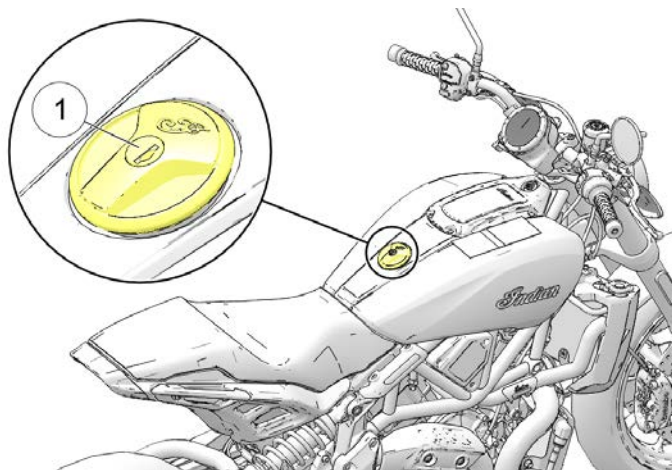
警告

あふれたりこぼれたりしたガソリンが高温のエンジンや排気系に触れると火災が生じ、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。高温の部品にはガソリンを接触させないでください。



警告

燃料キャップは必ずゆっくりと開けてください。ガソリンがこぼれないようにゆっくりと給油してください。燃料タンクに燃料を入れすぎないでください。燃料の膨張に備えて、タンク内に空間を残しておいてください。



5. モーターサイクルに乗車する前に、必ず燃料キャップを閉じ、ロックしてください。燃料キャップを強く下に押しつけた状態で、もう一方の手でキーを反時計回りに回してください。キーを時計回りに回して、ロックを掛けてください。
6. ガス欠を起こした場合は、エンジン始動前に、燃料システムのプライミング（エア抜き）を行ってください。69ページを参照してください。

注目

燃料は塗装面とプラスチック部品を傷めることがあります。ガソリンがモーターサイクルのどこかにこぼれ落ちた場合には水で洗い流すが、清潔な布で乾いた状態まで拭き取ってください。

燃料システムのプライミング（エア抜き）

ガス欠を起こした場合は、エンジン始動前に、燃料システムのプライミング（エア抜き）を行ってください。

1. 燃料タンクのキャップ①を開けるには、イグニッションキーをキャップロックに差し込んで反時計回りに回してください。
 2. 給油ノズルを燃料タンクの給油口に差し込んでください。
 3. 給油中、ノズルから手を放さないでください。ノズルとホースの重量を給油口にかけないでください。ノズルを無人のまま放置しないでください。
 4. 給油は、油面が給油口の楕円形開口部に達するところまでとしてください。この油量が満タンです。燃料タンクに燃料を入れすぎないでください。燃料液面が給油口下部の開口部を超えない量でなければなりません。燃料を入れすぎると、エンジンおよび燃料蒸発ガス排出抑制装置の性能低下を招くことがあります。
1. 燃料タンクを満タンまで給油してください。
 2. イグニッションキーをON位置に回してください。
 3. エンジンキルスイッチをRUN位置にしてください。
 4. 燃料ポンプが作動します。停止するまでそのまま待ってください（約2秒間）。
 5. キルスイッチをSTOP位置にして、15秒間待ってください。
 6. 手順3～5を、4～5回繰り返してください。
 7. キーをOFF位置にしてください。
 8. エンジンを始動してください。70ページを参照してください。

エンジン始動

スターターインターロックシステムにより、トランスミッションがニュートラルに入っているか、ニュートラル以外に入っているがクラッチが切れている（クラッチレバーが握られている）場合のみ、エンジン始動が可能です。

1. 走行前点検を実施してください。55ページを参照してください。荷物は必ずしっかりと固定してください。
2. モーターサイクルにまたがり完全な正立位置にします。サイドスタンドを格納してください。
3. イグニッションキーをON位置に回してください。
4. エンジンキルスイッチをRUN位置にしてください。
5. トランスミッションをニュートラルに変速してください。
6. フロントブレーキをかけてください。クラッチレバーをいっぱいまで握って、動力を切ってください。
7. スタータースイッチをワンタッチ（一度押してから放す）し、エンジンを始動してください。スターターモーターはエンジンが始動するまでクランキングします。ただし、3秒を超えることはありません。エンジンが始動しない場合、5秒間待ってからもう一度お試しください。
8. 冷間始動の場合、始動時にスロットルを開けないでください。アイドル回転数はコンピューター制御で自動的に調整されます。始動後少なくとも30秒間、エンジンをそのまま低回転にして暖機運転を行ってください。エンジン回転数を2,500rpm以上にししないで下さい。温間始動の場合、始動時にスロットルを開けないでください。

9. エンジン始動後もエンジン警告灯または油圧低下警告灯のいずれかが消灯しない場合は、ただちにエンジンを停止してください。30ページの油圧低下警告灯の内容を参照してください。

注目

シリンダーの一方が失火するか、まったく点火しない状態で走行すると、触媒コンバーターが過熱して破損することがあります。この場合、排出ガス浄化機能が働かないおそれがあります。一方のシリンダーが失火する、またはまったく点火しない状態では、モーターサイクルを走行させないでください。

10. スロットルを閉じたままにし、エンジンをアイドリングで作動させてください。エンジン温度が適正温度に上がるにつれてアイドル回転数が徐々に低下します。

ヒント

エンジン始動直後にエンジンの回転数を上げること、またトランスミッションをニュートラル以外に変速することはおやめください。温間始動後約30秒間、または冷間始動後は約1分間エンジンをアイドル回転数に保ってください（寒冷時はさらに延ばしてください）。これにより、エンジンに負荷が掛かる前にエンジン各部にオイルが行きわたります。

注目

クラッチを切った状態またはトランスミッションがニュートラルに入った状態で、エンジンを高回転で作動させるのはおやめください。安全なエンジン最高回転数は8,300rpmです。この最高回転数は絶対に超えないようにして下さい。エンジンに深刻な破損が生じるおそれがあります。

アイドリングストップ

通常の状態ではエンジンがアイドリングしており、何の操作も行われず15分が経過した場合、エンジンが停止します。ミスファイア（失火）が検出された場合、何の操作も行われず5分間が経過した場合、エンジンが停止します。エンジンアイドリングカウントダウンタイマーの作動中に、クラッチ/ブレーキレバーまたはスロットルの操作が行われた場合、エンジン停止シーケンスは中止されます。エンジンが自動停止する場合、その3分前にライダーに通知されます。

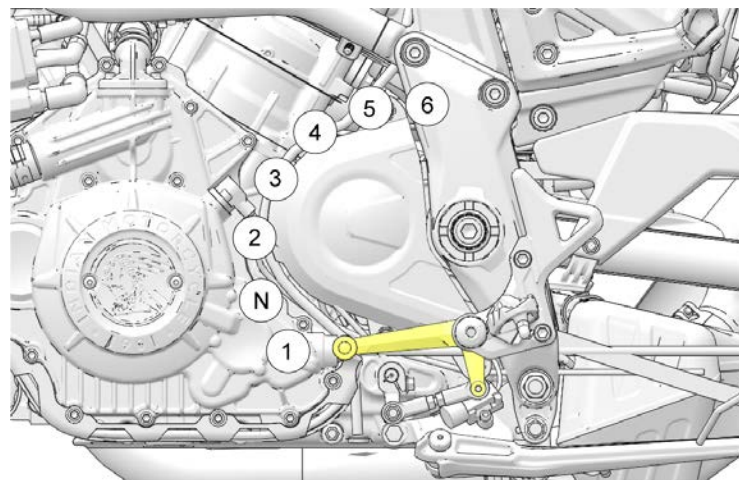
ギアチェンジ



警告

クラッチをつないだままで無理に変速すると、エンジン、トランスミッション、およびドライブトレインが破損するおそれがあります。そうした損傷により車両の制御ができなくなり、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。変速操作の前に、必ずクラッチレバーをいっぱいまで握って、クラッチを切って下さい。

このモーターサイクルは6速トランスミッションを装備しています。ニュートラルは1速と2速の間にあります。



ペダルを下に踏むと、低いギアに変速します。ペダルをつま先で上げると、高いギアに変速します。変速操作をするたびに、クラッチレバーを放してください。

ニュートラルへの変速は、モーターサイクルが低速で走行している場合に最も容易にできます。1速からニュートラルに入れるには、シフトレバーをつま先で半ストローク分、穏やかに上げてください。

ヒント

クラッチを切らずにモーターサイクルを前後に動かすことができる場合は、トランスミッションはニュートラルに入っています。イグニッションスイッチがON位置の場合、トランスミッションがニュートラルのときは、ニュートラル表示灯が点灯します。

運転操作

停止中の変速

モーターサイクルの停止時にニュートラルに入れるには、下記いずれかの方法を使って、トランスミッションに負荷をかけたり抜いたりしてください：

1. クラッチを切った（レバーを握った）状態で、モーターサイクルを前後に揺らしながらニュートラルに変速してください。
2. トランスミッションが1速に入っている場合は、クラッチレバーをつなぐりはじめる位置までゆっくりと放してください。シフトレバーに上向きの力をかけながら、クラッチレバーを素速く握ってください。

注目

インストルメントパネルにニュートラル表示灯があります。

走行中の変速



警告

不適切なシフトダウンは、トランスミッションが破損し、トラクションを喪失して車両の制御ができなくなり、重傷事故や死亡事故につながるおそれがあります。

- シフトダウンの前に減速してください。シフトダウンは、必ず推奨シフトポイントの範囲内で行ってください。
- 濡れた路面、滑りやすい路面、トラクションの低い路面では特に注意してください。このような路面でクラッチレバーを放す場合は、特にゆっくりと行ってください。
- カーブでのシフトダウンは避けてください。シフトダウンは、カーブに進入する前に行ってください。

1. エンジンを始動してください。70ページを参照してください。
2. エンジンがアイドル回転数で作動している状態で、フロントブレーキをかけてください。
3. クラッチレバーをいっぱいまで握って、動力を切って下さい。
4. シフトペダルを、1速に入って止まるところまで踏み込んでください。
5. ブレーキレバーを放してください。
6. 同時に、スロットルを開けながら（スロットルグリップを後方にひねりながら）、クラッチレバーを滑らかに連続した動作で放してください。クラッチが繋がって行くにつれて、モーターサイクルが前進します。
7. 高いギアに変速するには、推奨シフトポイントまで滑らかに加速してください。推奨シフトポイント表を参照してください。スロットルを閉じると同時にクラッチを切ってください。ともに素速く一気に操作してください。シフトペダルを、次のギアで止まるところまでつま先で上げてください。同時に、滑らかな連続した動作でクラッチを放し、スロットルを開けてください。
8. 低いギアに変速（シフトダウン）するには、クラッチレバーを握ると同時にスロットルを閉じます。シフトペダルを、次のギアで止まるところまで踏み込んでください。同時に、スロットルを開け回転をあまりながら、クラッチレバーを放してください。

ヒント

推奨速度（推奨シフトポイント表を参照してください）の範囲内であれば、シフトダウンによってモーターサイクルを減速させたり、出力を増大させたりすることができます。上り坂や追い越し時にシフトダウンする必要もあります。また、シフトダウンとスロットルを閉じることを組み合わせれば、減速に役立てることもできます。

FTR/FTR SPORT/FTR R CARBON

シフトアップ（加速時）		シフトダウン（減速時）	
変速	推奨速度	変速	推奨速度
1速から2速へ	27km/h	6速から5速へ	72km/h
2速から3速へ	49km/h	5速から4速へ	61km/h
3速から4速へ	61km/h	4速から3速へ	49km/h
4速から5速へ	72km/h	3速から2速へ	27km/h
5速から6速へ	82km/h	2速から1速へ	20km/h

推奨シフトポイント

FTR RALLY

シフトアップ（加速時）		シフトダウン（減速時）	
変速	推奨速度	変速	推奨速度
1速から2速へ	26km/h	6速から5速へ	67km/h
2速から3速へ	45km/h	5速から4速へ	57km/h
3速から4速へ	57km/h	4速から3速へ	46km/h
4速から5速へ	67km/h	3速から2速へ	26km/h
5速から6速へ	76km/h	2速から1速へ	18km/h

ブレーキング

ブレーキを徐々にかけることができるように、必ず十分手前から制動を開始してください。

ヒント

一般に、フロントブレーキをリアブレーキよりわずかに強くかけることで、最良の制動性能が得られます。

1. モーターサイクルをブレーキで減速させるには、スロットルを閉じ、前後のブレーキを徐々にかけてください。

ヒント

制動時にアンチロックブレーキが作動すると、ブレーキレバーに反動が生じます。その場合も、最大制動能力を発揮するため、同じ力でブレーキをかけ続けてください。

2. モーターサイクルが減速したら、クラッチを切るか、車速がシフトダウンすべき速度になる都度シフトダウンしてください。

警告

不適切な制御操作は車両の制御を不可能にし、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。急制動は避けてください。制動は必ず徐々に行ってください。濡れた路面、滑りやすい路面、トラクションの低い路面では特に注意してください。カーブの中または進路変更中の制動は避けてください。ブレーキをかける前に、モーターサイクルの車体を正立させてください。

加速

スロットルを開いて（スロットルグリップを後方にひねって）加速してください。滑らかな加速のために、スロットルは連続した動作でスムーズに開いてください。シフトアップ推奨速度に達したら、1段上のギアに変速してください。

警告

急激な加速は、ライダーの身体が突然後方にずれる原因になり、結果として車両の制御ができなくなるおそれがあります。また、トラクション（縦方向の摩擦力）の低い路面で急加速すると車両の制御ができなくなることもあります。車両の制御ができない場合、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。加速は必ず徐々に行ってください。濡れた路面、滑りやすい路面、トラクション（縦方向の摩擦力）の低い路面では特に注意してください。

エンジン停止

エンジンを停止する前に、モーターサイクルを完全に停止させてください。ニュートラルに変速するか、クラッチを切ってください。



警告

モーターサイクルがまだ走行しているときに、トランスミッションがニュートラル以外に入っている状態でエンジンを停止させると、リアホイールのトラクションが失われる、またはエンジンとトランスミッションが破損するおそれがあります。その場合、車両の制御ができなくなり、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。エンジンは、必ずモーターサイクルが完全に停止し、トランスミッションがニュートラルに入った状態で停止してください。モーターサイクルの走行中にエンジンが不意に停止した場合は、すぐにクラッチを握り、そのまま他車の流れから離れた路外の場所にモーターサイクルを移動してください。イグニッションスイッチをオフにしてください。

1. 完全に停止したら、ギアポジションをニュートラルにしてください。
2. エンジンキルスイッチを停止位置にしてください。
3. イグニッションスイッチをオフにしてください。イグニッションキーを引き抜いてください。

クルーズコントロールの使用

クルーズコントロールスイッチは、左ハンドルバー・スイッチ部にあります。クルーズコントロールを使用する前に、この項をよく読んで、クルーズコントロール機能の安全な操作方法を理解しておいてください。

クルーズコントロールの操作と調整は左ハンドルバー・スイッチ部のクルーズコントロールスイッチで行います。26ページを参照してください。



警告

クルーズコントロールの操作が不適切な場合、車両の制御ができなくなり、重傷事故や死亡事故につながるおそれがあります。クルーズコントロール操作手順に注意深く従ってください。ウェット路面または滑りやすい路面では、クルーズコントロールを絶対に使用しないでください。交通量が多い場合や渋滞している場合は、クルーズコントロールを使用しないでください。

クルーズコントロールのヒント

- クルーズコントロールは、2速～6速でセット可能です。
- 車速は32km/hを超えていなければなりません。
- 勾配のある地形では設定速度が多少変化します。
- クルーズコントロールは、結果として生じる加速率または減速率が極めて大きいまたは小さい場合は、設定速度に戻る再開動作をしません。たとえば、6速ギアで64km/hから設定速度113km/hで再開しようとした場合、クルーズコントロールが解除されることがあります。
- ブレーキランプが正常に点灯しない場合、クルーズコントロールは作動しません。
- クルーズコントロールが機能するには、エンジン始動後にクラッチまたは前後いずれかのブレーキが最低1回作動している必要があります。

運転操作

速度設定

1. クルーズコントロールスイッチ①の中央を押して放してください。インストルメントパネルのクルーズコントロール表示灯が点灯します。クルーズコントロールが起動しますが、設定されていません。
2. 希望の速度まで加速し、クルーズコントロールスイッチを押し下げて、クルーズコントロールを設定してください。クルーズコントロール設定表示灯が点灯します。クルーズコントロールが希望の速度に設定されています。

再開

ブレーキ、スロットル、またはクラッチの操作でクルーズコントロールが解除された後、クルーズコントロールスイッチを押し上げると、設定速度に戻ります。

加速

クルーズコントロールの作動時、クルーズコントロールスイッチを上をタップすると、速度が約1~2km/hステップで上がります。クルーズコントロールスイッチを上を長押しすると、新しい設定速度まで加速します(スイッチを放すとリセットされます)。

ヒント

スロットルで加速してからスロットルを放すと、クルーズコントロールは以前の設定速度に戻って作動します。

減速

クルーズコントロールの作動時、クルーズコントロールスイッチを下にタップして放すと、速度が約1~2km/hステップで下がります。クルーズコントロールスイッチを下に長押しすると、新しい設定速度まで減速する(スイッチを放すとリセットされます)か、32km/hの最低クルーズ速度にまで減速します。

クルーズコントロールのキャンセル

クルーズコントロールを一時的にキャンセルし、後で再開機能を使用するには下記のいずれかの操作をしてください:

- ブレーキをかける
- クラッチレバーを握る
- スロットルグリップを、アイドル位置を通り過ぎるところまで戻す(アイドル位置から更に閉方向に回す)

クルーズコントロールをキャンセルして、メモリーから設定速度を消去するには、クルーズオン/オフスイッチを押してください。

駐車

モーターサイクルを駐車するには、固く平坦な地面を選んでください。

1. 完全に停止したら、ギアポジションをニュートラルにしてください。
2. エンジンを停止してください。
3. サイドスタンドを完全に展開してください。

4. ハンドルバーを左に切り、サイドスタンドがモーターサイクルを確実に支えるまで、車体をゆっくり左に傾けてください。
5. イグニッションキーを引き抜いてください。

斜面での駐車

斜面への駐車が避けられない場合、フロントホイールをリアホイールよりも山側にして駐車してください。トランスミッションを1速に入れ、サイドスタンドを立て状態で安定するようモーターサイクルの位置、向きを決めて下さい。

注目

斜面に駐車する場合は、必ずフロントホイールをリアホイールよりも山側にしてください。フロントホイールがリアホイールよりも谷側にあると、サイドスタンドがたたまれてモーターサイクルが倒れるおそれがあります。

柔らかい地面での駐車

柔らかい地面での駐車が避けられない場合、サイドスタンド先端部の下に当て板を置き、固い面で支えるようにします。当て板はモーターサイクルの重量を支持して、サイドスタンドが駐車面にめり込むことを防ぐため、十分な強度と大きさのものでなければなりません。

アスファルトは、高温時に柔らかくなります。サイドスタンドが柔らかいアスファルトにめり込んで、モーターサイクルが倒れることがあります。高温時にアスファルト面に駐車する場合は、当て板を使用してください。



注意

高温のエンジンと排気系部品は、身体に熱傷を引き起こすおそれがあります。また、付近にある可燃物を発火させることがあります。モーターサイクルの駐車場所は、必ず可燃物のないところ、また人が高温部品に触れる可能性のないところにしてください。

点検整備 整備実施時の安全確保



警告

指定される予防措置と手順のすべてに従わない場合、重篤な傷害や死亡の原因になることがあります。常に安全のための予防措置のすべてに留意し、本書に記載されている操作手順、点検手順、メンテナンス手順のすべてに従ってください。

- 構成部品の取り付けや調整が不良の場合、モーターサイクルが不安定になったりハンドル操作が困難になったりすることがあります。電機部品の取り付け不良が、エンジンや電気系統の故障の原因になることがあります。いずれの場合も、車両の破損や人員の重篤な傷害が生じることがあります。整備手順を適切に完了するために必要な時間、工具、および専門知識がない場合は、正規販売店に整備を依頼してください。
- 「安全な整備」のセクションに記載された整備の安全に関する情報を確認してください。
- 整備手順を実施する前に、手順全体について、指示事項を熟読してください。
- 整備実施前に、必ずモーターサイクルを固く平坦な地面に置いてください。モーターサイクルをリフトアップしている場合またはサイドスタンドで立てている場合は、転倒や落下が起きないように注意してください。詳細については、「車両のリフトアップ」のセクションを参照してください。
- 高温のエンジンと排気系部品は、身体に熱傷を引き起こすおそれがあります。また、付近にある可燃物を発火させることがあります。モーターサイクルの駐車場所は、必ず可燃物のないところ、また人が高温部品に触れる可能性のないところにしてください。
- 圧縮空気を使用する場合は、眼と顔面の保護具を着用してください。
- 密閉された空間では、絶対にエンジンを始動、または作動させたままにしないでください。エンジンの排気ガスは有毒であり、短時間で意識の喪失や中毒死を引き起こすおそれがあります。
- 一部の整備手順において、オイルやブレーキフルードなどのような潜在的に危険な製品を使用することがあります。必ず製品パッケージに記載されている指示事項と警告に従ってください。

点検整備

交換部品

整備または修理を実施する際、性能と耐久性において同等の非純正交換部品を使用することができます。しかし、インディアンモーターサイクルはこの種の非純正部品について責任は負いかねます。必須点検整備をすべて実施することは、オーナーの責任です。必須点検整備は、必ずインディアンモーターサイクル正規販売店で実施してください。保証期間は、モーターサイクルが最後の購入者に納品された日を始期とします。

INDIAN MOTORCYCLE

2100 Highway 55

Medina, MN 55340 アメリカ

宛先：Warranty Department (保証部門)

適切な点検整備

適切なメンテナンスを実施することにより、モーターサイクルの高い安全性、耐久性、信頼性が確保できます。保証を有効にし、排出ガス制御システムが適切に作動するようにするため、慣らし運転後のメンテナンスを必ず実施してください。

- モーターサイクルのオドメーターの値が800kmに達したら、慣らし運転後のメンテナンス手順を実行してください。この整備は正規販売店に依頼してください。
- 指定の定期整備は、82ページ以降に記載の定期整備表記載の指定時期に実施してください。

点検後の試走

整備終了後、モーターサイクルを通常使用に戻す前に、安全な環境でテスト走行を行ってください。整備した構成部品のすべてが適切に取り付けられ、正常に動作しているか、細心の注意を払って確認してください。車両が間違いなく安全に走行できるよう、必要な修正や追加調整を実施してください。

慣らし運転後のメンテナンス

モーターサイクルのオドメーターの値が800kmに達したら、慣らし運転後のメンテナンス手順を実行してください。この整備は正規販売店に依頼してください。

慣らし運転後のメンテナンスを実施することで、エンジンの性能をフルに発揮させ、エンジンの使用寿命を最大限に延ばすことができます。正規販売店は、エンジンオイルを交換し、フルード類と交換部品の点検を実施し、全てのボルト・ナット締め付け状態を確認した上で、必要に応じその他の調整を行います。

重整備

重整備や大掛かりな修理には、高い整備技能と専用特殊工具類が必要です。排出ガス抑制装置の整備には、専用工具と特別な訓練が必要ですので、正規販売店で実施する必要があります。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

定期点検/整備

必要に応じて部品の点検、清掃、注油、調整、および交換を実施してください。点検により部品交換の必要がある場合は、インディアンモーターサイクル純正部品を使用してください。インディアンモーターサイクル純正部品は正規販売店から購入できます。整備とメンテナンスの内容を、175ページにある整備記録に記入してください。

定期整備表記載の指定時期に整備を実施してください。酷使された車両は、より短い間隔で点検と整備を実施する必要があります。

車両酷使の定義

- 長時間にわたる高速走行
- 長時間にわたる低速走行
- 土埃が多い状態またはその他荒れた路面条件での走行
- 寒冷時（氷点下）または酷暑時（摂氏35度以上）の走行

点検整備

定期点検整備時期

定期点検整備表は、必要な整備と点検の概要を車両の走行距離をもとに示しています。個々の表は、車両の整備が必要な走行距離数を示しています。一部の項目または部品について、過酷な使用により整備頻度を上げる必要がある場合があります。車両の走行距離が80,000kmを超えた場合、800kmの表に戻って、その後の整備を実行してください。

XU – 過酷使用の場合、より頻繁に実施する整備手順を示します。

D – この整備については、インディアンモーターサイクル正規販売店にお任せ下さい。

E – 排出ガス対策装置の整備（カリフォルニア/インターナショナル〔日本〕仕様）

800KM整備

項目	摘要	
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	エンジンマウント固定ボルト	点検、増し締め、調整
XU	エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換	オイルおよびフィルターの交換、廃油の汚れの点検
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換（DOT4）
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油

項目		摘要
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	点検、指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	点検
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

点検整備

4,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	点検、必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油

項目		摘要
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	点検、必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

8,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト

点検整備

項目		摘要
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	点検、必要な場合は調整
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	点検、指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	指定時期または2年ごとに交換
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	点検、必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検

項目		摘要
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

16,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
D	エンジン圧縮	点検、必要な場合は修正
XU	エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換	オイルおよびフィルターの交換、廃油の汚れの点検
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
D/E	スパークプラグ	点検、必要な場合は交換、規定トルク値で締め付け
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油

点検整備

項目	摘要	
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュウ、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	指定時期または2年ごとに交換
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

24,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	交換
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	交換
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	点検、必要な場合は調整
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	点検、必要な場合は調整
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	交換
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整

点検整備

項目		摘要
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	点検、必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

32,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
D	エンジン圧縮	点検、必要な場合は修正
XU	エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換	オイルおよびフィルターの交換、廃油の汚れの点検

項目		摘要
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
D/E	スパークプラグ	点検、必要な場合は交換、規定トルク値で締め付け
D	バルブクリアランス	点検、必要な場合は調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	点検
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油

点検整備

項目		摘要
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

40,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト

項目		摘要
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	点検、必要な場合は調整
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	点検、必要な場合は調整
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	点検
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	点検、必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検

点検整備

項目		摘要
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

48,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	交換
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	交換
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
D	エンジン圧縮	点検、必要な場合は修正
XU	エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換	オイルおよびフィルターの交換、廃油の汚れの点検
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
D/E	スパークプラグ	交換
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油

項目		摘要
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	交換
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

点検整備

52,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	点検、必要な場合は調整
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	点検、必要な場合は調整
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	点検
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整

項目		摘要
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

64,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
D	エンジン圧縮	点検、必要な場合は修正
XU	エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換	オイルおよびフィルターの交換、廃油の汚れの点検

点検整備

項目		摘要
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
D/E	スパークプラグ	点検、必要な場合は交換、規定トルク値で締め付け
D	バルブクリアランス	点検、必要な場合は調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	点検
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油

項目		摘要
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

72,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	交換
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	交換
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト

点検整備

項目		摘要
D	ブレーキフルード	2年ごとに交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	点検、指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	交換
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	点検、必要な場合は調整
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検

項目		摘要
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

80,000KM整備

項目		摘要
XU	エアフィルター	点検、清掃
D	クランクケースブリーザー装置	点検、増し締め、清掃、調整
D	ドライブチェーン	点検、清掃、給油
D	チェーンスライダー	点検、必要な場合は交換
D	エンジン圧縮	点検、必要な場合は修正
D	エンジンマウント固定ボルト	点検、増し締め、調整
XU	エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換	オイルおよびフィルターの交換、廃油の汚れの点検
E	燃料蒸発ガス排出抑制装置	点検、清掃
E	排気系統	点検、増し締め、調整
D	燃料系統	点検、清掃
D	オイルライン/オイル系統の点検	点検、清掃、必要に応じて調整
D/E	スパークプラグ	点検、必要な場合は交換、規定トルク値で締め付け
	バッテリー	ターミナル点検、清掃、テスト
D	ブレーキフルード	交換 (DOT4)
XU/D	ブレーキパッド	パッド摩耗の点検、使用限界を超えて摩耗している場合交換

点検整備

項目		摘要
D	クラッチレバー	指定の適切な潤滑油を給油
D	クラッチケーブルのあそび	点検、必要な場合は調整
D	コントロールケーブルエンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	各部のボルト、スクリュー、ナット	点検、必要な場合は増し締め
D	フロントブレーキレバー	必要な場合は調整、指定の適切な潤滑油を給油
D	フロントフォークオイル	点検
D	フロントフォークおよびフロントアクスル	点検、必要な場合は調整
D	ヘッドライト	点検、必要な場合は調整
D	シフトペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	リアブレーキペダル	点検、給油、必要な場合は調整
D	ライダーフットレストおよびパッセンジャーフットレスト	点検、必要な場合は給油
D	リアショックアブソーバー	交換
D	リアホイールのアライメント	点検、必要な場合は調整
	点検後の試走	点検後の試走を実施
D	サイドスタンド	指定の適切な潤滑油を給油
D	ステアリングベアリング	点検
D	サスペンションリンク、リア	点検
D	スイングアームおよびリアアクスル	点検
D	タイヤ/ホイール	トレッド溝の深さ、サイドウォールひび割れ、摩耗を点検

XU – 過酷使用の場合、より頻繁に実施する整備手順を示します。

D – この整備については、インディアンモーターサイクル正規販売店にお任せ下さい。

E – 排気ガス浄化装置の整備（カリフォルニア仕様）

エンジンオイルおよびオイルフィルターの交換

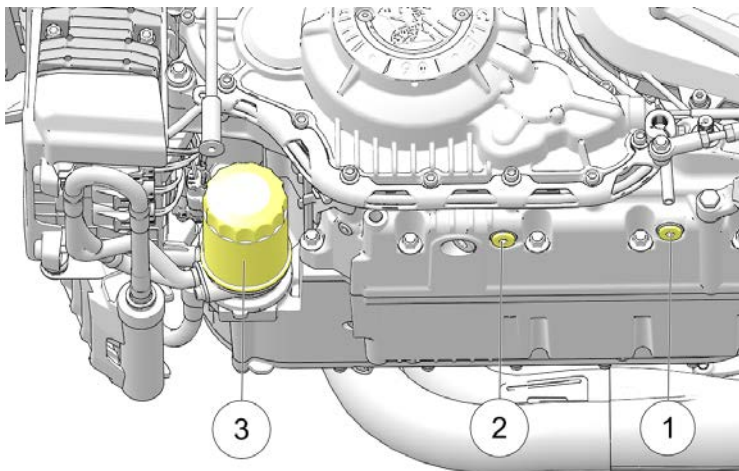
重要

下記の手順実施前に、エンジンを暖機しておかなければなりません。

⚠ 注意

高温部品

この種の部品を取り扱う際は、断熱手袋を着用するなど十分注意してください。



1. エンジンの温度が上がるまで作動させておいてからオフにしてください。
2. モーターサイクルを垂直な「中立」位置でしっかりと支持してください。
3. エンジンオイルドレンプラグ①と②の下に、オイルドレンパンを置いてください。
4. ドレンプラグとシーリングワッシャを取り外してください。
5. オイルが完全に抜けきるまでそのまま待つてください。廃油は適切に処分してください。
6. オイルフィルター③を取り外し、オイルが完全に抜けきるまでそのまま待つてください。オイルフィルターは適切に処分してください。
7. エンジンオイルフィルター取付部のシール面と周辺を清掃してください。
8. 新品のオイルフィルターのシール部に少量のオイルを塗布し、フィルターのシール部がシール面に接触するところまでフィルターをねじ込んでください。オイルフィルターを規定トルク値で締め付けてください。

トルク

オイルフィルター：

13Nm、またはシールがマウントシール面に接触してから約3/4～1回転。

9. 新品のシーリングワッシャーを組み付けて、ドレンプラグを元のとおりに取り付けてください。規定トルク値で締め付けてください。

トルク

エンジンオイルドレンプラグ：
20Nm

10. エンジンオイル注入口にじょうごを使用して、インディアンモーターサイクル100%化学合成エンジンオイル15W-60を2.8L注入してください。

注目

2.8L (3USqt) で、油面が点検窓のFULLマーク上またはその付近になります。新品またはリビルド品のエンジン (乾燥状態) の場合は、0.47Lを追加してください。

11. モーターサイクルを垂直な「中立」位置でしっかりと支持し、約30秒間アイドリングさせてください。
12. エンジンを停止してください。
13. オイル量を点検窓から目視で点検してください。オイル量は点検窓の中央付近、表示マークの間になければなりません。入れすぎないでください！

重要

オイルフィルター交換時のエンジンオイル注入量は、約2.8~3.8Lです。新品またはリビルド品のエンジン (乾燥状態) のエンジンオイル注入量は、約4.25Lです。

14. 適切な油量の調整については、58ページのセクションを参照してください。

注意

オイル交換後、通常よりも長時間油圧低下警告灯が点灯している場合は、警告灯が消灯するまでアイドル回転数より高い回転数にはしないで下さい。エンジンが破損するおそれがあります。

15. ドレンプラグとオイルフィルターの周辺に漏れがないか点検してください。

注目

廃油および使用済みオイルフィルターは、お住まいの地域の規則に従って処理、再資源化してください。

点検整備

冷却系統

エンジン冷却水の量は、リカバリーシステムによってコントロールされています。リカバリーシステムは、リザーブタンク、ラジエーターキャップ、ラジエーターキャップ、および接続ホースで構成されています。

エンジン作動中に冷却水温が上がると、冷却水が加熱により膨張するため、余分な冷却水がラジエーターキャップから押し出され、リザーブタンクに入ります。エンジン冷却水温度が低下すると、冷却により収縮したクーラントがリザーブタンクから戻り、ラジエーターキャップを通過してラジエーター内に戻ります。

新車では、冷却系統内に入り込んでいる空気が自動的に排出されるため、若干の液量低下は正常です。リザーブタンク内の冷却水量を点検し、冷却水を補充して推奨どおりの液量を維持してください。

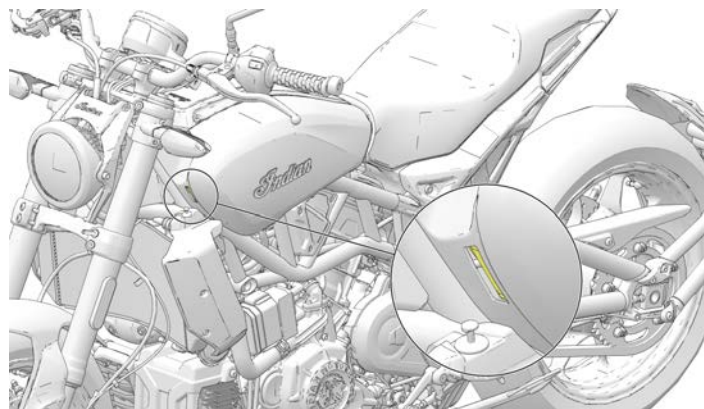
インディアンモーターサイクルでは、Antifreeze 50/50 Premixの使用を推奨しています。この不凍液は既に混合済みで、そのまま使用できます。水で希釈しないでください。

クーラントのエンジン保護効果を確実に維持するため、インディアンモーターサイクルでは、5年または80,467kmごとのクーラント交換を推奨しています。この整備は、正規販売店に依頼してください。

冷却水量の点検

クーラントリザーブタンクは、エアボックスカバーの下にあります。液量は、部品を一切取り外すことなく目視点検できます。

1. クーラントリザーブタンクの点検窓は、モーターサイクル左側にあります。

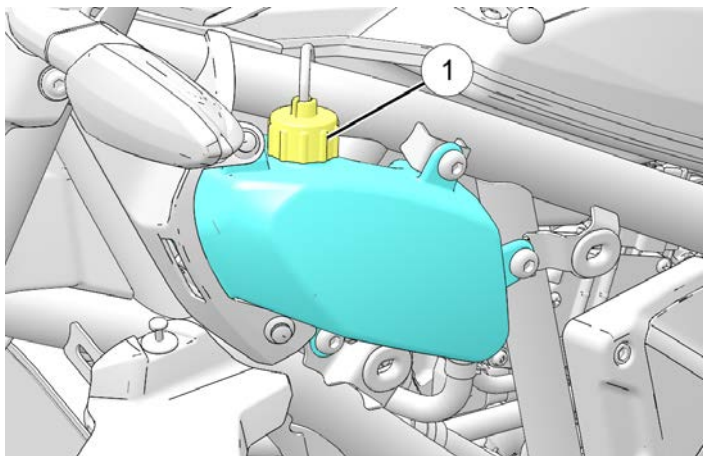


2. クーラント液量がマークの中間であることを確認してください。
3. クーラントの液量が下側の線より下にある場合、冷却系統にクーラントを補充する必要があります。

クーラントの補充

クーラントを補充するには、次のようにしてください：

1. シートとエアボックスカバーを取り外してください。
2. リザーバタンクのキャップ①を外して、クーラントを補充してください。液量が点検窓にあるマークの中間までクーラントを補充してください。

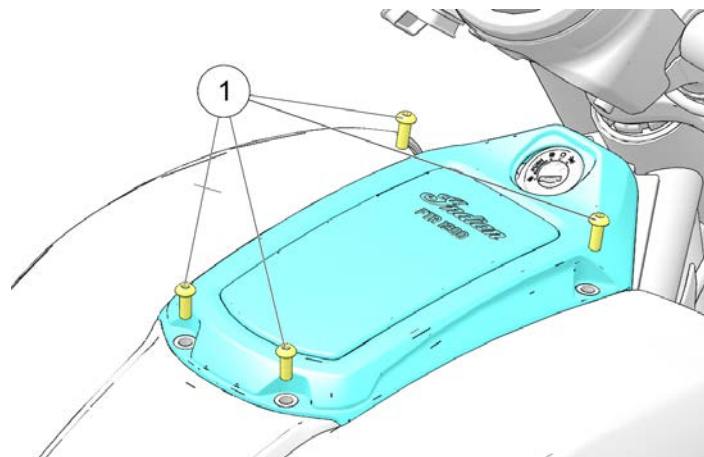


エアフィルター交換

注目

車両をウェット環境またはホコリの多い環境で使用する場合、さらに頻繁な整備が必要です。エアフィルターエレメントは清掃不可です。必要な場合は、フィルターを交換してください。

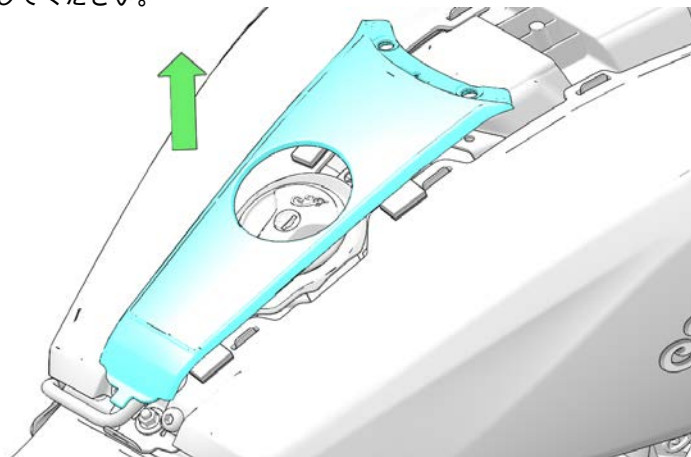
1. シートを取り外してください。134ページを参照してください。
2. エアボックスベゼルの固定スクリュー①4本を取り外してください。



注目

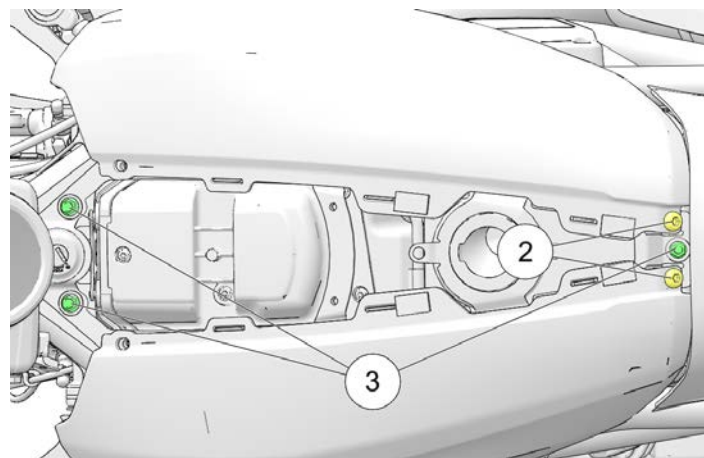
スクリーン脱着時は、元々組み込まれているカラーを必ず使用してください。

3. アライメントブラケットからセンターコンソールカバーを取り外してください。



4. 燃料キャップを取り外し、清潔で安全な場所に置いてください。

5. エアボックスカバーの固定ネジ②2本を取り外してください。



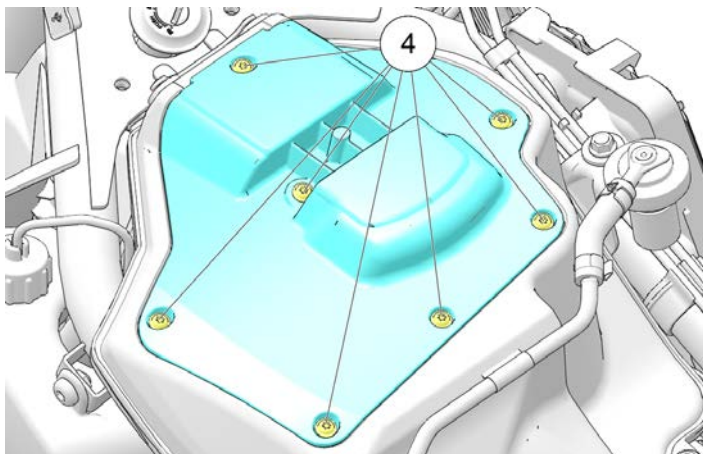
6. エアボックスカバー左右を取り外します。

注目

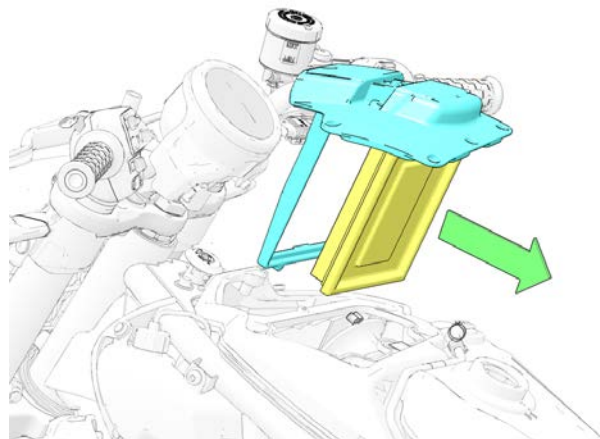
エアボックスカバーを引き上げ、固定溝にかかるツメから外して取り外します。

7. ネジ③3本を取り外して、アライメントブラケットを取り外してください。

8. エアフィルターアクセスカバーの固定スクリュー④7本を取り外してください。



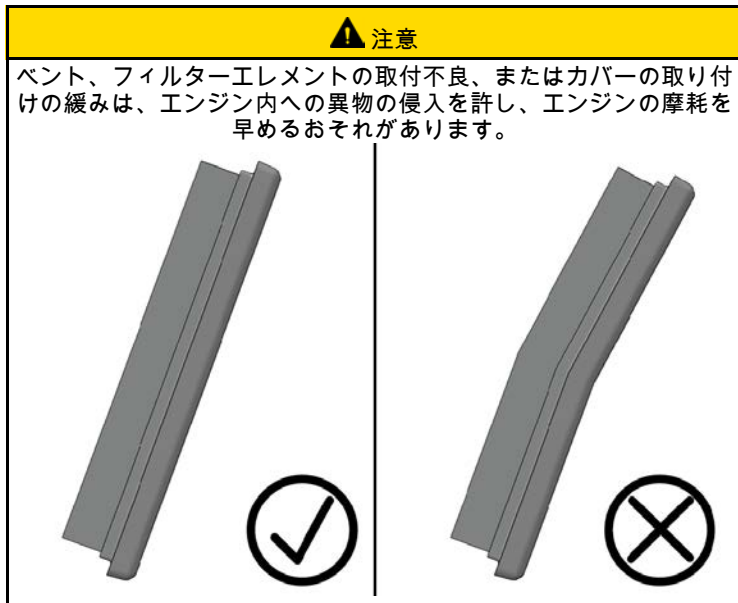
9. エアボックスからエアフィルターを取り外してください。



10. フィルターエレメントを点検し、汚れ、水分、または油分で汚れている場合は交換してください。

点検整備

11. 新品のフィルターを、古いフィルターと同じ向きに取り付けてください。



12. エアフィルターアクセスカバーを取り付けて、ネジ7本で固定してください。

トルク

エアフィルターアクセスカバーの固定ネジ：
2Nm

13. アライメントブラケットを取り付けて、ネジで固定してください。

トルク

ボディワークアライメントブラケット固定スクリュー：
11Nm

14. エアボックスカバーを取り付けてください。

トルク

エアボックスカバー固定スクリュー：
4Nm

15. 燃料キャップを元のおりに取り付けてください。
16. センターコンソールカバーを取り付けてください。

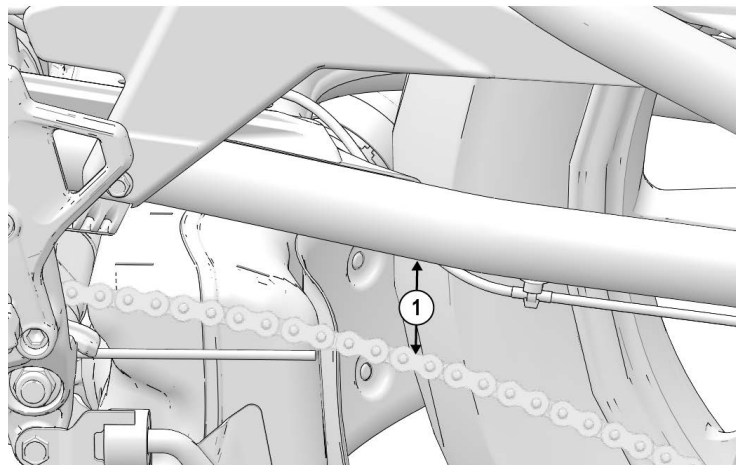
17. エアボックスベゼルを取り付けて、スクリューで固定してください。

トルク

エアボックスベゼル固定スクリュー：
4Nm

18. シートを元のとおりに取り付けてください。134ページを参照してください。

チェーンの張り



チェーンの張りを測定するには、次のようにして下さい：

点検整備

1. 車両をサイドスタンドで立ててギアをニュートラルに入れ、チェーンテンションゲージを使用してチェーン下側の中央を4.5kgf (10lb) の力で上に押しします。
2. チェーンスライダー後方、スイングアームガセットのリア側①で、スイングアーム下側との間隔を測定してください。

実測値

チェーン上側との間隔実測値：

33～40mm

3. チェーンの張りが規定値外である場合またはアライメントがずれている場合は、113ページを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店に整備を依頼してください。

ドライブチェーンの伸びの点検

9～11kgのおもりを下側チェーンに吊し、上側チェーンの21番目のピンの中心から下側チェーンの直近のピンの中心までの間隔を計測します。この実測値が319mmを超えている場合、チェーンを交換してください。

ドライブチェーンの張り－規定値

チェーンのたわみ	
車種	4.5kgf (10lb) で押した際のたわみ
全車種	33～40mm
ドライブチェーン伸びの規定値	
車種	値
全車種	319mm以下

ドライブチェーンの調整

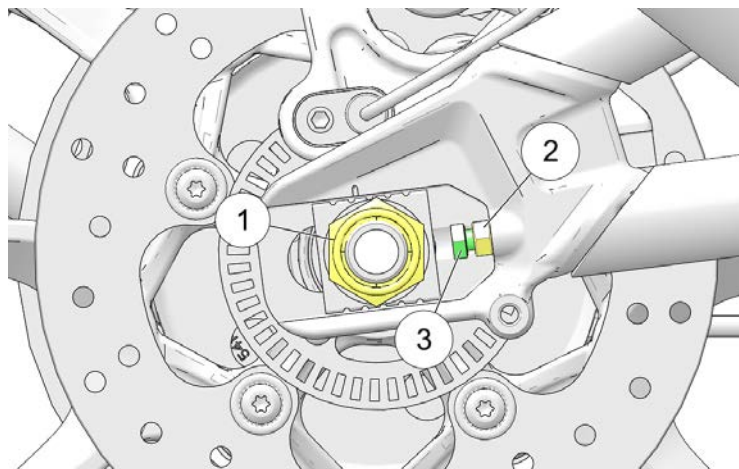
ドライブチェーンは、定期整備表記載の指定時期にインディアンモーターサイクルチェーンスプレーリングまたは認定チェーンリングを使用して給油してください。ホコリの多い場所またはウェット条件での使用など、過酷な使用状況の場合は、さらに頻繁に給油してください。

重要

高圧洗浄機や溶剤を使用してドライブチェーンを洗浄すると、チェーンの早期摩耗や不具合につながるおそれがあります。ドライブチェーンの清掃に、高圧洗浄機やガソリンは使用しないでください。ドライブチェーンのたわみが不適切な状態でモーターサイクルを走行させると、トランスミッションや駆動系部品の深刻な破損を引き起こすおそれがあります。チェーンは、常に本書記載の仕様の範囲内に調整するようにしてください。

警告

リアアクスルのアライメント不良は、ドライブラインの騒音やドライブチェーンの損傷を引き起こし、ドライブチェーンの故障やモーターサイクルの制御不能の原因になるおそれがあります。



1. アクスルナット①を緩めてください。
2. 左右のチェーンアジャスターロックナット②を両方とも緩めてください。
3. 正しい張りが得られるまで、両側のアジャストボルト③を均等に調整してください。112ページを参照してください。

重要

チェーンの張りの影響を最小化するため、右側アジャスターのみを使用して、チェーンの張りの最終調整を行ってください。この手順を通じて、アクスルが前方のアクスルアジャスターに確実に密着するよう注意してください。

点検整備

4. アクスルのアライメントが間違いなく左右均等になるように、アジャスターのマークを利用してください。
5. アジャストボルトを動かさないようにして、固定ナットを締め付けてください。アクスルのフロント側がアジャスターボルトに当たっていることを確認してください。

トルク

チェーンアジャスターロックナット

16Nm

6. チェーンの張りを再点検し、結果に応じて調整してください。
7. アクスルナットを取り付けてください。

トルク

アクスルナット (リア)

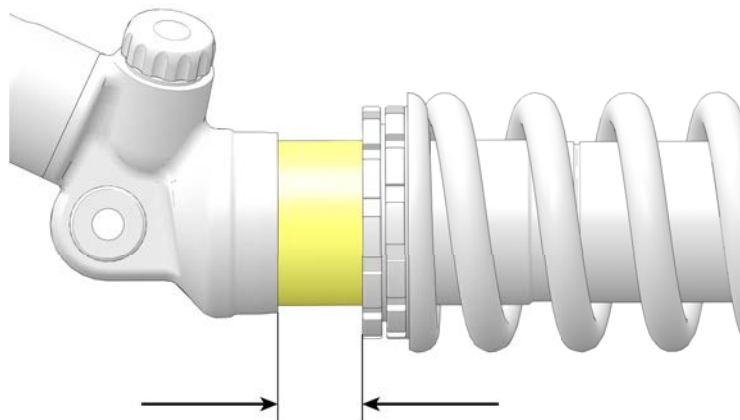
125Nm

リアショックプリロードの点検

リアショックプリロードの定期点検。最も快適な乗り心地と十分な最低地上高を得るために、下表に従ってプリロードを調整してください。

注目

図は参考情報です。ショックはお使いの車種によって異なることがあります。

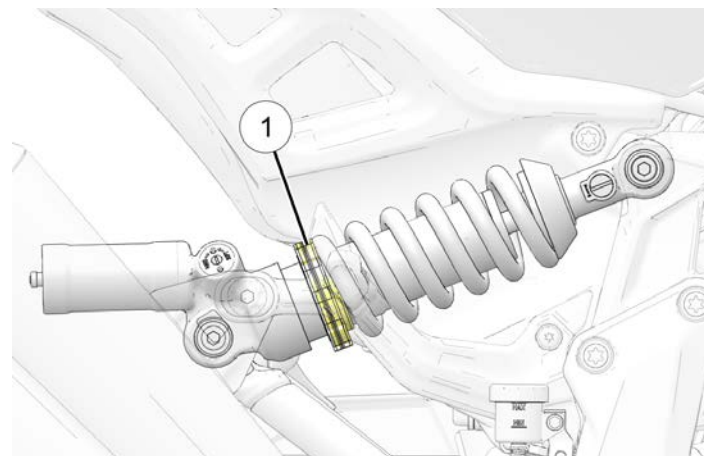


1. ライダー、パッセンジャー、および荷物の合計重量を算出してください。
2. 固定ナット後方のショック本体のねじ部の露出量を測定して、ショックプリロードを求めて下さい。重量に基づく測定値を下表で求めて下さい。
3. 必要なプリロード値が決まったら、調整を行います。調整するには、115ページを参照してください。

ライダー、パッセンジャー、および荷物の合計重量	プリロード値		
	FTR RALLY	FTR/FTR SPORT	FTR R CARBON
57kg	0mm	0mm	19mm
68kg	2mm	2mm	21mm
79kg	5mm	5mm	23.5mm
91kg	8mm	8mm	26mm
102kg	10mm	10mm	28mm
113kg	13mm	13mm	31mm
125kg	15mm	16mm	32mm
136kg	17mm	18mm	34mm
147kg	20mm	21mm	37mm
159kg	22mm	23mm	39mm
170kg	25mm	26mm	39.5mm
181kg	27mm	28mm	39.5mm
196kg	30mm	30mm	39.5mm

リアショックプリロードの調整

1. モーターサイクルは立てた姿勢にし、フロントホイールをホイールバイスで固定してください。
2. フックレンチ (2884176) を使用して、ロックナット①を反時計回り (ショック上側から見て) に回して緩めてください。
3. アジャストナットがスプリングとの接触する位置に、低粘度潤滑油をスプレーして下さい。
4. ショックプリロードの調整では、アジャストナットを時計回り (ショック上部から見た方向) に回すとプリロードが大きく (固く) なり、反時計回りに回すとプリロードが小さく (柔らかく) なります。



点検整備

- 調整後、プリロードの実測値を再確認してください。
- ロックナットをアジャストナットに対してしっかりと締め付けてください。

リアショック調整の手引き

重要

下記のコンプレッションとリバウンドの設定を変更する前に、リアショックのプリロードが正しく設定されていることを確認してください。

注目

FTR Rallyはリアショックのプリロードとリバウンドの調整ができませんが、フロントフォークの調整はできません。

FTR/FTR Sportは、完全調整式のフロントフォークとリアサスペンションコンポーネントを備えています。

FTR R Carbonは、完全調整式のフロントフォークとリアサスペンションコンポーネントを備えています。

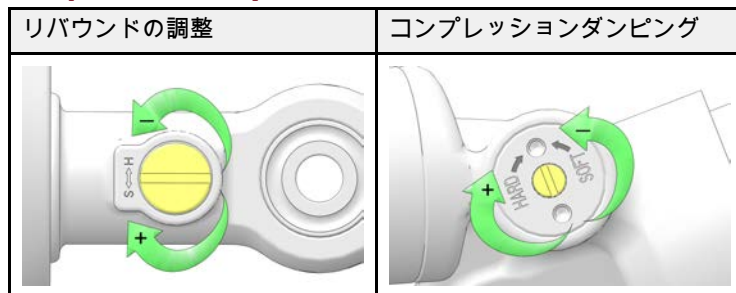
注目

アジャスターを時計回り (+) の限界まで回すと、「フルイン」ポジションになります。一方、アジャスターを反時計回り (-) の限界まで回すと、「フルアウト」ポジションになります。

リアショックの工場出荷時の設定

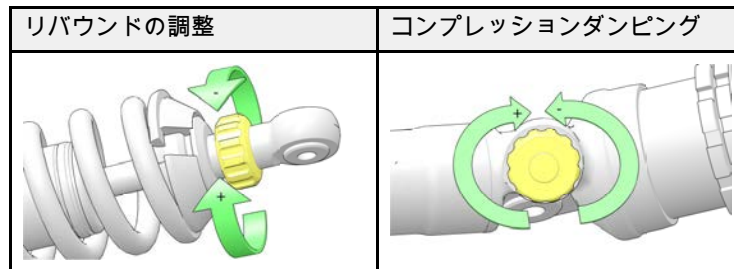
	FTR RALLY	FTR FTR SPORT	FTR R CARBON
リバウンドダンピング、ショック上端	15クリック戻し (フルインから、全調整範囲24クリック)	17クリック戻し (フルインから、全調整範囲24クリック)	14クリック戻し (フルインから、全調整範囲40クリック)
コンプレッションダンピング、リザーブタンク側	該当なし	1.5回転戻し (フルインから、全調整範囲3回転)	15クリック戻し (フルインから、全調整範囲22クリック)
スプリングセット長	180mm (範囲185 ~ 155mm)	174mm (範囲179 ~ 149mm)	168mm (範囲180 ~ 152mm)

FTR/FTR RALLY/FTR SPORT



走行状況：	リバウンドダンピング	コンプレッションダンピング
低速走行（都市部）	19クリック戻し	2.5回転戻し
一般走行（市街地/高速道路）	15クリック戻し	1.5回転戻し
一般走行（ハード）	5クリック戻し	1回転戻し
アグレッシブな走行（サーキット）	5クリック戻し	0.75回転戻し

FTR R CARBON



走行状況：	コンプレッションダンピング	リバウンドダンピング
低速走行（都市部）	20クリック戻し	17クリック戻し
一般走行（市街地/高速道路）	15クリック戻し	14クリック戻し
一般走行（ハード）	13クリック戻し	12クリック戻し
アグレッシブな走行（サーキット）	12クリック戻し	14クリック戻し

スイングアーム/リアアクスルの点検

1. シートに跨り、リアサスペンションを数回ゆっくりと伸縮させてください。サスペンションに引っかかりがなく滑らかに動くことを確認してください。異音がないか確認してください。
2. リアタイヤが床面からわずかに浮いた状態までモーターサイクルをリフトアップ支持してください。詳細については、「モーターサイクルのリフトアップ」のセクションを参照してください。



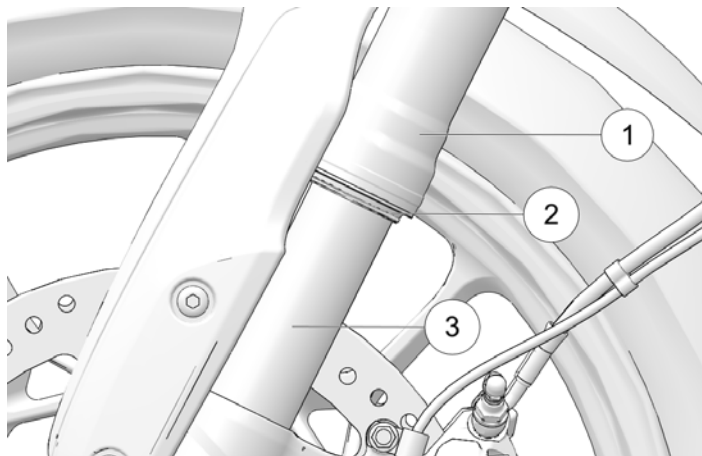
注意

モーターサイクルがリフトアップされた状態で間違いなく安定しているようにしてください。車両の転倒や落下は、負傷や車両破損の原因になるおそれがあります。

3. リアホイールをつかんで、左右に揺すってください。スイングアーム前方またはアクスル周辺にガタがある場合は、正規販売店に整備を依頼してください。
4. トランスミッションをニュートラルにして、リアホイールをゆっくりと回転させてください。ホイールが滑らかに回転しない場合は、正規販売店に整備を依頼してください。

フロントフォーク/サスペンションの点検

1. モーターサイクルをサイドスタンドで立て、フロントフォークを点検してください。アウターチューブ①にフォークオイルが付着している場合、モーターサイクルを走行させないでください。走行させる前に、正規販売店に整備を依頼してください。フォークシール②またはインナーチューブ③の周辺にフォークオイルが漏れている場合は、フォークシールを交換してください。



2. インナーチューブを点検し、虫の死骸、タール、またはこびりついた土埃など、シールの摩耗や漏れの原因になるものを取り除いてください。インナーチューブの表面に異物による傷や破損がないか点検してください。

3. モーターサイクルにまたがり完全な正立位置にします。フロントブレーキをかけて、ハンドルバーを数回下向きに（強く）押してください。フロントサスペンションは、滑らかに静かに作動しなければなりません。
4. フォークオイルの状態と量は、フロントサスペンションの動作と内部部品の摩耗に影響します。指定交換時期になったら、フォークオイルを交換してください。この作業には専用工具が必要です。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

フロントフォーク調整ガイド

注目

FTR Rallyはリアショックのプリロードとリバウンドの調整ができませんが、フロントフォークの調整はできません。

FTR/FTR Sport/FTR R Carbonは、完全調整式のフロントフォークとリアサスペンションコンポーネントを備えています。

FTR R Carbonは、完全調整式のフロントフォークとリアサスペンションコンポーネントを備えています。

注目

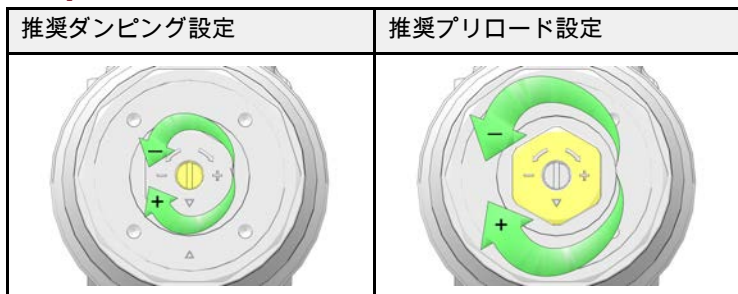
アジャスターを時計回り（+）の限界まで回すと、「フルイン」ポジションになります。一方、アジャスターを反時計回り（-）の限界まで回すと、「フルアウト」ポジションになります。

フロントフォークの出荷時の設定

	FTR RALLY	FTR FTR SPORT	FTR R CARBON
リバウンドダンピング、右フォーク	該当なし	10クリック戻し（フルインから、全調整範囲20クリック）	16クリック戻し（フルインから、全調整範囲28クリック）
コンプレッションダンピング、左フォーク	該当なし	10クリック戻し（フルインから、全調整範囲20クリック）	18クリック戻し（フルインから、全調整範囲28クリック）
プリロード、フォークトップ 19mm六角	該当なし	3回転締め（フルアウトから、調整範囲10回転）	9回転締め（フルアウトから、調整範囲10回転）

点検整備

FTR/FTR SPORT



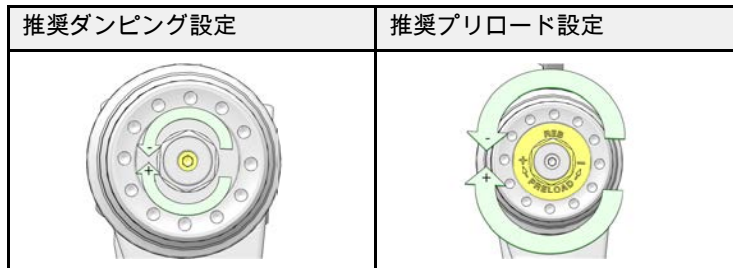
走行状況：	コンプレッションダンピング (左フォーク)	リバウンドダンピング (右フォーク)
低速走行 (都市部)	17クリック戻し	14クリック戻し
一般走行 (市街地/高速道路)	10クリック戻し	7クリック戻し
一般走行 (ハード)	10クリック戻し	5クリック戻し
アグレッシブな走行 (サーキット)	5クリック戻し	4クリック戻し

この調整により、ライダーの好みに応じてフォークのプリロードを増減させることができます。

重要

左右のフォークを均等に調整するよう注意してください。

FTR R CARBON



走行状況：	コンプレッションダンピング (左フォーク)	リバウンドダンピング (右フォーク)
低速走行 (都市部)	22クリック戻し	18クリック戻し
一般走行 (市街地/高速道路)	18クリック戻し	16クリック戻し
一般走行 (ハード)	15クリック戻し	14クリック戻し
アグレッシブな走行 (サーキット)	14クリック戻し	19クリック戻し

この調整により、ライダーの好みに応じてフォークのプリロードを増減させることができます。

重要

左右のフォークを均等に調整するよう注意してください。

ステアリングヘッドの点検

1. フロントタイヤが床面からわずかに浮く状態までモーターサイクルをリフトアップし支持してください。詳細については、「モーターサイクルのリフトアップ」のセクションを参照してください。



注意

モーターサイクルがリフトアップされた状態で間違いなく安定しているようにしてください。モーターサイクルの転倒や落下が、負傷の原因になるおそれがあります。

2. ハンドルバーを左右にロックするまで回してください。ハンドルバーは滑らかに動かなければなりません。ガタがあってはなりません。ワイヤー、ホース、コントロールケーブルが滑らかなステアリング操作を妨げていないか確認してください。
3. フロントホイールを直進状態にしてください。フロントアクスル付近でフロントフォークを握り、前後に揺すってください。ステアリングヘッド部分で前後にガタつく場合は、正規販売店に整備を依頼してください。
4. ステアリングに引っかかり、ガタつき、もしくは不均一な動きがある場合、またはステアリングステムにガタが見られる場合は、正規販売店に整備を依頼してください。

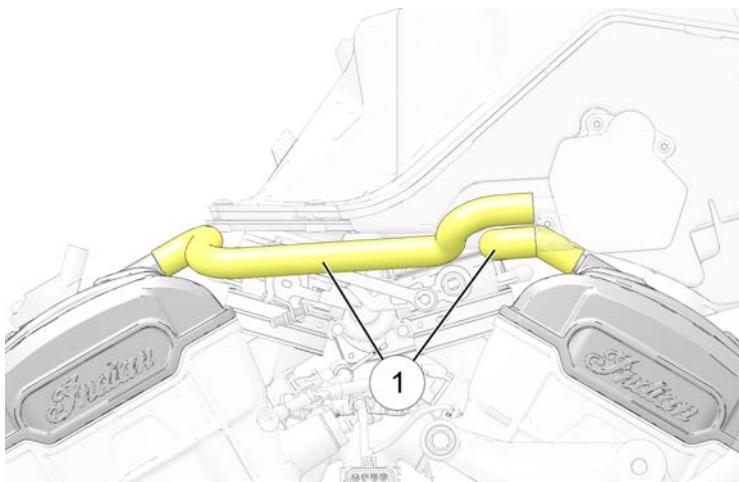
5. フロントホイールを回転させ、フロントホイールベアリングが滑らかに回転するか点検してください。ガタがある、異音がする場合は、正規販売店に整備を依頼してください。
6. ハンドルバーを左右いずれかにいっぱいになり、フォークストップに押し当ててください。フロントホイールを左右に動かそうとしてください。ガタが見られる場合は、正規販売店に整備を依頼してください。

燃料系統構成部品

1. 燃料ホースにひび割れや損傷がないか点検してください。
2. 燃料タンクおよびフューエルレールのホース接続部に漏れ、しみがないか点検してください。
3. 燃料系統には高圧がかかっているため、燃料系統の点検整備の際には注意が必要です。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

クランクケースブリーザーホース

エアフィルターやその他のメンテナンスを実施するため燃料タンクを取り外すたびに、クランクケースブリーザー（通気）ホース①を点検してください。ブリーザーホースを全長にわたって点検するとともに、両端も点検してください。ホースに潰れ、よじれ、亀裂、またはその他の破損がないか確認してください。消耗または破損したホースは、交換してください。



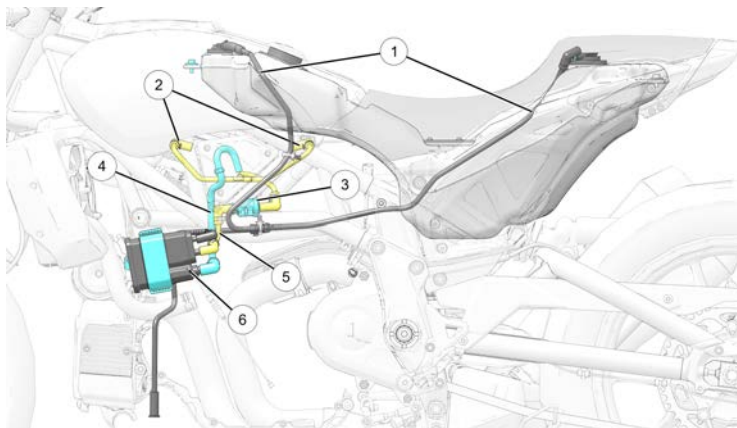
スロットルグリップの点検

1. エンジンをオフにし、スロットルグリップを一杯まで開いてから、放してください。グリップは全閉位置から全開位置まで滑らかに回転しなければなりません。放した場合は、素早く全閉位置に戻らなければなりません。
2. ハンドルバーを右一杯と左一杯に切った状態で、ひねって放す操作を繰り返してください。
3. スロットルの動きが滑らかでない場合、またはスロットルグリップが正常に戻らない場合は、整備が必要です。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

燃料蒸発ガス排出抑制装置

重要

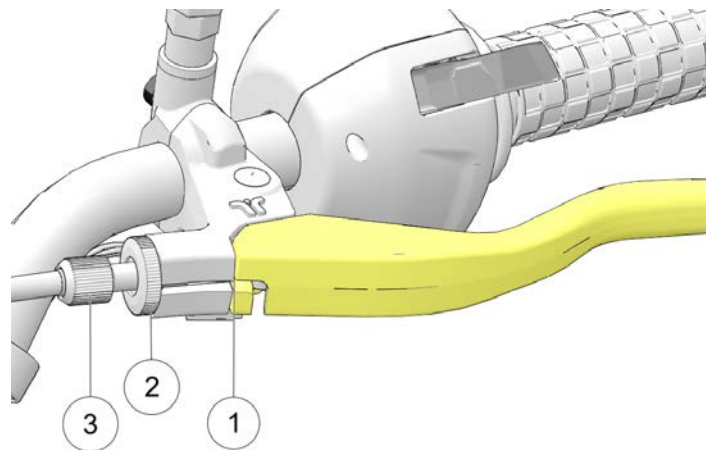
燃料タンクベントパイプは蒸発ガスキャニスタに通じており、キャニスタはECMが定められたプログラムによってパージバルブを開くまで、燃料蒸発ガスを貯めておきます。燃料蒸発ガスは、キャニスタからパージバルブを通り、スロットルボディに導かれエンジン内部で燃焼されます。摩耗や損傷がないが、EVAPパイプ全体を点検してください。通気系とキャニスタパージ系の両方の接続部が確実に取り付けられているか点検してください。



番号	説明
①	燃料タンクベントホース
②	パージホース (パージバルブからスロットルボディまで)
③	キャニスタパージバルブ
④	燃料蒸発ガスキャニスタのベントホース
⑤	パージホース (キャニスタからパージバルブまで)
⑥	燃料蒸発ガスキャニスタ

機械式クラッチレバーのあそび

1. ハンドルバーをまっすぐ前方に向けた状態で、図の①の位置で、レバーとレバーブラケット間のあそびを計測します。



実測値

クラッチレバーのあそび：
0.5～1.5mm

2. 測定値を規定値と照合してください。調整が必要な場合、手順3に進んでください。
3. 固定ナット②とアジャスター③の位置を確認してください。

点検整備

4. ケーブルを押さえながら、アジャスター固定ナットを緩めてください。
5. クラッチのあそびが適正値になるまで、ケーブルアジャスターを締め、または緩めてください。
6. アジャスター固定ナットを手で締め付けてください。

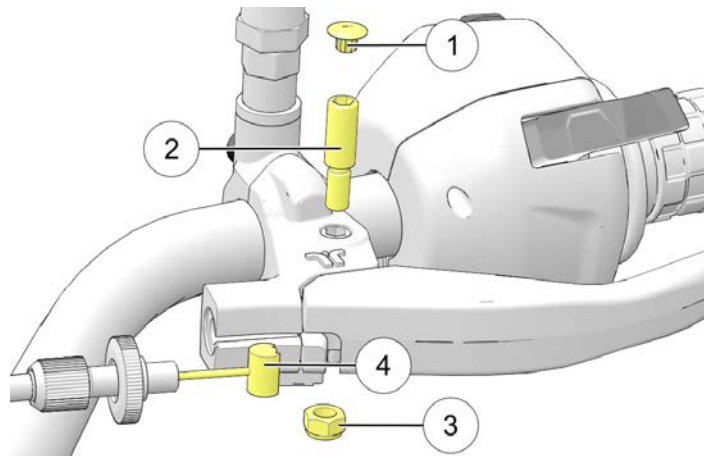
クラッチレバーの給油

注目

クラッチケーブルは工場出荷時に注油されています。それ以上の注油は、ケーブルの動作を妨げる場合があります。クラッチケーブルに引っかかりや固着が生じた場合は、アッセンブリーで交換してください。ケーブルと外装の間への注油はおやめください。

1. プライマリカバー側でクラッチケーブルの接続を外してください。
2. レバーブラケットからケーブルハウジングを引き抜き、タイコをクラッチレバーから取り外してください。ケーブルの取り回しが正しく、動きが滑らかであることを確認してください。外装ケーシングの破損がないか点検し、ケーブルの露出部分にほつれ、よじれ、腐食がないか点検してください。損傷のあるケーブル、動きが固い、または応答性の良くないケーブルは交換してください。

3. ピボットボルトのキャップ①、ナット③を取り外し、ピボットボルト②を上押しして取り外してください。



4. インナーケーブルの両端にワイヤーのほつれがないか点検してください。各部を清掃し、ピボットボルトに汎用グリースを塗布してください。
5. タイコ部分④に汎用グリースを給脂してください。

注目

82ページの定期整備表記載の指定時期に、コントロールケーブルのタイコ部分に注油してください。

6. レバーを組み立ててください。

- ケーブルをレバーに取り付けてください。ケーブルをブラケットの切れ目に入れ、アウターケーシングを溝に押し込んで戻してください。
- ピボットボルトを取り付けて、ナットを規定のトルク値で締め付けてください。

トルク

クラッチレバーピボットナット：

5.5Nm

- クラッチケーブルの反対側の先端に給油し、プライマリーカバーのクラッチアームに取り付けてください。
- クラッチレバーのあそびを調整してください。

サイドスタンドの給油

サイドスタンドブッシュに定期的に給油してください。サイドスタンドの点検については、66ページを参照してください。

リアブレーキペダル

- ピボットブッシュの注油は、82ページにある定期整備表記載の指定時期に行ってください。動きが明らかに固い場合は、その都度注油してください。汎用グリスを使用してください。
- 「ブレーキディスクの点検/清掃」セクションの内容に従って、ブレーキパッドを点検してください。

ブレーキホース/接続部

フルードの漏れやしみ、フルードの乾いた痕や汚れがないか、ブレーキホースとコネクターを点検してください。接続部に漏れがある場合は増し締めし、必要場合は部品を交換してください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

ブレーキフルードの安全対策



警告

取り外す前に、フィルターキャップを清掃してください。密閉保管されたDOT4ブレーキフルード以外は使用しないでください。不適切なフルードの使用や、ブレーキ油圧系統内への空気や汚れの混入は、シールの破損や故障を引き起こし、重傷事故や死亡事故の原因になるおそれがあります。

リザーバーカバーを外した状態で、フロントブレーキを作動させないでください。フルードがリザーバーから溢れ、ブレーキ油圧系統内に空気が入ることがあります。ブレーキ油圧系統内に空気が入ると、ブレーキ故障の原因になることがあります。

リザーバーのフルード量が多すぎるとブレーキの引きずりやブレーキロックを引き起こし、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。ブレーキフルードのレベルは、規定量に保ってください。入れすぎないでください。

注目

ブレーキフルードは塗装面とプラスチックパーツを傷めます。ブレーキフルードがこぼれた場合は必ず、ただちに水と中性洗剤で洗い流してください。

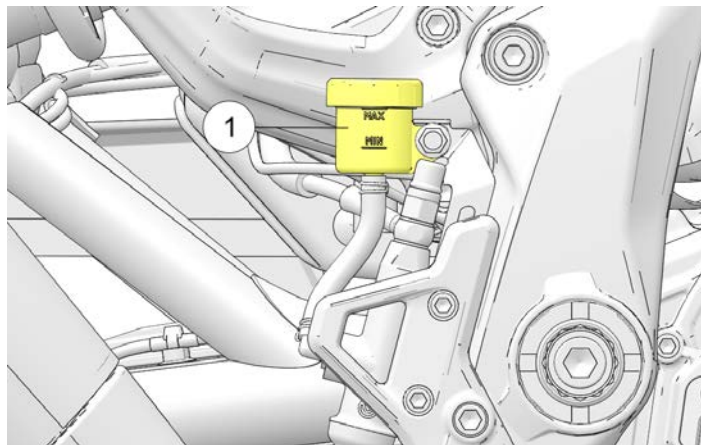
点検整備

リアブレーキフルード

ブレーキフルードは、82ページに記載されている定期整備表記載の指定時期に交換してください。ブレーキフルードは、必ず新品未開封容器のものを使用してください。必ず推奨フルードを使用してください。163ページを参照してください。

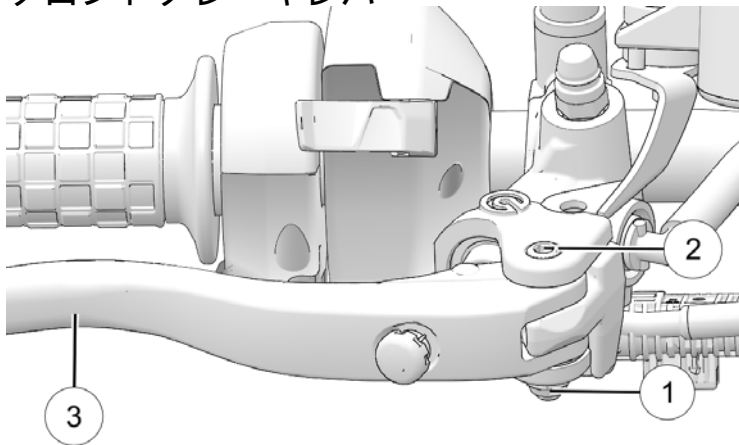
1. モーターサイクルを平らな地面に正立姿勢で置いてください。
2. リアブレーキフルードリザーバーは、リアブレーキペダルの近くにあります。車両右側からリザーバーを目視してください。
3. 清潔な布で、リザーブタンクとリザーバーカバー周辺を拭いてください。
4. 液量が少ない場合は、130ページの内容に従って、ブレーキパッドを点検してください。ブレーキパッドが使用限界まで摩耗していない場合、ブレーキ系統に漏れがないか点検してください。

5. カバーとダイヤフラムを取り外してください。液面が、リザーバー本体①の最低目盛りより上でなければなりません。必要に応じて、ブレーキフルードを補充してください。入れすぎないでください。



6. カバーとダイヤフラムを元のとおりに取り付けてください。カバーを手で締め付けてください。
7. こぼれたフルードを拭き取ってください。ホース、フィッティング、リザーブタンク、およびブレーキキャリパーの周辺に、ブレーキフルード漏れの形跡がないか点検してください。

フロントブレーキレバー



1. ナット①ピボットボルト②を取り外してください。
2. ピボットボルト、レバー、およびレバーブラケットを清掃してください。
3. 図に示すように、ブレーキレバーを取り外し、ピボットボルト②、レバーブッシュ、およびレバー③のプッシュロッド接触面にグリースを給油してください。

4. ブレーキレバーを組み立ててください。
5. ブレーキレバーピボット固定ナットを規定トルク値で締め付けてください。

トルク

ブレーキレバーピボットボルト：
6Nm

フロントブレーキフルード

ブレーキフルードは、定期整備表記載の指定時期に交換してください。

アンチロックブレーキシステムのオイルの交換はしないでください。この整備は、正規販売店に依頼してください。

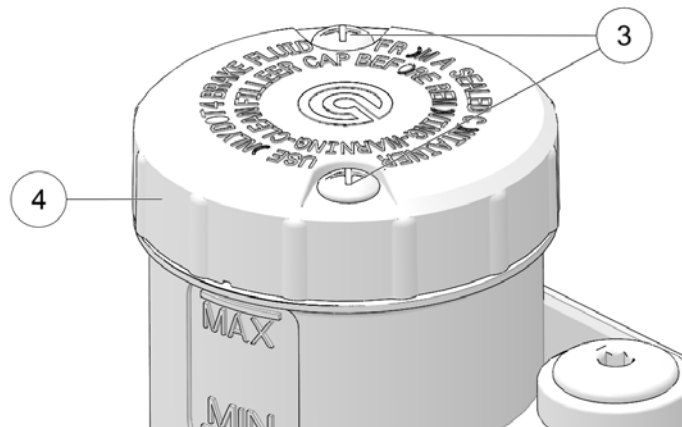
ブレーキフルードは、必ず新品未開封容器のものを使用してください。必ず推奨フルードを使用してください。163ページを参照してください。

点検整備

1. モーターサイクルを平らな地面に正立姿勢で置いてください。ハンドルバーを、フルードリザーバーが水平になるような位置にしてください。清潔な布で、リザーブタンクとリザーバーカバー周辺を拭いてください。



2. フルード点検窓からフルード液量を目視点検してください。フルードは透明でなければなりません。また、液量はMIN①マークとMAX②マークの間でなければなりません。液量が少ない場合は、129ページの内容に従って、ブレーキパッドを点検してください。ブレーキパッドが使用限界まで摩耗していない場合、ブレーキ系統に漏れがないか点検してください。



3. フルードを補充するには、リザーブタンクカバーのネジ③およびリザーブタンクカバー④を取り外してください。
4. 必要に応じてDOT4ブレーキフルードを補充し、液量がMIN①マークとMAX②マークの間になるようにしてください。入れすぎないでください。

5. リザーブタンクカバーを元のとおりに取り付けて、ネジを指定トルクで締め付けてください。

トルク

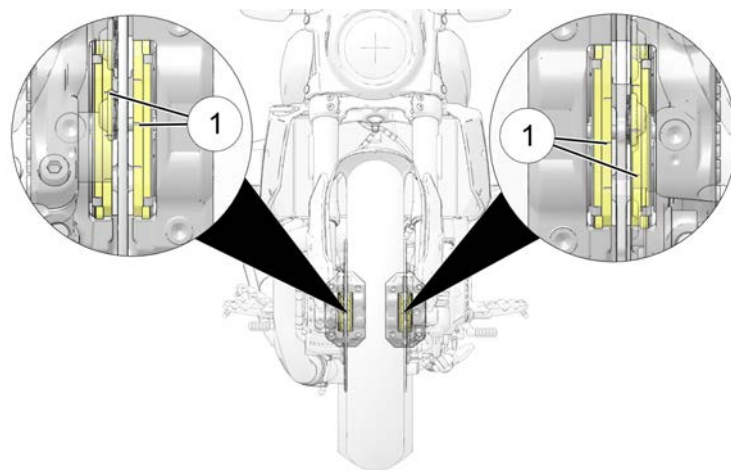
フロントマスターリザーブタンクカバースクリュー：
1.4Nm

6. こぼれたフルードを拭き取ってください。ホース、フィッティング、リザーバー、およびブレーキキャリパーの周辺に、ブレーキフルード漏れの形跡がないか点検してください。ホースの劣化がないか点検してください。

フロントブレーキパッドの点検

注目

フロントブレーキパッドのそれぞれに摩耗確認用の溝があり、パッドを取り外すことなく目視点検できるようになっています。キャリパー後方からパッドを目視で点検してください。溝がなくなるところまで摩耗している場合、パッドを交換してください。



1. フロントブレーキパッドをキャリパーフロント側から見て、摩耗確認用の溝①の位置を確認してください。
2. 摩耗確認用の溝は、内側と外側のブレーキパッド両方で視認できなければなりません。

⚠ 注意

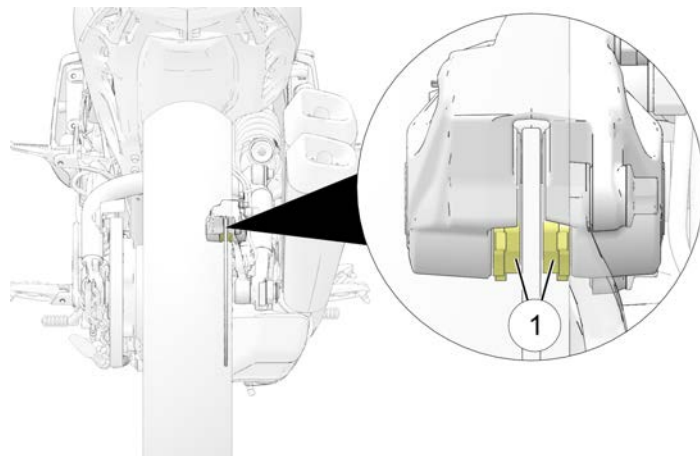
フロントブレーキパッドは、必ずセットで交換してください。ブレーキパッドが1枚でも溝のなくなるところまで摩耗したと確認できる場合、フロントキャリパーのパッドをすべて新品に交換しなければなりません。2枚のフロントブレーキパッド両方を同時に交換しない場合、制動性能の低下やブレーキの故障を引き起こし、事故原因になる場合があります。

リアブレーキパッドの点検

注目

リアブレーキパッドのそれぞれに摩耗確認用の溝があり、パッドを取り外すことなく目視点検できるようになっています。モーターサイクル後方、マフラー直後の位置からパッドを目視で点検してください。溝がなくなるところまで摩耗している場合、パッドを交換してください。

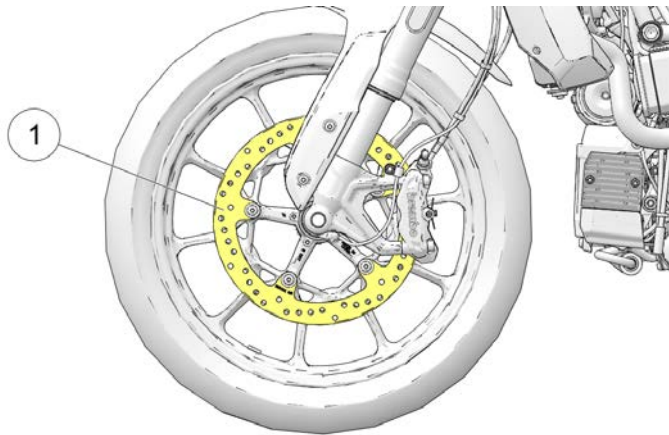
1. モーターサイクルは立てた姿勢にし、フロントホイールをホイールバイスで固定してください。
2. リアブレーキパッドをモーターサイクル後方、リアフェンダーの縁の下から見て、摩耗確認用の溝①の位置を確認してください。



3. 摩耗確認用の溝は、内側と外側のブレーキパッド両方で視認できなければなりません。

ブレーキディスク点検/清掃

1. ブレーキディスク①に打痕、傷、亀裂などの損傷がないか点検してください。各ブレーキディスクの全周の4か所以上で、ディスクの厚さを点検してください。いずれかのディスクの最も薄い箇所が4.5mmまで摩耗している場合、または破損しているディスクがある場合は、正規販売店に交換を依頼してください。



2. 土埃やブレーキダストによる軽度の鳴きがある場合は、ディスクを清掃してください。清潔なタオルにブレーキクリーナーを吹き付けて、ディスクを拭いてください。塗装部分やプラスチック部にブレーキクリーナーが付かないようにしてください。ラベル記載の安全対策をすべて読んでください。

ホイールの点検

前後のホイールに亀裂や破損がないか点検し、損傷のあるホイールはただちに交換してください。ホイールに損傷や亀裂がある場合は、モーターサイクルを走行させないでください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

ホイールのアライメント

定期点検時、リアホイール脱着時、およびリアドライブチェーン調整時に、リアホイールのアライメントを点検してください。この整備は、正規販売店に依頼してください。

フロントホイールの取り外し/点検



警告

この手順では、フロントホイールが地面から浮くように、モーターサイクルをリフトアップし固定する必要があります。モーターサイクルが常に十分に安定した状態であるように、安全対策を取る必要があります。モーターサイクルを適切に固定しておかないと、重傷や車両の破損を生じるおそれがあります。



注意

ブレーキホースやブレーキラインをねじらないでください。キャリパーをブレーキホースでぶら下げた状態にしないで下さい。ホースが破損しないような方法で、キャリパーを固定してください。

点検整備

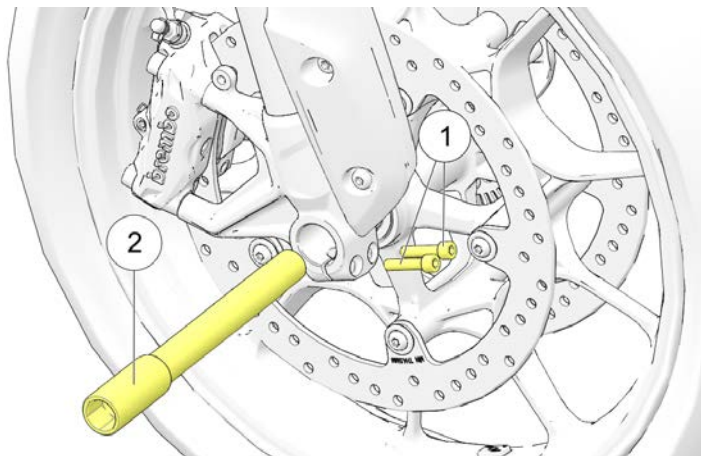
1. モーターサイクルをタイダウンストラップによって正立状態に固定し、エンジンケースの下にプラットフォームジャッキを当ててください。

重要

キャリパーまたはホイールを外した状態で、フロントブレーキレバーを操作しないでください。

取り外し

2. フロントブレーキキャリパーを取り外してください。
3. 右側フォークの下端にあるアクスルピンチボルト①を緩めてください。



4. ホイールを支持してから、22mm六角レンチでアクスル②を取り外してください。スペーサーはダストシールで緩めに保持されていますが、ホイールの取り外し後に落下することがあります。

取り付け

5. フロントホイールとスペーサーをフォークに取り付けてください。
6. アクスルを取り付けて、規定トルク値で締め付けてください。

トルク

アクスル (フロントフォーク) :
75Nm

7. フロントサスペンションを何度か伸縮させてください。アクスルピンチボルトを規定トルク値で締め付けてください。

トルク

アクスルピンチボルト :
19Nm
2本のボルト交互に初期トルクをかけてから、一回で規定トルクまで締め付けます

8. フロントブレーキキャリパーを元のおりに取り付けてください。

タイヤ



警告

不適切なタイヤ、不適切なタイヤ空気圧、または摩耗の進んだタイヤでモーターサイクルを走行させると、制御不能や重傷事故の原因になるおそれがあります。空気圧不足は、タイヤの過熱の原因になり、タイヤバーストを引き起こすことがあります。インディアンモーターサイクルがその車種用に承認したタイヤのみを使用してください。正規販売店にご連絡ください。未承認のタイヤや、前後タイヤの不適切な組み合わせを使用すると、ハンドリング性能と安定性が損なわれ、車両の制御が困難になることがあります。本取扱説明書、または安全ラベルに記載されている指定空気圧を常に適切に維持してください。

タイヤ交換

タイヤ、リム、およびエアバルブは、ホイールリムに正しく適合している必要があります。インディアンモーターサイクルがその車種用に承認したタイヤのみを使用してください。正規販売店にご連絡ください。未承認のタイヤや、前後タイヤの不適切な組み合わせを使用すると、ハンドリング性能と安定性が損なわれ、車両の制御が困難になることがあります。インディアンモーターサイクルの推奨タイヤを使用することで、フェンダー、スイングアーム、ドライブチェーン、およびその他の構成部品との適切なクリアランスが確保できます。詳細については、「仕様」セクションを参照してください。



警告

タイヤ、リム、およびエアバルブが適合しない場合、組み込み時にビードが破損するかタイヤがリムから外れる原因になり、結果的にタイヤが破損するおそれがあります。

タイヤの状態

タイヤのサイドウォール、接地面、およびトレッドベースに、切り傷、刺し傷、および亀裂がないか点検してください。損傷のあるタイヤはただちに交換してください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

タイヤの残り溝深さ

残り溝深さが1.6mm未満の場合、タイヤを交換してください。

トレッド全周の少なくとも3か所にスリップサインがあり、残り溝深さが1.6mmになると表面に露出します。スリップサインは、トレッド間をつなぐ帯状の橋のような外見です。

また、デプスゲージが正確な定規を使用して、前後タイヤ両方のトレッド中央部の溝の深さを測定することもできます。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧の点検調整は、必ずタイヤが冷えているときに行ってください。走行直後は、タイヤ空気圧を調整しないでください。空気圧を点検するには、走行後3時間以上待ってください。タイヤが暖まった状態で空気圧を点検すると、その後の温度の低下とともに空気圧が低下し、膨張度が不足することになります。



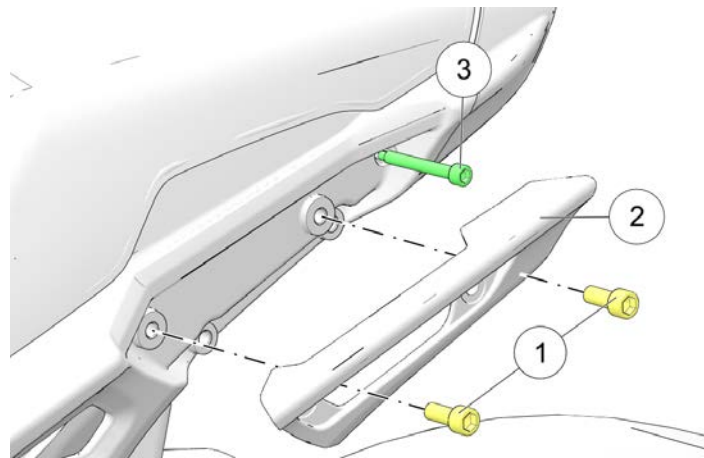
警告

ビードを上げる際に、指定最高空気圧を超えることがないようにして下さい。タイヤまたはリムの不具合が発生し、重傷事故や死亡事故の原因になることがあります。

車種	位置	ブランド/タイヤ/サイズ	指定空気圧
FTR Rally	フロント	ピレリ®・スコーピオン®・ラリーSTR 120/70 R19 60V	248kPa
	リア	ピレリ®・スコーピオン®・ラリーSTR 150/70 R18 70V	276kPa
FTR FTR Sport	フロント	メッツラー®Sportec® M9 RR 120/70 ZR17 58W	248kPa
	リア	メッツラー®Sportec® M9 RR 180/55 ZR17 73W	276kPa
FTR R Carbon	フロント	メッツラー®Sportec® M9 RR 120/70 ZR17 58W	248kPa
	リア	メッツラー®Sportec® M9 RR 180/55 ZR17 73W	276kPa

シートの取り外し

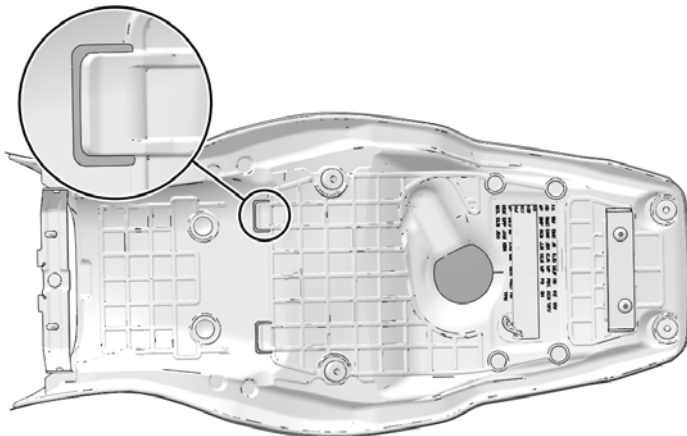
1. 左右のパッセンジャーグラブハンドル固定ネジ①とグラブハンドル②を取り外してください。



2. シート固定ネジ③を取り外してください。
3. シート後部を持ち上げながら後方に引き、シート前部をフレームから外してください。

シートの取り付け

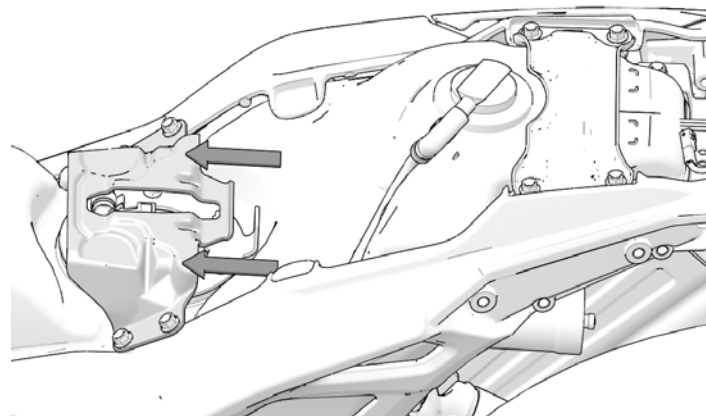
1. シート裏側にある2個のタブを確認してください。



2. 上図のタブを、サポートブラケットの下側に滑らせて、フロント固定ブラケットに差し込んでください。

ヒント

フロントタブがしっかりとハマるように、固定ネジを取り付ける前にシートの後部を引き上げてください。



3. 固定ネジ2本で、シート後部を固定してください。

トルク

シート固定ネジ：
9.5Nm

4. パッセンジャーグラブハンドルを、ハンドルごとに2本のネジを使用して、元のおりに取り付けてください。

トルク

パッセンジャーグラブハンドル固定ネジ：
26Nm

点検整備

スパークプラグ

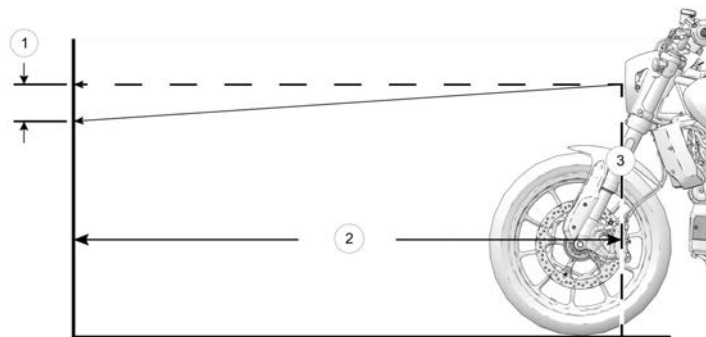
スパークプラグの点検と交換は、定期整備表記載の指定時期に、正規販売店で実施してください。

スパークプラグ仕様	
スパークプラグのタイプ	NGK® MR7F
プラグギャップ	0.80mm
スパークプラグの締め付けトルク	10Nm

ヘッドライト光軸点検

目安として、ロービームで光線が水平に切れている線①が、真っすぐ前方10mの位置でヘッドランプバルブ中心から17.8cm低くなるようにして下さい。

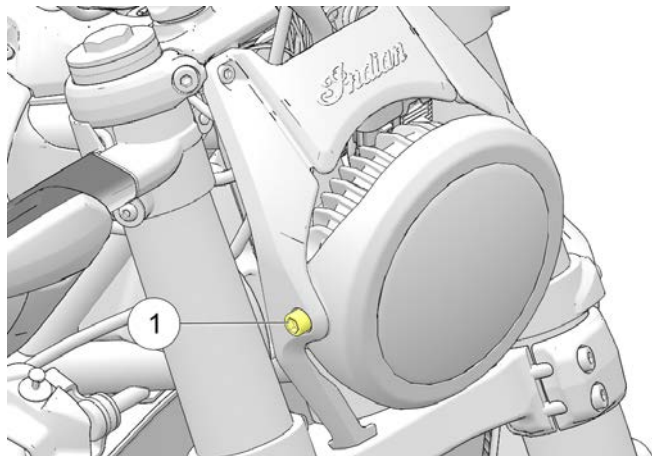
1. タイヤ空気圧が規定値であることを確認してください。
2. リアサスペンションの乗車時の高さ調整（プリロード）が規定値であることを確認してください。
3. モーターサイクルを、ヘッドライトの位置が壁面から10mになるようにして、水平な面に置いてください。
4. ライダーとパッセンジャー（該当する場合）が乗車した状態で、モーターサイクルを完全に正立させてください。
5. エンジンを始動し、ヘッドライトをロービームで点灯させてください。壁面の光軸を確認してください。
6. 必要なヘッドライト光軸調整を行ってください。



番号	説明
①	実測距離 = 10.2cm
②	実測距離 = 10m
③	ヘッドライト中心

ヘッドライト光軸調整

1. ヘッドライトの上下方向の調整を行うには、2個のハウジング固定ナット①（左右各1個）を緩め、ハウジングを上下に動かしてください。ナットを規定トルク値で締め付けてください。



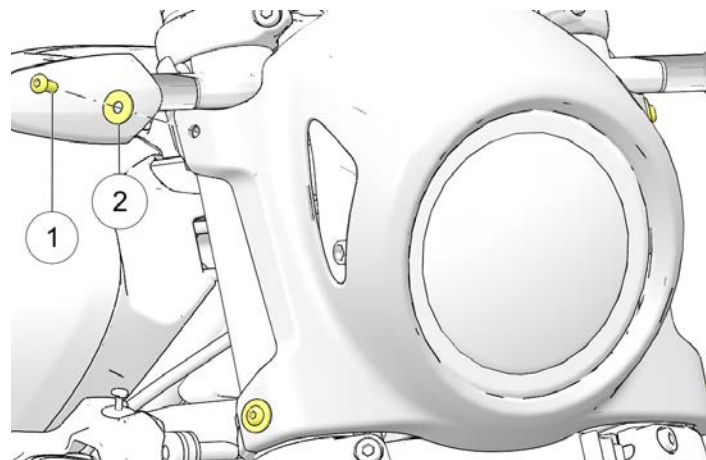
トルク

ヘッドライト調整ネジ：

34Nm

ヘッドライトカウルの取り外し（該当する場合）

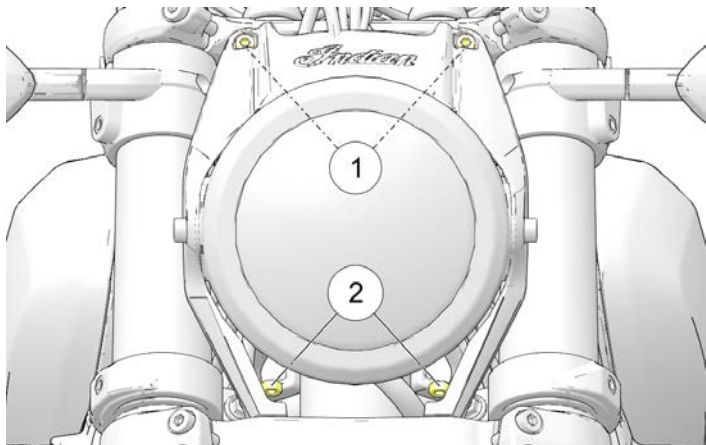
1. ヘッドライトカウルから4本のネジ①と4枚のワッシャ②を取り外し、保管しておいてください。



2. ヘッドライトカウルを取り外し、後の取り付けのため側に保管しておいてください。

ヘッドライトの取り外し

1. ヘッドライトブラケット上部から2本のスクリュー①を取り外して、保管しておいてください。

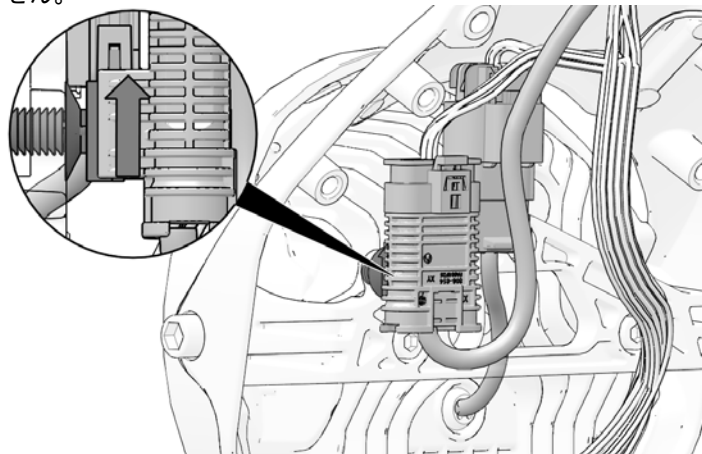


2. ヘッドライトブラケット下部から2個のナット②を取り外して、保管しておいてください。

ヒント

リア側から2個のナットに手が届くようにするため、ハンドルバーを左右一杯に切って下さい。

3. ヘッドライトアッセンブリーを固定していない状態で前方に傾け、電子制御スロットルの接続部をずらして、プッシュピンクリップから外してください。ハーネスの接続を外す必要はありません。



4. シャーシハーネスからヘッドライトの接続を外してください。ヘッドライトのコネクターは、プッシュピンクリップに取り付けられた状態を保ちます。
5. ヘッドライトアッセンブリーの塗装面に傷を付けないように、柔らかいものの上に慎重に置いてください。

バッテリー

このモーターサイクルのバッテリーは、メンテナンスフリーのシールドバッテリーです。どのような理由があっても、バッテリーキャップを取り外さないでください。バッテリーの接続部は常に汚れがなく確実に締め付けた状態に維持してください。



警告

バッテリー電解液は有毒です。硫酸を含有しています。電解液が皮膚、眼、または衣服に接触すると、重篤な熱傷を負うおそれがあります。

身体に付いた場合：流水で洗い流してください。

誤飲した場合：大量の水または牛乳を飲んでください。次に、マグネシウムミルク、溶き卵、または植物油を飲んでください。ただちに医師の診察を受けて下さい。

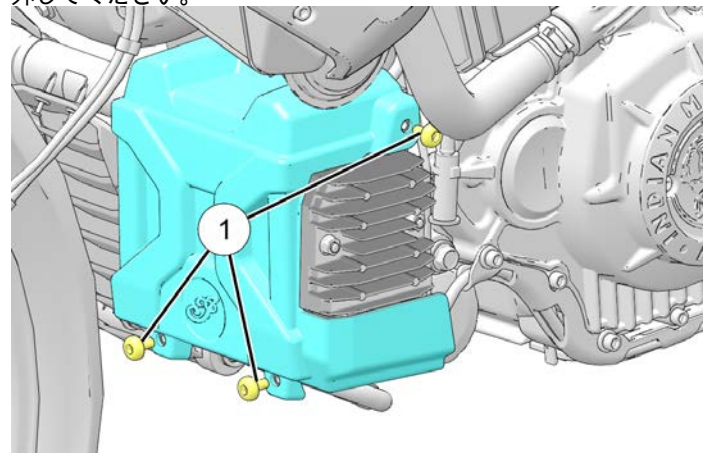
眼に入った場合：流水で15分間洗い流し、ただちに医師の手当を受けて下さい。

バッテリーは爆発性のガスを生じることがあります。

- 火花、裸火、たばこの火などを近づけないでください。
- 密閉された空間で充電または使用する場合は、十分に換気してください。
- バッテリーの近くで作業する場合は、必ず眼を保護してください。
- 子どもの手の届かないところに置いてください。

バッテリーの取り外し

1. 3本の固定スクリュー①を取り外して、バッテリーカバーを取り外してください。



2. バッテリーのマイナスターミナルの接続を外してください。



注意

バッテリーターミナル同士を接触させないように注意してください。

3. バッテリーのプラスターミナルの接続を外してください。
4. バッテリーをバッテリーボックスから取り出してください。

バッテリーの取り付け

1. バッテリーをバッテリーボックス内に取り付けてください。
2. プラスターミナルを接続し、固定スクリューを規定トルク値で締め付けてください。

トルク

バッテリーターミナル固定スクリュー:
3Nm

3. マイナスターミナルを接続し、固定スクリューを規定トルク値で締め付けてください。

トルク

バッテリーターミナル固定スクリュー:
3Nm

4. バッテリーカバーと3本の固定スクリューを取り付けてください。

トルク

バッテリーカバー固定スクリュー
4Nm

バッテリーの充電とメンテナンス

重要

バッテリー本体に記載されている安全対策を読み、その内容に従ってください。また、取扱説明書に概要が記載されている正しいバッテリー充電要領に従ってください。

AGM (グラスマツト吸着式) バッテリー充電器の推奨事項

インディアンモーターサイクルは、AGMバッテリーの充電と保守のために、BatteryMINDER® 2012 AGM-2Aバッテリー充電器 (部品番号2830438) の使用を推奨しています。この充電器は、正規販売店から入手できます。

電圧が12.5V未満に低下したバッテリーは、バッテリー内部に硫酸塩の結晶が生じるサルフェーションによって性能が大きく低下する危険性が高まります。AGM充電器はAGMタイプのバッテリー充電に特化した設計で、高周波パルスを使用してサルフェーションを部分的に解消させます。

重要

AGM以外の充電器を使用すると、誤って「バッテリーがありません」または「セルキャップが開いています」という故障メッセージが表示されることがあります。AGMタイプのバッテリーを充電する場合は、必ず推奨AGM充電器を使用するようにしてください。

AGMバッテリー充電指定事項 - 低充電

インディアンモーターサイクルのバッテリー正常電圧は、満充電時で12.8Vです。車両との接続を外したバッテリーは自己放電し、接続時よりも短時間で放電します。バッテリー電圧が12.5V未満に低下した場合、推奨バッテリー充電器を使用して、ただちに充電する必要があります。

車両に接続していない状態のバッテリーは、2~3か月ごとに点検しなければなりません。12.5V未満であることが分かったバッテリーは充電しなければなりません。

必ず推奨バッテリー自動充電器を使用し、充電器が充電サイクルを完了するまで待ってから、接続を外してください。

AGMバッテリー充電指定事項 - 過放電 (3V未満)

電圧3V以下まで放電したAGM (グラスマット吸着式) バッテリーは、推奨バッテリー自動充電器から認識されない場合があります。(その他のバッテリー充電器の認識最低電圧しきい値は、10.5Vという高い値である場合があります)。状況により、過放電したバッテリーに満充電の別のバッテリーを接続し「ブースターケーブル始動」を行うことで、回復できる場合があります。過放電バッテリーを回復させるには、下記の手順に従ってください。

1. ブースターケーブルを使用し、先に双方のバッテリーのプラス端子を慎重に接続し、次に双方のマイナス端子を接続してください。
2. 推奨バッテリー充電器を電圧の低いバッテリーに接続し、充電手順を順序どおりに開始してください。



警告

充電器の電源をオンにする前に、必ずプラスケーブルがバッテリーのプラス端子に接続されていることを確認してください。充電時に極性を逆接続すると、電気系統の部品を破損させ、重傷事故の原因になることがあります。バッテリーケーブルのクランプ同士が接触しないよう注意してください。

3. 充電手順の開始後、満充電のバッテリーの接続を外してください。接続は、必ず満充電側のプラス極から外し、次に低い電圧側のプラス極、低い電圧側のマイナス極、最後に満充電側のマイナス極という順序を厳守してください。
4. 両バッテリーとも満充電まで充電してください。過放電バッテリーのおよその充電時間を下表に一覧で示します。必ず推奨バッテリー自動充電器を使用し、充電器が充電サイクルを完了するまで待ってから、接続を外してください。推奨自動充電器は、バッテリーが満充電になると、ディスプレイに満充電の表示をします。

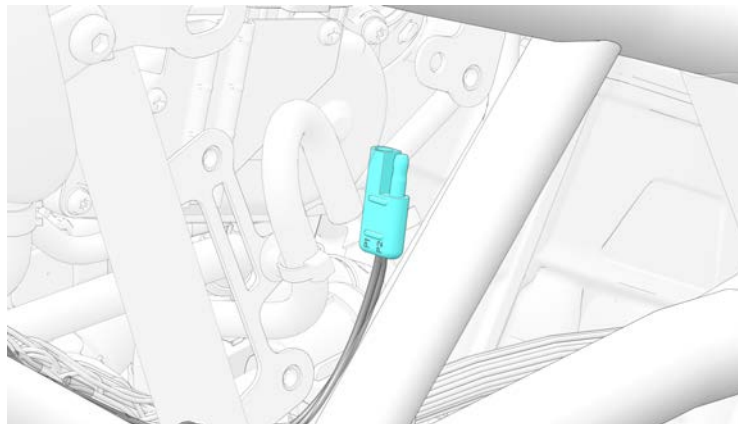
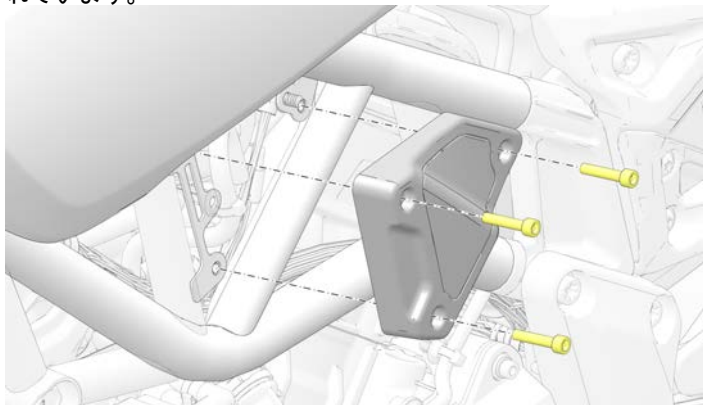
AGMバッテリー充電指定事項一覧表

充電状態	電圧 (DC)	措置	推奨充電時間*
100%	12.8 ~ 13.2V	なし	不要
75 ~ 100%	12.6 ~ 12.8V	わずかな充電が必要なことがあります まったく充電しない場合は、4週間以内に再度点検してください	2 ~ 4時間
50 ~ 75%	12.3 ~ 12.6V	充電が必要です	4 ~ 6時間
25 ~ 50%	12.0 ~ 12.3V	充電が必要です	6 ~ 8時間
0 ~ 25%	12.0V以下	充電が必要です	8時間以上
* 定電流2Aを想定			

AGMバッテリーのメンテナンスのヒント

1. モーターサイクルを2週間以上走行させない予定の場合、BatteryMINDer 2012-AGM充電器 (部品番号2830438) によるバッテリーのメンテナンスをおすすめします。
2. 車両を1か月以上保管する場合は、バッテリー寿命を長くするため、車両からバッテリーを取り外しておくことをおすすめします。保管中のバッテリー寿命を最長化するには、乾燥した涼しい場所に保管する必要があります。バッテリーは、酷暑や厳寒の環境で保管すると、自己放電が急速に進みます。保管中のバッテリーは、推奨充電器を使用してメンテナンスする必要があります。
3. バッテリーは、汚れがひどいと自己放電が急速に進みます。定期的に端子用ブラシでバッテリー端子を清掃すると、バッテリー寿命の最長化に役立ちます。大きじ1杯の重炭酸ナトリウム (重曹) を1カップの水に溶かした溶液で端子を洗浄してください。水道水でよく洗い流し、清潔なタオルで水分を拭き取ってください。誘電グリースまたはワセリンを端子に塗布してください。

4. バッテリーを取り付ける際は、接続部を指定トルクで締め付けてください。これにより、電圧降下を抑制し、レギュレーターレクチファイアーとバッテリー間に信頼性の高い接続を確保できます。
5. このモーターサイクルには、バッテリー充電時にすばやく接続できる便利なSAEコネクタが装備されています。このコネクタは左側Vカバーの裏にあり、シャーシハーネスにテープで固定されています。

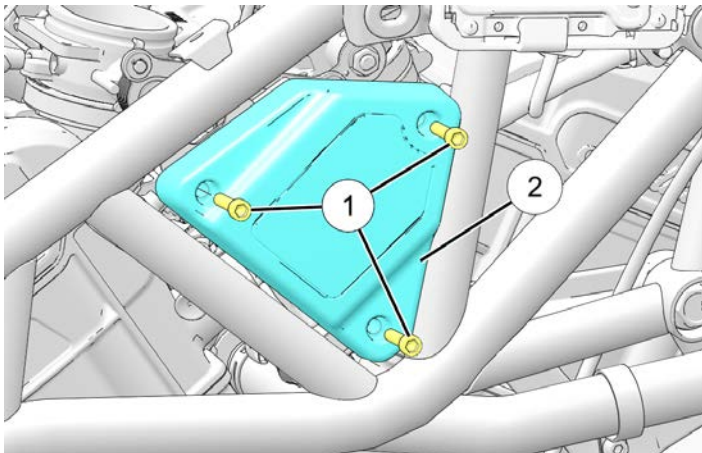


テープを慎重にはがして、コネクタと接続されている電線を見える状態にしてください。車両を走行させるときには、電線とコネクタを確実に固定するように注意してください。

ヒューズ 交換

ヒューズパネルは、モーターサイクルの右側にあります。

1. モーターサイクル右側の、3本のネジ①とV字型カバー②を取り外して、ヒューズパネルの作業ができるようにしてください。



2. ヒューズボックスカバーを取り外してください。

3. いずれかのヒューズが溶断している場合、メインスイッチをオフにしてください。指定アンペアの新品ヒューズを取り付けてください。スイッチをオンにし、システムが正常に作動するか確認してください。ヒューズの溶断が再発する場合、電気系統に問題があります。

⚠ 注意

指定値よりもアンペア数の大きいヒューズは使用しないでください。

適正な定格のヒューズが溶断し続ける場合、何らかの不具合があるため、修正が必要です。アンペア数の大きいヒューズへの交換は、電気系統と車両の破損を拡げるおそれがあります。

4. 元のとおりを組みつけて、カバーの固定ネジを規定のトルク値で締め付けてください。

トルク

V字型カバー固定スクリュー：
4Nm

電気系統の安全対策

通信信号断絶と電気系統故障の可能性を防止するため、電気系統に関する下記の安全対策に注意してください。

- お使いの車種専用に設計された、インディアンモーターサイクル純正アクセサリ以外は絶対に使用せず、添付の注意事項に従ってください。
- 付属のアクセサリ電源ジャックを使用してください（装備車の場合）。

- ワイヤーの切断やワイヤーへの割り込み接続はしないで下さい。
- インディアンモーターサイクル用アクセサリ取扱説明書で特にそのように指示されていない限り、モーターサイクルの電源またはアースへのタップによる接続はしないで下さい。
- インディアンモーターサイクルサービスマニュアルでそのように指示されていない限り、電装コネクタにバックプロープを使用しないでください。
- 診断コネクタからの給電は絶対にしないでください。

排気システムの点検

排気系統に、排気ガスの漏れによる汚れがないか点検してください。排気ガスケットに破損や漏れがある場合は交換してください。排気系統のボルト・ナットすべてを点検してください。クランプやボルト・ナットに緩みがある場合は増し締めしてください。締め付けすぎないようにしてください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

注目

ガスケットは再使用できません。接続部を外した場合は、必ずガスケットを交換してください。

モーターサイクルのリフトアップ



警告

モーターサイクルの転倒や落下は、重傷事故や死亡事故につながるおそれがあります。モーターサイクルをリフトアップしている場合またはサイドスタンドで立てている場合は、転倒や落下が起きないように注意してください。

一部の手順では、点検対象の構成部品から荷重を抜くために、モーターサイクルをリフトアップする必要があります。モーターサイクルをリフトアップするには、安定した平らなプラットフォームジャッキまたはリフト機構を堅固で平坦な面において、エンジンクランクケースの下を持ち上げてください。プラットフォームは、30cm四方以上の大きさでなければなりません。適切な装備の無い状態では、モーターサイクルのリフトアップを試みないでください。リフトアップした位置でモーターサイクルが転倒、または落下することが絶対にないように、持ち上げる前にモーターサイクルを適切に固定してください。

ボルト・ナットの点検

1. モーターサイクルの車体とエンジン全体に、ボルト、ナットの緩み、破損、脱落がないか点検してください。緩んだボルト、ナットは指定トルクで増し締めしてください。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。
2. ボルト、ナットのうち、ねじ山が潰れているもの、破損したもの、折損したものは、必ず走行前に交換してください。同サイズ同強度のインディアンモーターサイクル純正品を使用してください。

締め付けトルク

締め付けの手順と締め付けトルクには、この説明書に記載されていないものもあります。インディアンモーターサイクルサービスマニュアルを参照するか、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

トラブルシューティング トラブルシューティング

お客様ご自身の安全確保のため、この取扱説明書に要領のすべてが記載されていない点検または修理は行わないでください。問題の原因がご自身では解明できない場合、またはその点検/修理がご自身のメカニックとしての能力や保有する工具の範囲を超えている場合は、正規販売店に整備を依頼してください。いかなる点検または修理も、エンジンの作動中には実施しないでください。

クランキングはするが、エンジンが始動しない

考えられる原因	考えられる対応策/処置
燃料残量警告	燃料の残量を確認してください。
燃料ポンプが作動していない	エンジンキルスイッチをRUNにして下さい。イグニッションキーをオンにしてください。燃料ポンプが瞬間的に動くが、その後停止する。燃料ポンプ/イグニッションサーキットブレーカーを点検してください。144ページを参照してください。
バッテリー電圧が低下している	バッテリーを満充電まで充電してください。140ページを参照してください。
スパークプラグの汚れ	正規販売店にご連絡ください。
圧縮低下	正規販売店に、エンジン圧縮テストを依頼してください。
点火コイルヒューズが破損しているか、溶断している	ヒューズボックスを点検して、点火コイルヒューズが完全な状態であるか確認してください。144ページを参照してください。

スターターモーターからカチンと音がするが回転しない、または回転が遅い

考えられる原因	考えられる対応策/処置
エンジンキルスイッチがSTOP位置になっている	キルスイッチをRUN位置にしてください。
バッテリーの放電	バッテリーを満充電まで充電してください。140ページを参照してください。
バッテリーケーブルの緩みまたは腐食	バッテリーケーブルを点検してください。
トランスミッションがニュートラル以外のギアに入っている	トランスミッションをニュートラルに変速するか、クラッチレバーを握ってクラッチを切ってください。70ページを参照してください。

トラブルシューティング

エンジンは始動するが、失火または回転不良が生じる

ヒント

点検を実施する前に、エンジンを停止させてください。

考えられる原因	考えられる対応策/処置
バッテリーの放電	バッテリーを満充電まで充電してください。
バッテリーケーブルの緩みまたは腐食	バッテリーケーブルと接続部を点検してください。
スパークプラグの汚れ	正規販売店にご連絡ください。
燃料の汚れ	燃料に水分/汚れが混入していないか点検してください。正規販売店にご連絡ください。
エンジンオイルの油量が、オイルの種類が正しくない	油量とオイルの粘度・グレードを点検してください。
イグニッションコイルのワイヤー緩み、断線、または短絡	コイル側側の配線を点検してください。正規販売店にご連絡ください。
吸気口の詰まり	エアフィルターを点検してください。
二次空気の吸入	エアボックス、クランクケースブリーザーホース、スロットルボディ、および吸気インシュレータの接合部を点検してください。
点火コイルヒューズが破損しているか、溶断している	ヒューズボックスを点検して、点火コイルヒューズが完全な状態であるか確認してください。

変速困難またはニュートラル位置の発見困難

考えられる原因	考えられる対応策/処置
クラッチの破損	クラッチを交換してください。
クラッチケーブルの調整不良	正規販売店に点検調整を依頼してください。
シフトリンケージの調整不良	正規販売店に点検調整を依頼してください。
不適切なオイルまたは劣化したオイル	推奨オイルを使用してオイル交換してください。

エンジンのオーバーヒート

考えられる原因	考えられる対応策/処置
ラジエターフィンにゴミが詰まっている	ラジエターフィンを点検清掃してください。
ラジエターの詰まり	ホースで水道水をかけて、ラジエターフィンのゴミを洗い流してください。高圧洗浄機は使用しないでください。使用するとラジエターフィンが破損することがあります。
ファンの引っかけり	ファンを点検して、引がかっているものを除去してください。
ファンが作動していない	正規販売店にご連絡ください。
冷却水量不足	冷却水量点検の前に、エンジンの温度が下がるのを待ってください。106ページを参照してください。
冷却系統のエア噛み	正規販売店にご連絡ください。

バッテリー充電率が低いまたはバッテリーが放電している

考えられる原因	考えられる対応策/処置
充電回路接続部の緩みまたは腐食	バッテリーケーブル端子を点検清掃してください。充電回路接続部を点検清掃してください。正規販売店にご連絡ください。
付属品の負荷が充電率を超えている	エンジン停止時のアクセサリ作動を制限してください。
アクセサリの配線不良 (分電接続)	正規販売店に車両充電システムの出力と消費電流の点検を依頼してください。

ブレーキの異音/制動性能不良

注目
点検後もブレーキ性能が回復しない場合は、正規販売店にご連絡ください。

トラブルシューティング

考えられる原因	考えられる対応策/処置
ブレーキディスクの土埃やブレーキダスト	ディスクを清掃してください。「ブレーキディスク点検/清掃」セクションを参照してください。
パッドまたはディスクの摩耗/ブレーキディスクの損傷	パッドを点検してください。「ブレーキディスク点検/清掃」セクションを参照してください。
ブレーキフルードの液量低下または汚れ	フルードの液量/フルードの状態を点検してください。「フロントブレーキフルードの液量」および「リアブレーキフルードの液量」のセクションを参照してください。

ABSランプが点灯したまま、または間欠的に点灯する

考えられる原因	考えられる対応策/処置
ヒューズ切れ	ヒューズを点検してください。144ページを参照してください。
トーンリングの緩みまたは破損	トーンリングに緩みや歯の欠損がないか点検してください。
構成部品内の異物蓄積	ホイールスピードセンサーおよびトーンリングに異物付着がないか点検してください。
異物による破損	ホイールスピードセンサーのハウジングが割れていないか点検してください。
構成部品の破損	サービスマニュアルを参照するか、正規販売店にご相談ください。

清掃と保管

洗車用品

このセクションでは、インディアンモーターサイクルの新車時の美しさを長く維持するために、全表面に施す清掃、磨き、保存の最良の方法についていくつかのヒントを記載します。新車のインディアンモーターサイクルの清掃と磨きに使用する用品は、お使いのインディアンモーターサイクルに可能な限り最高のケアを提供する専用のものおすすめしています。

清掃と磨きのためにこのセクションで推奨している製品に加えて、インディアンモーターサイクルでは次の目的で使用する専用をご用意しています：

- エンジンのブラック/シルバーの再仕上げ
- エンジン、タイヤ、およびホイールの清掃
- ブレーキダストの除去

モーターサイクルの洗車後、塗装面に傷みがないか点検してください。塗膜の欠けや傷は、腐食防止のため迅速に修理しなければなりません。

つや消しクリアコート仕上げのお手入れの詳細については、つや消しクリアコート仕上げのお手入れのセクションを参照してください。

光沢クリアコート仕上げのお手入れの詳細については、光沢クリアコート仕上げのお手入れのセクションを参照してください。

上記に記載されていない内容、または洗車と細部の手入れについての疑問については、正規販売店におたずねください。

モーターサイクルの洗車

注目

モーターサイクルの洗車に高圧水噴射は使用しないでください。水がホイールベアリング、ブレーキキャリパーアッセンブリ、ブレーキマスターシリンダー、電気系統のコネクター、ステアリングヘッドベアリング、およびトランスミッションシールに浸透して、劣化させることがあります。

吸気口、排気口、電気系統のコネクター、またはオーディオシステムのスピーカーには、水流を向けないでください。

電気系統の構成部品は、水によって破損することがあります。電気系統の構成部品またはコネクターに水を接触させないでください。

1. 洗車前に、エキゾーストパイプの温度が下がっていることを確認してください。各パイプの開口部をビニール袋で覆い、強力な輪ゴムで固定しておいてください。スパークプラグ、プラグキャップ、オイルフィルターキャップ、および燃料キャップが適切に密封されているか、確認してください。
2. 研磨剤は使用しないでください。
3. ホコリと泥は、可能な限り低圧の流水で洗い流してください。吸気口またはエキゾーストパイプの開口部付近を洗う場合は、水の使用量を可能な限り少なくしてください。モーターサイクルを使用する前に、洗車で付着した水分は完全に乾燥させてください。
4. フロントフォークのインナーチューブを完全に清掃して、フォークシールの摩耗を抑え、フルード漏れを防いでください。

清掃と保管

5. 洗車後、エキゾーストパイプの輪ゴムとビニール袋を取り除いてください。エンジンを始動し、数分間アイドリングで回転させてください。
6. 走行前に、ブレーキが正常に機能するか確認してください。

ウインドシールドのお手入れ (装備車の場合)

ウインドシールドは、大量のぬるま湯を使って柔らかい布で清掃してください。柔らかいきれいな布で水分を取ってください。ポリカーボネート表面専用の高品質の研磨用コンパウンドで小傷を取ってください。

注目

ブレーキフルードとアルコール、一部のネジ緩み止め剤はウインドシールドを永久的に破損させます。ガラスクリーナー、水や防汚剤、石油やアルコールベースのクリーナーは、ウインドシールドに使用しないでください。ウインドシールドを破損させることがあります。

光沢塗装面のお手入れ

お使いのモーターサイクルの新車時塗装には、Axalta® スポーツ & エクイップメント塗装システムが使用されています。この塗装システムは、風雨に対する優れた保護性能が特徴です。この塗装システムの長所を最大限活かすため、光沢塗装のお手入れについては下記の手引きに従って下さい。

- 納車後30日間は、塗膜がまだ新しいため、モーターサイクルの洗車は水洗いのみとしてください。
- 納車後60日間は、ワックスを掛けしないでください。ワックスを掛けた結果、光沢が失われることがあります。60日経過後も、新品クリアコート仕上げ専用のワックスのみを使用してください。
- モーターサイクルの洗車に高圧水噴射は使用しないでください。塗膜がまだ新しいうちは、高圧水噴射により塗膜が傷むことがあります。高圧洗浄機を使用せざるを得ない場合は、噴射ノズルをモーターサイクルの表面から60cm以上離して使用してください。
- モーターサイクルの洗車はこまめに行ってください。特に、塩水、じん埃、酸性またはアルカリ性の環境に暴露した場合はすぐに洗車してください。
- 洗車にはぬるま湯または水と柔らかい布を使用してください。
- 研磨剤の入っていない、pHが中性の石けん (非酸性/非アルカリ性の洗剤) を使用してください。
- 溶剤ベースの洗浄液は使用しないでください。
- ホコリの除去に、乾いた布は使用しないでください。
- 硬い剛毛ブラシは使用しないでください。塗装面を傷つけることがあります。
- 洗車に極度に高温の水を使用しないでください。
- モーターサイクルの表面が高温の場合は洗車しないでください。また、直射日光下での洗車は避けてください。水に含有されている鉱物成分は、モーターサイクルの表面で乾燥すると除去するのが困難な場合があります。
- こぼれたガソリン、エンジンオイル、またはブレーキフルードが塗膜に残ることがないようにして下さい。付着した場合は、ただちに水で洗い流して取り除いてください。それでも残っている分を柔らかい布に吸い取らせ、布をそっと押し当てて乾燥させてください。

- 虫や路面のタールなどの付着物を除去するには、専用洗剤以外使用しないでください。塗膜の傷みを防止するため、洗剤メーカーの推奨事項に従ってください。その後、このセクションに記載している方法で洗車してください。
- 氷や雪は掻き落とさず、必ずブラシで落としてください。
- 塗膜の欠けや傷は、腐食防止のため迅速に修理しなければなりません。

つや消しクリアコートのお手入れ

つや消し仕上げの製品は、ホコリ、油分、およびその他の汚れが吸着しやすい傾向があります。この種の仕上げの清掃には、必ずぬるま湯と台所用中性洗剤を使用してください。柔らかいスポンジで力を入れずに表面をこすったあと、清浄なぬるま湯ですすいでください。グリースやオイルなどの頑固な汚れには、シトラス系の洗剤を使用してください。その部分に洗剤をスプレーし、柔らかいスポンジで力を入れずにこすってください。数分間待って洗剤をなじませてから、清浄なぬるま湯でよくすすいでください。必要な場合は、この作業を繰り返してください。

注目

つや消し塗装の清掃には、ポリッシュ/バフ仕上げ用ワックスや、研磨面のあるスポンジは絶対に使用しないでください。使用すると、塗膜のつや消し層を削り取り、光沢が出てしまいます。つや消し塗装の場合、清掃に高圧洗浄機は絶対に使用しないでください。クリアコート内部に汚れをさらに押し込んでしまい、ラベルやデカールを破損させることもあります。

保管場所の準備

乾燥した換気の良い保管場所、可能な場合は車庫などの建物内を選択してください。保管場所は、硬く平坦な床面があり、モーターサイクルのための十分な空間が取れるところでなければなりません。



警告

ガソリンは強い引火性をもち、一定の条件の下では爆発します。モーターサイクルは、裸火、点火用種火、火花、または電動機の付近（住居内または車庫内）には保管しないでください。保管場所は禁煙です。

タイヤの状態を最良に維持するために：

- 保管場所は、寒暖の差が比較的小さい、中程度の温度の場所で行わなければなりません。
- 保管場所の床面に、オイルおよびガソリンがあってはけません。
- モーターサイクルは、ラジエーターなどの熱源の近く、または何らかの種類の電動機の近くにあってはけません。

燃料添加剤

フューエルスタビライザーを添加する場合は、燃料タンクへ新しい燃料を給油してから使用してください。入れすぎないでください。

モーターサイクルを走行させるか、十分に換気されている場所でエンジンを始動して15分間作動させ、スタビライザーを燃料系統全体に行きわたらせてください。

タイヤ空気圧の調整

通常の空気圧になるまで、タイヤに空気を入れてください。詳細については、「タイヤ空気圧」のセクションを参照してください。

エンジンの保護

エンジンオイルを交換してください。詳細については、「エンジンオイル/フィルターの交換」のセクションを参照してください。

冷却系統

リザーブタンク内の冷却水量を点検し、冷却水を補充して推奨どおりの液量を維持してください。詳細については、冷却水量の点検のセクションを参照してください。

保管中のメンテナンス

長期保管中は、タイヤ空気圧とバッテリー電圧を推奨レベルに維持してください。

げっ歯類動物（ネズミなど）

ネズミなどのげっ歯類動物はしばしば、保管中のモーターサイクルにとって最悪の敵になります。ネズミの懸念がある地域（特に農村部、納屋、小屋など）で保管する場合、げっ歯類動物の活動を抑制する追加の対策を取ってください。これには、吸排気のための開口部にスクリーンメッシュを取り付けることが含まれる可能性があります（モーターサイクルを保管場所から引き出す場合は、忘れずに取り外すようにしてください）。

モーターサイクルの駐車とカバー

1. モーターサイクルを保管場所内に駐車してください。前後ホイールの荷重負担を一部除去するため、フレーム下にブロックを噛ませてください。

注目

保管期間中、定期的にモーターサイクルを始動することは、推奨いたしません。オイルと排気系統が通常の作動温度に達するまで十分な時間作動させるのでない限り、燃焼過程からの副産物である水蒸気によって腐食が生じるおそれがあります。

2. （温度が下がった後の）排気口にビニール袋をかぶせて固定し、排気系からの水分の侵入を防止してください。
3. 保管用に設計され耐久性がある通気性素材のカバーでモーターサイクルを覆ってください。カバーを掛けることで、モーターサイクルをホコリなどの空中の物質から保護することができます。カバー内のモーターサイクルに結露による水分が付着し、金属面の酸化の原因になることがないように、必ず通気性素材のカバーを使用してください。

保管後の再使用

1. 満充電のバッテリーを取り付けてください。
2. 油量を点検してください。温度と湿度が大きく変動する場所（屋外など）に保管していた場合は、エンジン始動前にエンジンオイルを交換してください。

注目

保管中の温度と湿度の変動により、クランクケース内に結露が生じ、エンジンオイルに混入している可能性があります。水分を含んだオイルでエンジンを作動させると、エンジンが破損するおそれがあります。

3. 保管場所に何らかの液漏れの痕跡がないか点検してください。漏れがある場合は、漏れている部位を特定し整備を実施してください。
4. げっ歯類動物（ネズミなど）に対する保護として、吸気口と排気口にメッシュカバーを取り付けてあった場合は取り外してください。
5. 燃料タンクには、必ず3/4以上の燃料を入れるようにしてください。
6. 走行前点検を実施してください。55ページを参照してください。
7. テスト走行を実施してください。81ページを参照してください。
8. モーターサイクルを洗車し、磨いてください。必要に応じて、適切なワックスがけ、磨き、または保護材の塗布を行ってください。

車両諸元

FTR

プリロード値		
	FTR Rally	FTR/FTR Sport/FTR R Carbon
全長	2,287mm	2,223mm
全幅	862mm	825mm
全高	1,218mm	1,141mm
空車でのシート高	845mm	820mm
ホイールベース	1,524mm	1,525mm
最低地上高	183mm	165mm
レイク (フレーム) / ト レール	26.3°/130.0mm	25.3°/ 99.9mm

重量	
乾燥重量 (燃料/フルード類なし)	
FTR	225kg
FTR Sport	225kg
FTR Rally	228kg EU向けのみ - 232kg
FTR R Carbon	224kg
車両重量 (燃料/フルード類搭載)	
FTR	233kg

車両諸元

FTR Sport	237kg
FTR Rally	236kg EU向けのみ - 242kg
FTR R Carbon	235kg
車両総重量 (GVWR)	
全車種	430kg
最大軸重 (GAWR)	
全車種	フロント : 165kg リア : 265kg
最大積載量 (ライダー、積荷、アクセサリ)	
FTR	197kg
FTR Sport	193kg
FTR Rally	194kg EU向けのみ - 188kg
FTR R Carbon	195kg

容量			
	FTR Rally	FTR/FTR Sport	FTR R Carbon
ラジエーター冷却液	2.0L		
エンジンオイル	4.16Lドライエンジン		
燃料	13.0L		
燃料リザーブ (燃料警告灯点灯)	1.9L		
フォークオイル	非調整式 : 519±6cm ³	調整式 : 508±6cm ³	調整式 : 544±6cm ³

ホイール/タイヤ		
	FTR Rally	FTR/FTR Sport/FTR R Carbon
フロントホイールのサイズ/タイプ	19 x 3in (48.26 x 7.62cm) キャスト	17 x 3.5in (43.18 x 8.89cm) キャスト
リアホイールのサイズ/タイプ	18 x 4.25in (45.72 x 10.80cm) キャスト	17 x 5.5in (43.18 x 13.97cm) キャスト
フロントタイヤ、タイプ/サイズ	120/70 R19 60V	120/70 ZR17 58W
リアタイヤ、タイプ/サイズ	150/70 R18 70V	180/55 ZR17 73W
タイヤ空気圧	フロント : 248kPa リア : 276kPa	

車両諸元

シャーシ		
	FTR Rally	FTR/FTR Sport/FTR R Carbon
フロントサスペンションタイプ/ストローク	倒立テレスコピックカートリッジフォーク/150mm	調整式倒立テレスコピックカートリッジフォーク/120mm
フロントフォークインナーチューブ径	43mm	43mm
リアサスペンションタイプ/ストローク	モノチューブIFP/150mm	ピギーバックIFP/130mm
スイングアーム	スチール	
フロントブレーキ	デュアルローター/320mm x t5/4ピストンキャリパー	
リアブレーキ	シングルローター/260 mm x t5/2ピストンキャリパー	

エンジン	
エンジンタイプ	水冷Vツイン (60度)
排気量	1,203cc (73in ³)
圧縮比	12.5:1
バルブトレイン	DOHC、1気筒あたり4バルブ、バケットシム
ボアxストローク	102 x 73.6mm
燃料供給方式/スロットルボディ内径	クローズドループ燃料噴射/デュアル、ボアφ60mm
排気系統	O ₂ センサー×2 (各バンクに1個) レゾネーター内に三元触媒1個
最高回転数	9,000rpm

エンジン	
アイドル回転数	1,250 ± 50 rpm (完全暖機時)
潤滑方式	セミドライサンプ
スパークプラグ/プラグ ギャップ	NGK® MR7F0.80mm

ドライブトレイン		
	FTR RALLY	FTR/FTR SPORT/FTR R CARBON/中国仕様
プライマリードライブ	ギア駆動湿式クラッチ	
クランクギア	46T	
クラッチギア	77T	
クラッチタイプ	アシストおよびスリッパ機能付き湿式多板	
一次減速比	1.674:1	
トランスミッションタイプ	6段/コンスタントメッシュ/フットシフト	
変速パターン	1ダウン/5アップ	
ファイナルドライブタイプ	チェーン/525HV3X/116リンク	チェーン/525HV3X/114リンク

車両諸元

電気系統	
オルタネーター	460W/3,000rpm
バッテリー	12V、12AH、240CCA メンテナンスフリーAGM
電圧レギュレーター	14.5V/32A
ヘッドライト	LED非分解式
テールランプ/ブレーキランプ	LED非分解式
ウインカー	LED非分解式
ナンバー灯	LED非分解式
スピードメーター	LED非分解式
表示灯	LED非分解式
ポジションランプ	LED非分解式

推奨燃料

最高の性能を発揮するため、オクタン価91以上 (RON+2/MON法) またはリサーチオクタン価RON95以上の無鉛プレミアムガソリンを使用してください。E85ガソリンまたはメタノール混合ガソリンは使用しないでください。E85ガソリンまたはメタノール混合ガソリンを使用すると、始動性と走行性能が悪化し、エンジン破損、さらに燃料系統の重要部品の破損を招くおそれがあります。

- エタノール混合率10%以下のガソリンは使用できます。

推奨の無鉛プレミアムガソリンが入手できず、低オクタン価の燃料を使用しなければならない場合は、無鉛レギュラーガソリンの給油量を最小限にとどめ、可能な限り早くプレミアム無鉛ガソリンを満タン給油してください。



推奨エンジンオイル

インディアンモーターサイクルには、インディアンモーターサイクル100%化学合成エンジンオイル15W-60を使用してください。このオイルは100%化学合成油のベースオイルに高級添加剤を調合したもので、API規格SM、ILSAC規格GF-4を満たす性能・品質を備えています。

エンジンオイルにはオイル添加剤を混合しないでください。

オイルを緊急に補給する必要があり、推奨オイルを用意できない場合は、高品質の15W-60モーターサイクル用オイルに限って使用できます。その場合は、なるべく早くオイル交換を実施して推奨オイルに戻してください。

この車両に使用するエンジンオイルは、JASO規格MAグレードに準拠している必要があります。

注目

推奨品以外の潤滑油を使用すると、エンジンが破損することがあります。推奨品以外の潤滑油の使用に起因する破損は、保証対象外です。

フォークオイル

インディアンモーターサイクルには、インディアンモーターサイクルフォークオイルを使用してください。

ブレーキフルード

推奨品インディアンモーターサイクルDOT 4 ブレーキフルードを前後ブレーキマスターシリンダーに使用してください。シリコンベースのDOT5フルードは使用しないでください。

保証

インディアンモーターサイクル保証規定

条件付き保証

2100 Highway 55, Medina, MN 55340に所在するINDIAN MOTORCYCLE (以下、インディアンモーターサイクルと言います)は、お客様のインディアンモーターサイクル車両のあらゆる構成部品材料、または製造工程に起因する不具合について2年間の条件付き保証を提供します。この保証は、不具合のある部品の修理または交換に要する部品代と交換工賃を対象とし、新車の新規登録日を保証開始日とします。本保証は、インディアンモーターサイクル正規販売店を通じた保証期間内の譲渡に限り、別の所有者へ保証継承が可能なものとします。ただし、譲渡により本来の保証期間が延長されることはありません。本保証の有効期間は、使用地の国内法および国内規則に基づき、国際的地域ごとに異なることがあります。

保証登録

お買い上げ頂いた正規販売店は、納車時において保証登録書の全項目に記入し、納車日から10日間以内にインディアンモーターサイクルに提出しなければなりません。インディアンモーターサイクルは、この登録書の受領により、保証登録を行います。登録事項の確認書類はお客様に送付されませんので、保証登録書の写しが保証対象であることの証明になります。保証登録書原本に署名しておらず、且つ写しを受取っていない場合、速やかにお買い上げ頂いた正規販売店にご連絡ください。お客様とのお客様車両の情報がインディアンモーターサイクルに登録されない限り、保証対象にはなりません。正規販売店による納車前点検整備は、確実にトラブルなくご使用いただくために極めて重要です。梱包状態の車両、または正規販売店による適切な納車前点検整備が実施されていない車両を購入すると、保証が無効になります。

保証対応の制限事項

当インディアンモーターサイクル条件付き保証は、材料または製造工程の不良に起因する以外の不具合については対象外とします。本保証は、設計不良を対象としません。本保証は、自然災害、事故による損害、通常損耗、酷使による損害、不適切な取扱いも対象外とします。また、本保証は、構造的な改変、改造、不作為、整備不良、またはレース、競技、もしくは目的外使用により発生した構成部品、および部品の故障、破損も保証いたしません。

不適切な潤滑、不適切なエンジン点火時期、不適切な燃料、外部応力・熱・低温・汚染に起因する仕上げの不良、運転者の操作不良や酷使、構成部品のアライメント・張り・調整・高度補正の不良、雪・水・土埃・その他の異物の侵入/汚染、不適切な整備、構成部品の改造、アフターマーケットまたは未承認の構成部品・アクセサリ・付加物、未承認の修理、保証期間経過後の修理、無認可の修理工場による修理に起因する損害または不具合については、本保証の対象外とします。

酷使、事故、火災など、材料または製造工程の不備以外の原因による損害または不具合は本保証の対象外とし、消耗品、一般的に摩耗する部品、および設計上の意図から外れる摩擦面・応力・環境条件・汚染にさらされる下記の品目（ただし下記に限定されません）には保証を提供しません。

- ホイールおよびタイヤ
- サスペンション構成部品
- ブレーキ構成部品
- シート構成部品
- クラッチおよび構成部品
- ステアリング構成部品
- バッテリー
- 電球/シールドビームライト
- フィルター類
- 潤滑油
- ブッシュ
- シーラント
- クーラント
- ベアリング
- 塗装面および塗装以外の仕上げ面
- フューエルインジェクター/スロットルボディ構成部品
- エンジン構成部品
- ドライブチェーン
- 油圧系統構成部品および作動油
- サーキットブレーカー/ヒューズ
- 電子部品
- スパークプラグ

潤滑油およびフルード類

1. 複数ブランドオイルの混合使用、または推奨品以外のオイルの使用は、エンジン破損の原因になることがあります。インディアンモーターサイクルの車両にはインディアンモーターサイクル用エンジンオイルを使用してください。
2. 推奨品以外の油脂類またはフルード類使用に起因する破損または故障は、保証対象外です。

本保証は、不具合発生に伴って発生する走行距離増加、交通費、宿泊費、食費、各種送料、車両引上げ配送費用、代車費用、車両使用不能に伴う損失、利益損失、休暇または個人的時間損失を含む個人的損失、個人的費用には適用いたしません。

インディアンモーターサイクルとして本保証を適用する場合の対応措置は、不具合のある材料、部品の交換、または車両の修理に限るものとします。本保証を適用する場合は、いかなるお客様に対しても、本書に記載された対応措置が唯一有効なものです。インディアンモーターサイクルは、いかなるお客様に対しても、明示的保証、黙示的保証、その他の契約、過失や不法行為などのいずれに起因するものであれ、あらゆる種類の偶発的損害、結果損害、および特別な損害の賠償責任を負わないものとします。この結果損害、偶発的損害、および特別な損害の免責は、本保証による対応措置が、その本来の目的を果たさなかったと判明した場合も、その事実とは関わりなく存続するものとします。

特定目的への適合性特定の黙示的保証は、この条件付き保証に含まれません。その他の黙示的保証（商品性についての黙示的保証を含みますが、それに限定されません）は、上記の保証期間2年間に限り存続します。インディアンモーターサイクルは、本書に記載されていない明示的保証はすべて免責事項とします。一部の国では、偶発的損害または結果損害の免責または制限が許されていないか、黙示的保証の持続期間の制限ができないため、適用される国の法規に適合する限り、上記制限が適用されません。

保証

保証修理を受けるには

お使いの車両に保証修理が必要な場合、インディアンモーターサイクル正規販売店に車両をお持ちください。保証修理を依頼する場合、正規販売店に保証登録書を提示しなければなりません。(正規販売店への往復交通費、車両輸送費用はお客様がご負担ください)。インディアンモーターサイクルは、販売を担当した正規販売店への持ち込みをおすすめしますが、保証修理はインディアンモーターサイクル正規販売店であればどちらでも実施できます。

モーターサイクルを購入した国内での場合：

保証修理またはサービスブリテンによる修理は、インディアンモーターサイクル正規販売店で実施しなければなりません。モーターサイクルを購入した国内で転居した場合や、出先での場合は、インディアンモーターサイクル正規販売店であればどちらの店舗でも保証修理またはサービスブリテンによる修理を依頼できます。

モーターサイクルを購入した国の国外での場合：

モーターサイクルを購入した国の国外で一時的に移動中の場合は、インディアンモーターサイクル正規代理店に持ち込まなければなりません。この場合、整備を担当する正規販売店に対して、お客様ご住所の証明として、車両を販売した正規販売店の販売地域である国が発行した写真付き身分証明書を提示しなければなりません。ご住所の確認後、整備担当販売店に対して保証修理の実施が許可されます。

転居した場合：

国外へ転居する場合、実際の転居前に、インディアンモーターサイクルカスタマーアシスタンスと、転居先の国の税関当局に必ず連絡してください。車両輸入の規則は、国によって大きく異なります。保証を引き続き有効な状態にするために、転居関係書類をインディアンモーターサイクルに対して提示していただく場合があります。また、転居先の国での車両登録のため、インディアンモーターサイクル発行の書類を新たに取得しなければならない場合もあります。保証書を有効な状態に保ち、お使いの車両に関する情報や通知を確実に受け取れるようにするため、実際の転居後ただちに、転居先の国のインディアンモーターサイクル正規販売店での保証登録手続きが必要です。

個人売買の場合：

新車販売時の国以外の国で車両を維持、使用するために、インディアンモーターサイクルを個人売買で購入した場合は、保証書の内容すべてが適用外となります。ただし、上記に関わりなく、お使いの車両に関する情報や通知を確実に受け取れるようにするために、自国内のインディアンモーターサイクル正規販売店に、お客様の氏名と住所で車両を登録することが必要です。

アメリカ以外へ輸出された車両について

法律により特に要求されている場合を除き、輸出車両が該当輸出先の正規販売店に認可された販売地域以外の国で販売された場合、保証またはサービスブリテンは適用されません。この方針は、インディアンモーターサイクルから第三国へ輸出の許可を受けた車両については適用しません。正規販売店が第三国への輸出許可を出すことはできません。輸出車両の保証またはサービスブリテンについてご質問がある場合は、正規販売店におたずねください。この方針は、車両を販売した正規代理店が許可を受けている営業地域外の国で勤務している政府職員または軍属名義の登録車両には適用されません。この方針は、セーフティブリテン（リコール）については適用しません。

注記

お持ちの車両が国外で購入したものである場合、上記手続きに従っていないと、当該車両について保証またはサービスブリテン（セーフティブリテンを除く）が適用されなくなります。当該車両が購入された国以外の国で勤務している政府職員または軍属名義登録車両の場合、本条件付き保証が継続適用されます。

保証適用に関して問題が発生した場合は、正規販売店にご相談ください。正規販売店は保証適用に関してインディアンモーターサイクルの支援を受け解決を図ります。

この保証書は、お客様に特定の法的権利を提供します。また、お客様は州、国により異なる権利を保有する場合があります。上記の条項のいずれかが、連邦、州、地域の法により無効である場合も、それ以外の保証条項は有効性を維持します。

お問合せは、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください：

アメリカ合衆国およびカナダ：1-877-204-3697

フランス語：1-800-268-6334

保証

モーターサイクル騒音規定

騒音対策装置の改造は禁じられています。下記のいずれかの行為またはその結果は、道路運送車両法に定める保安基準で禁じられています：

- 整備、修理、または交換を目的とするものを除き、誰によるものであっても、顧客へ販売または使用者への納車前もしくは使用過程で行われる騒音抑制を目的とした新車時に組み込まれた装置、構造の取り外しまたは無効化
- 誰によるものであれ、上記の装置または構造を取り外すか無効化した後の車両の使用。

改造と見なされる行為には次に列挙したものがありません：

- マフラー、バツフル、ヘッダーパイプ、またはその他排気ガスを伝導する部品の取り外しまたは穴開け。
- 吸気系統のいずれかの部分の取り外しまたは穴開け。
- 適切な整備を行っていない場合。
- 車両の可動部品のいずれか、または排気系統か吸気系統の部品をメーカー指定品以外の部品に交換。

使用中にモーターサイクルの騒音が大きく増大した場合、騒音対策装置の修理または交換のため点検をしなければなりません。これを怠ると、所有者が国内法および地方条例による罰則の対象になることがあります。

騒音対策装置保証

インディアンモーターサイクルは、新車販売時点において適用される該当保安基準、および騒音規制のすべてに適合していることを保証します。この保証は、再販以外の目的でこの排気系統の装置を購入した最初の人物およびその後全ての購入者に拡大適用されます。

保証修理の依頼先は下記のとおりです：

- インディアンモーターサイクル正規販売店
- *INDIAN MOTORCYCLE, 2100 Highway 55, Medina, MN 55340* アメリカ

排気ガス浄化装置保証

INDIAN MOTORCYCLE COMPANY - 排気ガス浄化装置保証

お客様の保証上の権利と義務

カリフォルニア州大気資源局およびインディアンモーターサイクルは、2015年型以降のインディアン製モーターサイクルの排出ガス浄化装置保証についてご説明いたします。カリフォルニア州においては、新車のエンジン付き車両には、同州の厳しいアンチスモッグ基準を満たす設計、製造、装備を施さなければなりません。インディアンモーターサイクルは、お使いのモーターサイクルについて、酷使、不作為、または整備不良がない限り、下記の期間において排出ガス浄化装置の保証を提供しなければなりません。排出ガス浄化装置には、燃料噴射装置、点火装置、触媒コンバーター、およびエンジンコンピューターなどの部品が含まれています。また、ホース、ベルト、継手、およびその他の排気関連アセンブリーも含まれます。保証対象となる状態が判明した場合は、インディアンモーターサイクルがお使いのモーターサイクルを無償で修理します。これには、診断、部品、および作業工賃が含まれます。

メーカーの保証範囲

クラスIIIモーターサイクル (280cm³以上) : 5年間または30,000kmのいずれか早く到達した方まで。

お使いのモーターサイクルの排出ガス関連部分に不具合がある場合、その部分はインディアンモーターサイクルが修理または交換します。これは、排出ガス浄化装置故障の保証です。

メーカーの保証範囲 (韓国)

クラスIIIモーターサイクル (280cm³以上) : 2年間または35,000kmのいずれか早く到達した方まで。

お使いのモーターサイクルの排出ガス関連部分に不具合がある場合、その部分はインディアンモーターサイクルが修理または交換します。これは、排出ガス浄化装置故障の保証です。

保証に関する車両オーナーの義務

お客様は車両オーナーとして、取扱説明書記載の必須整備を実施する責任があります。インディアンモーターサイクルは、所有車両の整備に関する領収書を全て保存するようお勧めしていますが、領収書の不備または定期点検の一部未実施だけを理由として、保証を全面的に拒否することはできません。車両に問題発生後、迅速に車両をインディアンモーターサイクル正規販売店に入庫するのはお客様の義務です。保証修理は、30日間を超えない合理的な期間内に完了する必要があります。お客様は、車両オーナーとして不適切な使用、車両放置、不適切な整備、および未承認の改造により、車両または部品に不具合が生じた場合、インディアンモーターサイクルが保証適用を拒否する場合がありますことをご承知おきください。

保証

保証に伴うお客様の権利と義務についてご質問がある場合は、インディアンモーターサイクル正規販売店にご連絡ください。

インディアンモーターサイクルは、保安灯火を標準装備する、公道走行用として適法な2015年型以降のインディアンモーターサイクルについて、下記を保証します：

- A. 新車販売時点において、米国環境保護局およびカリフォルニア州大気資源局から適用される規則すべてに準拠して設計・製造され、装備が施されていること
- B. 新車納車日から5年間または、エンジン排気量170cm³未満のモーターサイクルの場合12,000km、エンジン排気量170cm³以上280cm³未満のモーターサイクルの場合18,000km、エンジン排気量280cm³を超えるモーターサイクルの場合30,000kmのいずれかが早く到達した方まで、米国環境保護局またはカリフォルニア州大気資源局から適用される規則のすべてについて、基準値超過の原因になるような材料および製造工程の不具合がないこと。

I.保証範囲

保証対象の不具合は、アメリカ合衆国内に所在し、空気浄化法および米国政府環境保護局ならびにカリフォルニア州大気資源局の適用規則を遵守しているインディアンモーターサイクル正規代理店において、慣習上通常の営業時間内に補修するものとします。保証修理により交換した部品は、インディアンモーターサイクルの所有物となります。

米国カリフォルニア州内に限り、排出ガス関連の保証対象部品は、カリフォルニア州排出ガス関連保証部品リストに特に定められています。上記の保証対象部品は次のとおりです。キャブレターとその内部部品、インテークマニホールド、燃料タンク、燃料噴射システム、点火進角機構、クランクケースブリーザー、エアカットオフバルブ、燃料蒸発ガス排出抑制装置付き車両の燃料タンクキャップ、オイルフィルターキャップ、ラジエーターキャップ、燃料/蒸気セパレーター、キャニスター、イグニッションナイター、ブレーカーガバナ、イグニッションコイル、イグニッションケーブル、点火ポイント、コンデンサー、スパークプラグ（初回定期交換前に発生した不具合に限り）、および上記各部品に直接使用するホース、クランプ、継手、ならびにチューブ。保証関連部品は車種ごとに異なるため、上記部品がすべて装着されていない車種や、機能的に同等な別の部品を装着している車種もあります。米国カリフォルニア州内に限り、同州行政法典の規定により、排出ガス浄化装置の緊急修理は、インディアンモーターサイクル正規販売店以外で実施することができます。この場合の緊急事態は、インディアンモーターサイクル正規販売店が合理的な理由で利用できない場合、部品が30日以内に入手できない場合、または修理が30日以内に完了しない場合です。緊急修理においては、どのような交換部品も使用可能です。インディアンモーターサイクルは、診断に要するものを含めた修理費用として、交換対象保証部品のインディアンモーターサイクルによる提示価格を超えない範囲の部品代と、その保証修理に対してインディアンモーターサイクルが認める工数と地域的に適切な時間工賃に準じた作業料を支払います。払い戻しを受けるため、お客様が領収証と故障した部品を保管しておく必要が生じる場合があります。

II. 制限事項

排出ガス浄化装置保証は、下記については適用しません：

A. 下記の事由のいずれかまたは複数により必要となった修理または交換：

- 事故
- 不適切な使用方法
- 不適切に実施された修理または交換作業
- インディアンモーターサイクルに適合せず、性能に悪影響をおよぼす交換用部品またはアクセサリーの使用
- 各種競技または競技関連イベントでの使用。

B. 点検、部品交換、およびその他の作業と、整備に伴い必要となる調整

C. オドメーターの走行距離が改ざんされており、実際の走行距離が容易に判定できないモーターサイクル。

III. 免責条項

- A. この排出ガス浄化装置保証によるインディアンモーターサイクルの保証責任は、インディアンモーターサイクル正規販売店がその営業場所において、慣習上、通常の営業時間内に実施する、材料または製造工程の不具合の補修に限定されます。この保証は、モーターサイクルの使用に関わる不利益もしくは損失、またはインディアンモーターサイクル正規販売店との間のモーターサイクル輸送による不利益および損失については補填しません。インディアンモーターサイクルは、いかなる目的でのインディアンモーターサイクル車両の販売、使用、もしくは使用不能に関連して直接、間接、偶発的、または結果的に生ずる費用、損失または損害について、いかなる賠償責任も負わないものとします。一部の国では、付随的損害または結果損害の免責または制限を認められていないため、その場合は上記制限が適用されません。
- B. 本書に特に記載されたもの以外に、インディアンモーターサイクルが提供する排気ガス浄化装置の明示的な保証はありません。商品性または特定目的適合性の保証を含め、法に定める排出ガス浄化装置保証は、本書記載の排出ガス浄化装置の明示的保証条件に制限されます。上述の内容は、インディアンモーターサイクルが提供する唯一の有効な保証です。一部の国においては、黙示的保証の期間制限が認められていないため、上記の免責条項は適用されません。
- C. このインディアンモーターサイクル排出ガス浄化装置限定保証は、いかなるディーラーも内容の修正を許可されていません。

保証

IV. 法的権利

この保証書は、お客様に特定の法的権利を提供します。また、お客様は州、地域により異なる権利を保有する場合があります。

V. 本保証は、インディアンモーターサイクル条件付き保証に追加するものです。

VI. 補足情報

整備または修理を実施する際、性能と耐久性において同等の非純正交換部品を使用することができます。しかし、インディアンモーターサイクルはこの種の非純正部品について責任を負いかねます。必須点検整備をすべて実施することは、オーナーの責任です。必須点検整備は、必ずインディアンモーターサイクル正規販売店で実施してください。保証期間は、初度登録日を始期とします。

INDIAN MOTORCYCLE

2100 Highway 55

Medina, MN 55340 アメリカ

宛先：Warranty Department (保証部門)

点検整備記録
点検整備記録

点検整備の内容	マイル/キロ メートル	備考	実施者

アイドリングストップ	71	キー番号	7	ショック、リア	
アプルトレー	48	ギアチェンジ	71	プリロードの点検	114
アンチロックブレーキシステム (ABS)	38	ギアポジション表示	31	プリロードの調整	115
イグニッション/ライトキースイッチ	25	クーラントの補充	107	スイッチ	23, 26, 28
インストルメントパネル	29, 32	クラッチレバー	36	ウインカー	26
ウィリーコントロール	38	あそびの調整	123	ハザードスイッチ	26
ウインドシールドのお手入れ (装備車 の場合)	152	給油	124	スイッチ部	48
エアフィルター		クラッチ点検	63	右スイッチ	24
交換	107	クランクケースブリーザーホース	121	左スイッチ	24
エンジン		クルーズコントロール	75	スイングアーム/リアアクスルの点検	118
オイル/フィルター交換	104	クルーズコントロール、キャンセル	76	ステアリングヘッドの点検	121
エンジンエラーコード	33	クルーズコントロールのヒント	75	スパークプラグ	136
エンジンキルスイッチ	28	再開	76	スピードメーター	30
エンジンの保護	154	加速	76	スロットルグリップ	35
エンジンの慣らし運転	67	減速	76	スロットルグリップの点検	122
エンジン停止	74	速度設定	76	タイヤ	59, 133
エンジン回転数	31	クルーズコントロールスイッチ	26	タイヤの残り溝深さ	59, 133
エンジン始動	70	げっ歯類動物 (ネズミなど)	154	タイヤの状態	133
エンジン番号	7	コンソール	22	タイヤ交換	133
オーナーズマニュアルについて	9	コンプライアンスステートメント	8	タイヤ空気圧	59, 133
オーバーヒート警告表示	34	サービス情報	7	タイヤ空気圧の調整	154
オイル交換		サイドスタンド	37	チェーン	
オイル量の点検	58	サイドスタンドの給油	125	アライメント	113
オイル交換要領	104	サスペンション調整		点検	65
オイル量		フロントフォーク	119	調整	113
点検	58	リアショック	116	チェーンの張り	111-112
オイル量の点検	58	サドルバッグ	15	チョコレートキャニスター	122
オドメーター	31	シート		つや消しクリアコートのお手入れ	153
お手入れと点検整備	42	取り付け	135	ドライブスプロケット	
カナダ産業省 ICES-002	8	取り外し	134	点検	64
		シフトペダル	36	ドライブチェーン	
		シフトポイント、推奨	73	アライメント	113

伸びの点検	112	ブレーキレバー、フロント		ライダーへの警告	
張りの規定値	112	給油	127	燃料についての注意	20
点検	65	ブレーキング	74	ライドコマンド	21
調整	113	フロントサスペンション点検	64	アイコンバー	43
トラブルシューティング	147	フロントフォーク		ソフトウェアアップデート	53
トリガースイッチ	28	調整ガイド	119	ボタン	43
トリップメーター	31	フロントフォーク/サスペンションの		概要	41-42
バックミラー	38	点検	118	ライドモード	50
パッセンジャーの乗車	13	フロントブレーキフルード	127	リアサスペンション点検	64
バッテリー	139	フロントブレーキレバー	39	リアショック	
取り付け	140	フロントホイール		調整ガイド	116
取り外し	139	取り外し/点検	131	リアシリンダーの作動停止	34
バッテリーの充電とメンテナンス	140	ヘッドライト		リアブレーキパッド	
バッテリー電圧	32	光軸点検	136	点検	130
ヒューズ		光軸調整	137	リアブレーキフルード	126
交換	144	ヘッドライトカウルの取り外し	137	リアブレーキペダル	39, 125
位置	144	ヘッドライトの取り外し	138	乗車時の高さ	
ヒューズボックス		ホーン	27	点検	114
位置	144	ホイール、フロント		調整	115
フォークオイル	163	取り外し/点検	131	交換部品	80
ブルトウースのペアリング	52	ホイールのアライメント	131	保管中のメンテナンス	154
ブレーキ		ホイールの点検	131	保管場所の準備	153
ブレーキ液量の点検	59	ボルト・ナットの点検	145	保管後の再使用	155
フロントブレーキレバー、給油	127	マップアップデート	53	保証	165
リア	130	ミスファイア(失火)の検出	34	保証情報	7
ブレーキ、フロント		メディアスイッチ	49	停止中の変速	72
ブレーキパッドの点検	129	モーターサイクルのリフトアップ	145	光沢塗装面のお手入れ	152
ブレーキディスク点検/清掃	131	モーターサイクルの洗車	151	冷却水量の点検	106
ブレーキパッドの点検	130	モーターサイクルの輸送	15	冷却系統	106
ブレーキフルード	163	モーターサイクルの駐車	14	加速	74
ブレーキフルードの安全対策	125	モーターサイクルの駐車とカバー	154	地図とナビゲーション	47
ブレーキホース/接続部	125	モーターサイクル騒音規定	170	外気温度	32

M

MFD表示装置.....30

U

USBポート54

最寄りの正規販売店は、
www.indianmotorcycle.com
に記載されています。

INDIAN MOTORCYCLE
2100 Highway 55
Medina, MN 55340 アメリカ
電話: 1-877-204-3697
フランス語: 1-800-268-6334

部品番号9940927-ja 改訂01版
米国にて印刷

